

中部中学校給食配膳室等整備工事 設計図

2025年03月



株式
会社 **アスカ** 総合設計

16 建具工事	① 防火戸 2 見本の製作等 3 防犯建物部品 ④ アルミニウム製建具 ⑤ 網戸等 6 樹脂製建具 ⑦ 鋼製建具 8 鋼製軽量建具	※建具表による 建具見本の製作 建具見本の程度 特殊な建具の仮組 ・適用する (適用箇所は建具表による) ・適用しない 性能等級 外部に面する建具 ・防音ドアセット、防音サッシ ・断熱ドアセット、断熱サッシ ・耐震ドアセット 枠の見込み寸法 表面処理 屋内の建具 結露水の処理方法 水切り板、ぜん板 ○アルミサッシ (防火設備) 個別認定番号 EB-2562 EB-2528-1 ○イースターカーテン 種 類 材 種 網 目 ○防虫網 ・防鳥網 性能等級 外部に面する建具 ・防音ドアセット、防音サッシ ・断熱ドアセット、断熱サッシ ・耐震ドアセット ○片引き防火戸 ○片開き防火戸 (常開) ○両開き防火戸 (常開) 鋼板 材 料 めっき付着量 厚 さ ・JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・JIS G 3317 (溶融亜鉛5%アルミニウム合 金めっき鋼板及び鋼帯) 性能等級 簡易気密型 外部に面する建具の耐風圧性 ・防音ドアセット、防音サッシ ・断熱ドアセット、断熱サッシ ・耐震ドアセット ○片引き防火戸 ○片開き防火戸 (常開) ○両開き防火戸 (常開) 鋼板 鋼板の厚さ 召合せ、緩小口包み板の材質	9 ステンレス製建具 性能等級 簡易気密型 外部に面する建具の耐風圧性 ・防音ドアセット、防音サッシ ・断熱ドアセット、断熱サッシ ・耐震ドアセット 鋼板 (屋外) 鋼板 (屋内) 表面仕上げ ステンレス鋼板の曲げ加工 建具材の加工、組立時の含水率 建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・フラッシュ戸 表面材の合板の種類 合板の種類 樹種・規格等 備 考 ・普通合板 表面の樹種 生地、透明塗料塗り 不透明塗料塗り 板面の品質 接着の程度 ・天然化粧合板 ・特殊加工化粧合板 化粧加工の方法 表面性能 接着の程度 表面板の厚さ ・かまち戸 かまち樹種 見込み寸法 ・ふすま 張りの種別 上張り ・鳥の子 ・新鳥の子又はビニル紙程度 押入の裏側は雲花紙程度 縁仕上 ・塗り縁 ・生地縁 (素地) ・生地縁 (ウレタンクリヤー塗装) 見込み寸法 ・戸ふすま 見込み寸法 ・紙張り障子 見込み寸法 ・金物の種類・見え掛け部の材質等 ※標準仕様書表16.8.1及び適用は建具表による 樹脂製建具に使用する丁香 ※標準仕様書表16.8.3による 握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置 ○建具表による 錠前類 ○建具表による クローザ類 ○建具表による 13 自動ドア開閉装置 自動ドア 性 能 防 錆 センサーの種類 凍結防止 ・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSDL-1 ・DSDL-2 ・SWD-1 ・SWD-1 ・図示 性能 ※標準仕様書表16.10.1による シャッターの種類 ・管理用シャッター 耐風圧強度 ・外壁用防火シャッター 耐風圧強度 ・屋内用防火シャッター ・防煙シャッター 開閉機能による種類 ※上部電動式 (手動併用) ・上部手動式 シャッターのシャッターケース ・設ける ・設けない スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ・JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 ※Z12又はF12 16 軽量シャッター シャッターの種類 ・管理用シャッター 耐風圧強度 ・外壁用防火シャッター 耐風圧強度 ・屋内用防火シャッター ・防煙シャッター 開閉機能による種類 ※上部電動式 (手動併用) ・上部手動式 シャッターのシャッターケース ・設ける ・設けない スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ・JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 ※Z12又はF12 16 軽量シャッター	16 軽量シャッター 開閉形式 ※手動式 ・上部電動式 (手動併用) 耐風圧強度 () N/m² スラットの材質 ・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 (※Z06又はF06) ・JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 (※AZ90) スラットの形状 ・インターロッキング形 ・オーバーラッピング形 セクション材料 による区分 耐風圧 区分 (Pa) 開閉方式 による区分 収納形式 による区分 ガイドレールの材質 ※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラス タイプ ・125 ・100 ・75 ・50 ※バラン式 ・チェーン式 ・電動式 ・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイルフト形 ・バーチカル形 ⑬ ガラス 適用は以下によるほか、ガラスの種類・厚さは建具表による。 ・合わせガラス 品 種 構成種類 性 能 ・フロート合わせガラス ・フロート板合わせガラス ・熱線吸収、フロート板合わせガラス ・網入磨き合わせガラス ・網入磨き合わせガラス ・熱線吸収板合わせガラス ・熱線吸収板合わせガラス ・型強化ガラス ・型強化ガラス ・強化ガラス 材料板ガラスによる種類 種 類 性 能 ○フロート強化ガラス ○フロート強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス ・型強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス 品 種 性 能 色 調 鉄鋼面 ・ブルー・グレー・ブロンズ ・複層ガラス 品 類 断熱性 日射熱遮へ性 ○断熱複層ガラス ○1種 ・2種 ・3種 ・4種 ・5種 U1 U2 U-3-1 U-3-2 E4 E5 ・日射熱遮へ性複層ガラス ・網入り板ガラス 品 類 ・網入り板ガラス 反射被膜面 ・内面 ・外面 映像調整 ・行わない ・行う ・倍強度ガラス 材料板ガラスによる種類の名称 色 調 ・フロート倍強度ガラス ・フロート倍強度ガラス ・熱線吸収倍強度ガラス ・グレー ・ブルー ・ブロンズ ガラスの留め材及び溝の大きさ 建具の種類 ガラス留め材 ガラス溝の大きさ (mm) アルミニウム製 ○シーリング材 ・ガスケット ○グレイジングチャンネル形 鋼製及び鋼製軽量 ○シーリング材 ステンレス製 ・シーリング材 ・網入りガラス ・シーリング材 表面形状 呼び寸法 厚さ 色 調 クリア 乳白 平積み 目地幅 (mm) 曲面積み 伸縮調整 目地 (mm) 防火性能 ・125×125 ・160×160 ・125 ・200×200 ・320×320 ・250×125 ・320×160 80 95 95 95 95 80 95 ※8～15 ※15以下 ※6以上 ※6m以下 ごとに 10～25 ※図示 ※無し ・有り 曲面積みの曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。 壁用金属枠及び補強材 ・設ける (形状 ・設けない 力骨 材質 ※ステンレス鋼 (SUS 304) 寸法 ※径5.5mm 形状 ※はしご形状複筋及び単筋 化粧目地モルタルの色 金属製化粧カバー 材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製 寸法 ※図示 形状 ※図示 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法)
------------	---	---	---	---

7 合成樹脂塗床

種 類

施工箇所

工 法

仕上げの種類

・厚膜型塗床材
・弾性90樹脂系塗床材

・厚膜型塗床材
・100樹脂系塗床材

・薄膜型塗床材
・700樹脂系塗床材
(JIS K 5970)

合成樹脂塗床材のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外
・ワゴンプール床 薄膜型エポキシ樹脂系防塵塗料 ケミクリートEPカラー (ABC商會) 防汚工法仕上げ同等品

種 類

JIS記号

厚さ (mm)

規格等

・硬質木毛セメント板

・中質木毛セメント板

・普通木毛セメント板

・硬質木片セメント板

・普通木片セメント板

・けい酸珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

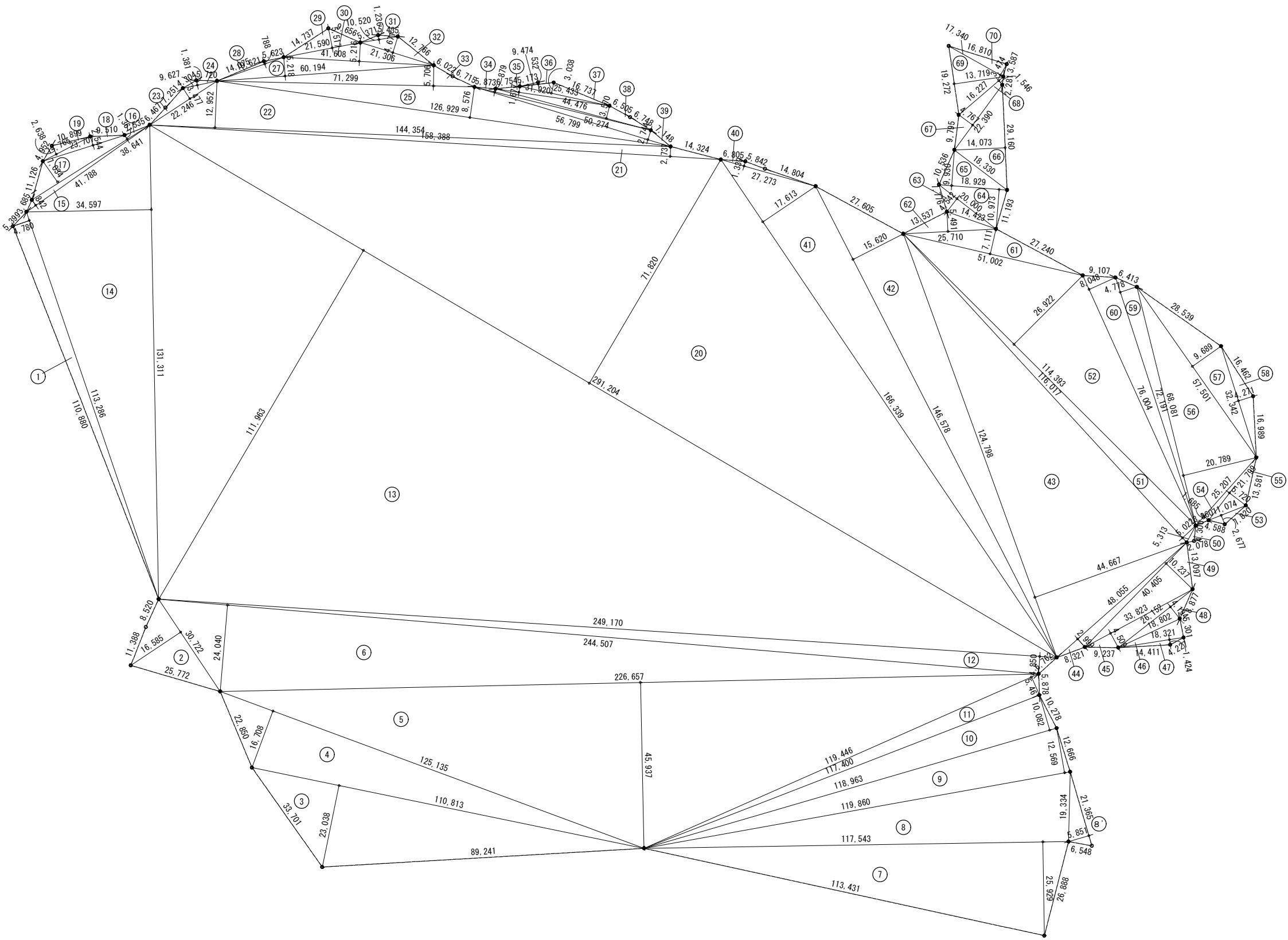
・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻土板

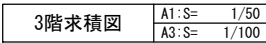
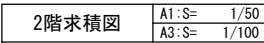
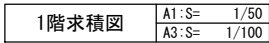
・0.8FK珪藻土板

・0.8FK珪藻



敷地求積図
A1:S= 1/600
A3:S= 1/1200

番 号	(底辺)		(高さ)		面 積
1	113.286	×	4.780	÷	270.754
2	30.722	×	16.565	÷	254.455
3	110.820	×	23.037	÷	1276.480
4	125.135	×	16.708	÷	1045.378
5	226.657	×	45.937	÷	5205.971
6	244.507	×	24.040	÷	2938.974
7	117.543	×	25.929	÷	1523.886
8	119.860	×	18.946	÷	1135.433
8'	21.365	×	5.851	÷	62.503
9	119.860	×	12.569	÷	753.260
10	118.963	×	10.082	÷	599.692
11	119.446	×	5.461	÷	326.147
12	249.169	×	4.850	÷	604.235
13	271.204	×	111.986	÷	15185.526
14	131.311	×	34.597	÷	2271.483
15	41.788	×	1.842	÷	38.487
16	38.641	×	1.361	÷	26.295
17	31.259	×	7.034	÷	109.938
18	23.707	×	2.544	÷	30.155
19	14.765	×	2.638	÷	19.475
20	271.204	×	71.073	÷	9637.641
21	158.388	×	2.727	÷	215.962
22	144.354	×	12.952	÷	934.837
23	22.246	×	3.470	÷	38.597
24	9.627	×	1.381	÷	6.647
25	126.929	×	8.576	÷	544.271
27	60.194	×	5.218	÷	157.046
28	19.621	×	0.788	÷	7.731
29	21.590	×	5.517	÷	59.556
30	41.608	×	5.216	÷	108.514
31	10.520	×	1.236	÷	6.501
32	21.306	×	4.671	÷	49.760
33	71.299	×	5.706	÷	203.416
34	50.274	×	0.879	÷	22.095
35	31.920	×	1.677	÷	26.765
36	9.474	×	0.532	÷	2.520
37	25.433	×	3.038	÷	38.633
38	44.476	×	2.570	÷	57.152
39	56.799	×	2.744	÷	77.928
40	27.273	×	1.339	÷	18.259
41	166.339	×	17.613	÷	1464.864
42	146.578	×	15.620	÷	1144.774
43	124.798	×	44.667	÷	2787.176
44	48.055	×	2.999	÷	72.058
45	33.823	×	4.509	÷	76.254
46	18.802	×	5.158	÷	48.490
47	18.321	×	1.424	÷	13.045
48	26.152	×	4.194	÷	54.841
49	40.405	×	10.237	÷	206.813
50	5.313	×	1.607	÷	4.269
51	116.017	×	5.022	÷	291.319
52	114.393	×	26.922	÷	1539.844
53	11.074	×	2.677	÷	14.823
54	25.207	×	1.685	÷	21.237
55	21.799	×	5.720	÷	62.345
56	68.081	×	20.789	÷	707.668
57	57.501	×	9.689	÷	278.564
58	32.342	×	4.271	÷	69.066
59	72.191	×	4.778	÷	172.464
60	76.004	×	8.048	÷	305.840
61	51.002	×	7.111	÷	181.338
62	25.710	×	5.491	÷	70.587
63	20.000	×	4.542	÷	45.420
64	18.929	×	10.973	÷	103.854
65	18.929	×	9.930	÷	93.982
66	29.160	×	14.073	÷	205.184
67	22.390	×	4.767	÷	53.367
68	16.227	×	1.546	÷	12.543
69	19.272	×	13.719	÷	132.196
70	17.385	×	3.474	÷	30.198
合 計					56156.781
敷地面積			(改め)		56156.78 m ²



容積率、建ぺい率				
容積率	8,805.80	÷	56,156.78	15.68%
建ぺい率	5,881.75	÷	56,156.78	10.47%

仕上共通事項（凡例項目の・に○印を付した項目を採用する）					
屋上	・押えコンクリートは、特記なき限り、普通コンクリート厚80mm以上とし、ワイヤメッシュ(6Φ×100網目)を入れる	屋外	○屋外の軒天井及びビードル天井については、特記仕様書14.4.4に規定する天井補強を行う。	壁	○大面積ビードル壁及び異種地下部分については、必ず亀裂誘発目地を設置する。
	・押えコンクリートの伸縮目地はφ3,000mm以内とし、機械基礎等の防水立上り端部にも必ず設ける。		・沿岸地域(海岸より1km以内)の軒天井は、軽鉄下地、ビス、タッカー類も全てステンレス製を使用する(対害対策)。		・機械室に隣接して居室が配置される場合、剛性が高い材料を使用し、LGS下地は千鳥、内部GW充填とする。(壁揺れの対策)
	・屋上及びバルコニーの水勾配は、躯体側とする。		・沿岸地域では海水で表面劣化する為、外部用岩綿吸音板は使用しない。		○男女の便所およびシャワー室が隣接する場合、遮音壁(ビードル両面2枚貼、内部GW充填)を採用する。
	・屋上、フラス、庇屋根等の防水工法は、排水ルートを必ず2系統以上確保する。		・浴室の天井材はロックウール系の防湿加工した製品は使用しない(湿気を吸って脱落)。		・外壁に接するガラスのアンカボルトは内部結露防止のため、樹脂製のものを使用する。
外壁	・屋根下断熱材は現場発泡断熱材 t30吹付とする。	天井	・プール、浴室、脱衣室等が多い室は、天井下地を高腐食仕様(SUS+リバー)とする。		・塗装仕上の場合、穴明きコーナビードルを使用する。
	・外壁のコンクリート面が化粧仕上げ、又は吹付け塗装仕上等の場合は打増し20mmを行う。		・大規模空間の天井は、特記仕様14.4.4に規定する耐震補強を行う。		・電気室出入口及びEPS間仕切下部は止水対策として、躯体立上り(H=100程度)を設ける。
	・タイル張り外壁の亀裂誘発目地は、必ず躯体目地位置と一致させる。		○仕上げはFLからの仕上高さを示す。特記なき限り、±0とする。		○LGS壁のビードル貼はジョイント施工とし、二枚貼りの場合はジョイントは重ならない様に施工する。
	・層間ムブメントによるタイル剥落防止のため、タイル厚の1/3を超える深目地は行わない。		○躯体高はFLからの躯体高さを示す。特記なき限り-30とする。		○ジョイントは寒冷紗貼りの上パテしごとし、平滑に仕上げる。GL工法もこれによる。ビードルはテーパージェッジを使用する。
	○ALC板、押出し成型タイル板にタイル張りは、温度変化による反りに追従できないため原則として行わない。	床	・PS、EPS、DS内の床仕上は特記なき限り防塵塗装仕上とする。	その他	・石膏ボードは、特記なき限り、不燃仕様とする。
	○乾式外壁(ALC、成型板等)目地からの侵入水対策として、最下部に水切り、水抜きを設置する。		・コンクリートにタイルベットの直張りすると、7割分と化合し異臭発生するため避ける。		・乾式遮音間仕切が、他壁及び躯体等と取合う部分には遮音用シールを施す。
	○化粧コンクリート打放し・増打外部t20(特記なき限り)。コン跡、樹脂モル充填、直仕上。		(直張りする場合は、バッキングにPVCを使用していないものを使うこととする。)		・地下階内部コンクリート壁面は15m/m増打ちとする。
	○型枠はワレシ塗装2回塗。フォーム、バレーターの割付を図示又は現場指示に基づき行う。		・2階以上のトイレは、長尺シートの下地には簡易防水を施すこと。		○品質グレード欄に記載された建築材料名等については、原則として同等品以上のものを採用する。
	○打設時の人員配置、バレータ計画を指示により行う。		・機械室の床スラブは220mm厚とし、下階に居室等静けさを要求する室がくる場合は浮き床構造とする。		・外部及び水廻りに用いるPBは、耐水仕様とする。(表面のGB-RをGB-Sとする)
	○屋外に面する壁の内側は現場発泡断熱材 t30吹付とする。		・機械室の上階に居室が配置される場合の天井スラブ厚は200mm以上とする。		・カーテンの高さは、天井吊の場合は、天井高+レール高さ(特記無き限り400)-50。天井付の場合、天井高+50とする。
			○仕上表の躯体高は、構造の躯体レベルを示す。		○カラム・柱の添加した建材は使用しない。
			・ビニールシートは、特記なき限り、溶接工法とする。		・カーテン、カーペット、暗幕等には「防災」表示を行う。(消防法 第八条の三 第二項による)

符号凡例									
ALC	軽量気泡コンクリートパネル	GL	ガルバニウム鋼板	PR	ピクチャーレール	AD	アルミ製ドア	LSD	軽量鋼製ドア
m	モルタル	LGS	軽量鉄骨下地	SB	スクリーンボックス	SD	スチール製ドア	F	フスマ
c	コンクリート	GW	グラスウール	KB	カーテンボックス	SW	スチール製窓	SLW	スライディングウォール(移動間仕切壁)
SP	構造用合板	CR	カーテンレール	AW	アルミ製窓	SS	スチール製シャッター	SF	スチール製3方枠
TB	トイレブース	WB	ホワイトボード	TL	トップライト	DS	ダクトスペース		

認定番号リスト									
石膏ボード t 9.5	QM-9828、NM-0441	有孔化粧石膏ボード t 9.5	NM-4244 (1)	強化石膏ボード t 21	NM-8615	グラスウール保温板 t 25	NM-8605	硬質木片セメント板(屋根耐火30分)	FP030RF-9081、NM-0597
石膏ボード t 12.5、t 15	NM-8612、NM-8619	普通硬質石膏ボード t 9.5、t 12.5	NM-1908	化粧繊維混入けい酸カルシウム板 t 6.0	NM-8579	化粧グラスウール保温板 t 50	NM-8610	珪酸カルシウム板 t 6.0	NM-8576
化粧石膏ボード t 9.5	QM-0524、NM-1864	シージング石膏ボード t 12.5	QM-9826	有孔繊維混入けい酸カルシウム板 t 6.0	NM-8578	仕上塗料EP、SOP、AE、MP、FE等		ビニルクロス(GB-Rt12.5下地)	NM-3991
化粧石膏ボード t 12.5	NM-0127、NM-0128	不燃化粧合板 t=3.0	NM-2183	ロックウール化粧吸音板(岩綿吸音板)	NM-8599	仕上塗料EP、SOP、AE、MP、FE等	不燃基材QM-9816	硬質塩ビシート	NM-0974

仕上材凡例									
g	構造用合板	HF	硬質木片セメント板	SP	構造用合板	GB-D	化粧石膏ボード	DP	耐候性塗料アクリルシリコン樹脂
FK	ケイ酸カルシウム板	FK-P	ケイ酸カルシウム板(穴明き)	GB-R	石膏ボード	GB-S	シージング石膏ボード	WP	自然塗料
FK-D	化粧ケイ酸カルシウム板(内装用)	DR	ロックウール化粧吸音板	GB-F	強化石膏ボード	SOP	合成樹脂調合ペイント	HW	硬質木毛セメント板
HF	硬質木片セメント板	FOC	フッ素クリア樹脂塗	EP	エマルジョンペイント				

内部仕上リスト（記載事項を使用する）															
使用材料は全て F☆☆☆☆ 該当品とする。小屋裏もF☆☆☆☆とします。															
床			壁			天井			巾木			EXP. J金物仕様			
記号	仕上	品質グレード	記号	仕上	品質グレード	記号	仕上	品質グレード	記号	仕上	品質グレード	記号	仕上	記号	仕上
F-1	防滑長尺シート t2.0		W-1	FK t8.0 EP		C-1	FK t6.0 EP		B-1	FKt6.0の上、床材立上げ	塩ビ 取合い見切共	EXP. J(屋根+外壁)	7mm製 クリアス100 1時間耐火		
F-2	長尺シート t2.0		W-2	SUS板 t0.8 FK t8.0		C-2	GB-D t9.5		B-2	ビニル巾木		EXP. J(外壁+外壁)	7mm製 クリアス100 1時間耐火		
			W-3	FK-D t6.0 GB-S t12.5								EXP. J(床+床)	ステンレス製クリアス100		
												EXP. J(壁+壁)	7mm製 クリアス100		
												EXP. J(天井+天井)	7mm製 クリアス100		

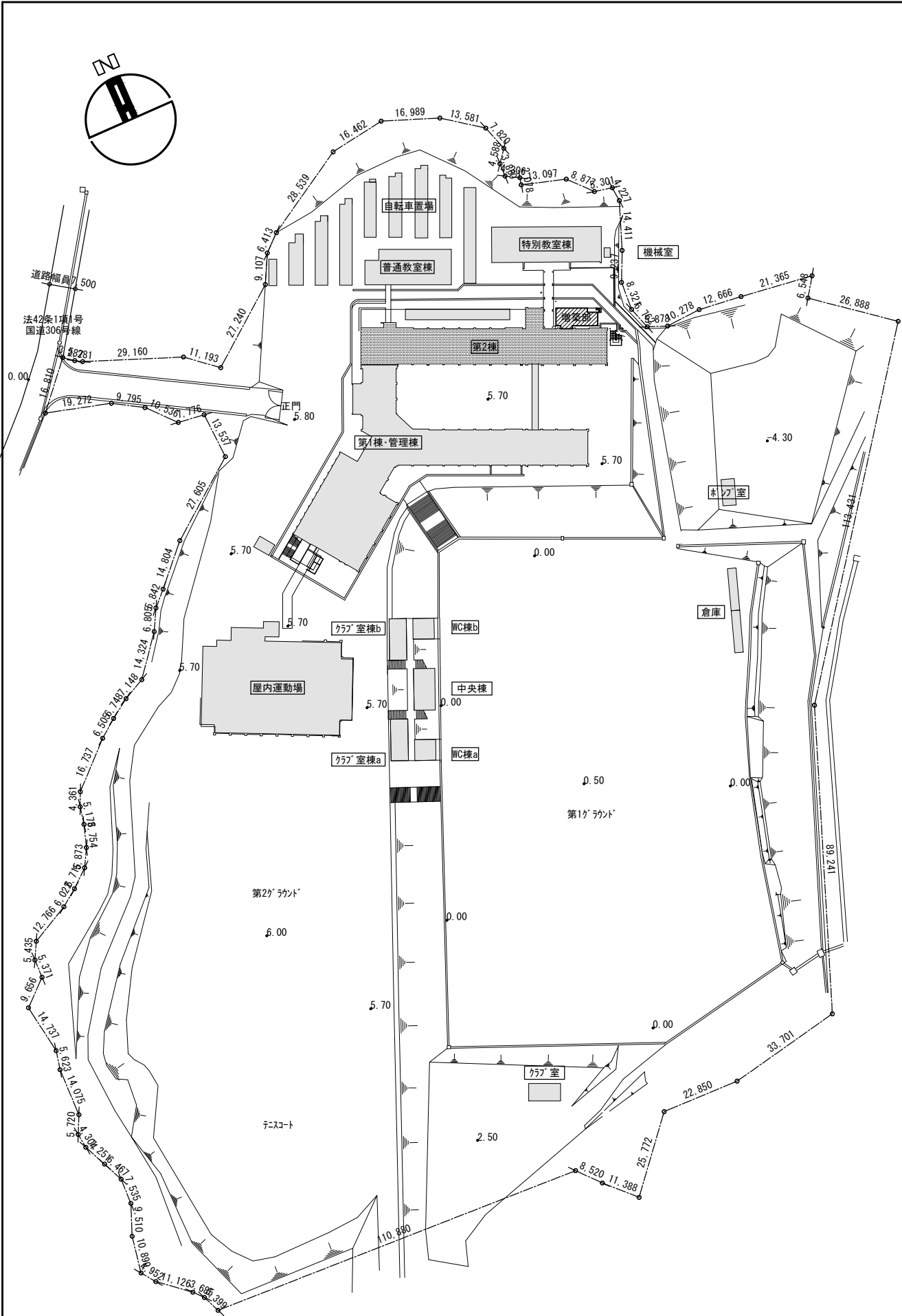
床下地			間仕切り			天井下地			見切材凡例					
記号	仕上	品質グレード	記号	仕上	品質グレード	記号	仕上	品質グレード	記号	仕上	品質グレード	記号	仕上	品質グレード
s1	モルタルリソグ材		L-1	LGS下地	※特記なき限り外壁面LGS50、その他LGS65	L-3	M19		FZ-1	床見切 SUS HL 6×12		Z-1	面台:SUS 200×20	WZ-1 腰壁+キング見切 5×10
m	モルタル補修		L-2	LGS+GB-F t21+21下地	※特記なき限り外壁面LGS50、その他LGS65									WZ-2 ストレッチ+摺 H150
			L-101	モルタル補修					GZ-1	天井コーナ見切塩ビ製				WZ-3 三方枠 SUS 25×100
			L-102	下地調整										WZ-4 二方枠 SUS 25×100

主要構造部リスト 令120条により、主要構造部は耐火構造であるか又は不燃材料とする。									
名称	要求仕様	使用材料	認定番号	名称	要求仕様	使用材料	認定番号	名称	要求仕様
外壁	耐火構造	ALCt120 複層塗材E	FP060NE-9293(1時間耐火構造)	柱	1時間耐火	鉄骨+25mm吹付けロックウール被覆	FP060CN-9460	柱	1時間耐火
壁穴区画	1時間耐火	ALCt120	告示第1399号(平12.5.30)(1時間耐火構造)	梁	1時間耐火	鉄骨+25mm吹付けロックウール被覆	FP060BM-9408		
屋根	30分耐火構造	GLカータイフレート3.2 裏打材	FP030RF-9326(30分耐火構造)	階段	準不燃材料以上		告示1400号第1n(不燃材料)		

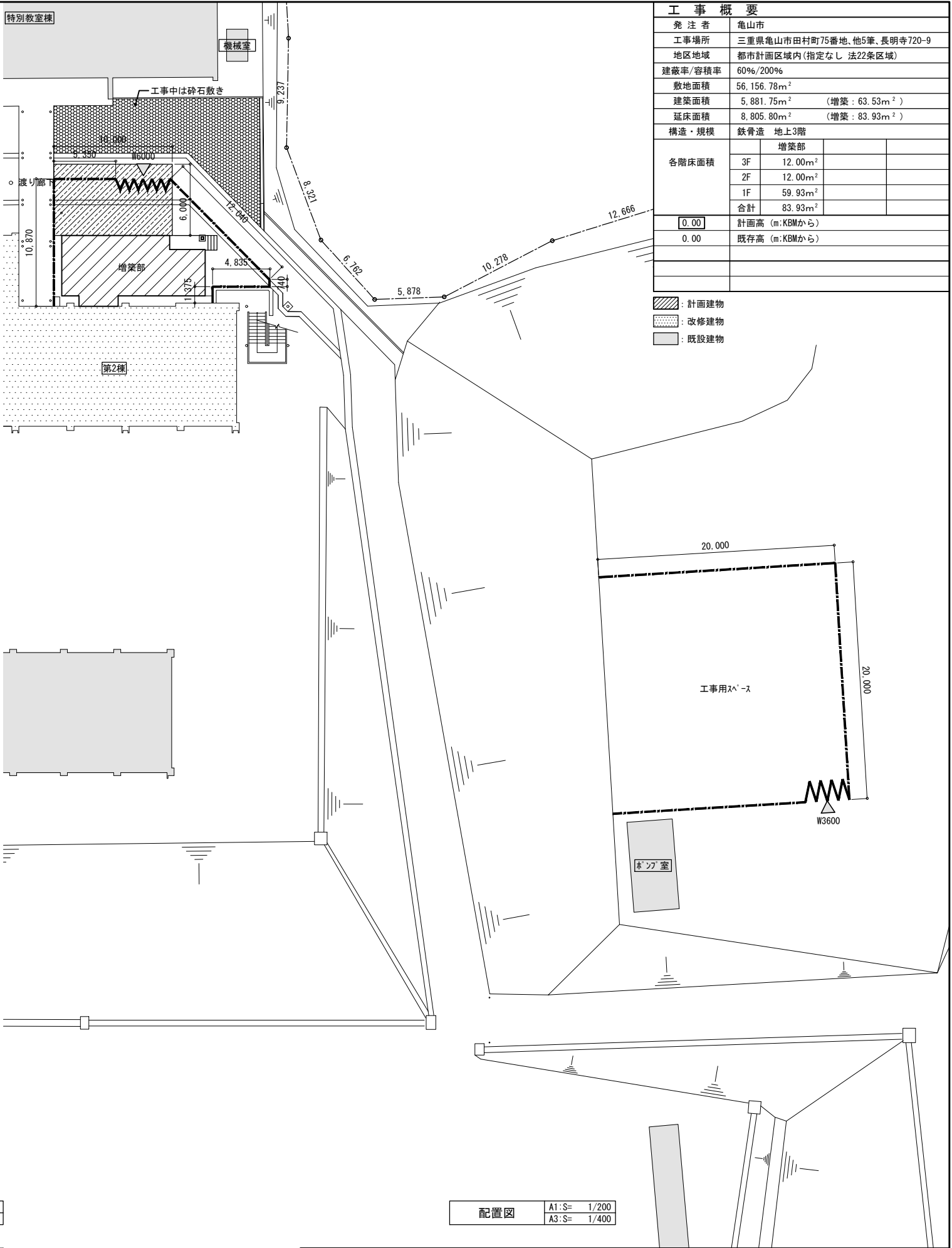
外部仕上表（記載事項を採用する）											
部位	符号		部位	符号		部位	符号		部位	符号	
屋根	Y-1	屋根:折板 GLｶｰ t0.8 H166 平ﾀｲﾌﾟﾚｰﾄ3.2 妻ﾌﾚｰﾑ	外壁	G-1	外壁:ALC t120 防水型複層塗材E 凹凸状 水系ﾌｯ素	軒天	OC-1	軒天:M25 FK t6.0 目地処理の上、EP	外部床	GF-1	床:ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞ押え
				G-101	外壁:下地調整の上、防水型複層塗材E 凹凸状 水系ﾌｯ素			GF-2		犬走り:ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞ押え	
		G-102		外壁:ﾓﾙﾀﾙ補修の上、防水型複層塗材E 凹凸状 水系ﾌｯ素	OCZ-1		ALC下り壁受材:7ﾎﾟﾙﾑ 120×30	GF-3		2000×200 垂鉛ﾏｯｷﾝｸﾞ ｼﾚｰﾅｸﾞ 細目 排水溝65φ	
	YZ-1	水上化粧ﾌﾚｰﾑ:GLｶｰ					GF-4	段鼻ﾀｲﾙ			
	YZ-2	ｸﾗﾌﾞ 包み:GLｶｰ t0.4	GZ-1	巾木:ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞ仕上							
	YZ-3	水下化粧ﾌﾚｰﾑ:GLｶｰ	GZ-2	巾木取合水切:GLｶｰ t0.6							
	YZ-4	壁取合金物:GLｶｰ t0.4	GZ-3	柱:窯業ﾀｲﾍﾞｰｲﾝｸﾞ t16(縦張) M19							
	YZ-5	軒樋:塩ビ角型 W120 ｶｰ FE SUS掴み金物	GZ-4	柱:ﾌﾗｽﾀｲﾙ t40 H113	断熱材	断熱-1	屋根:硬質ｸﾚﾅﾝﾌｫｰﾑ吹付 t50	その他			
	YZ-6	壁樋:VU塩ビ管 φ100 ｶｰ SUS掴み金物φ1200				断熱-2	外壁:硬質ｸﾚﾅﾝﾌｫｰﾑ吹付 t50				
	YZ-7	落し口:VU塩ビ管 φ100ｶｰ				断熱-3	天井:GW t100 24kg/m ³				
	YZ-10	軒先水切り面戸:GLｶｰ t0.4				断熱-4	土間下:ﾀﾞｲﾚｸｼｮﾝﾌｫｰﾑ t25				

工事名称 中部中学校給食配膳室等整備工事						図面名称 仕上表1						縮尺 A1: non A3: non
株式会社 アスカ 総合設計						管理建築士 一級建築士 第242755号 矢野 孝義		設計者 一級建築士 第00981号 谷川 精一	設計者	構造設計者	業務年月 (2025)R7年03月 7月16日 2024a011-0407am	図面番号 A — 08
三重県松阪市伊勢寺町580-4 一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-1287号												

内部仕上表																																											
階		区分	記号	床仕上	仕上高	記号	巾木仕上	高さ	記号	腰壁仕上	高さ	下地	記号	壁仕上	下地	区分	記号	天井仕上	下地	区分	廻縁	天井高	柱型	梁型	見切材等	カーブ・ラインド ボックス・レール	備考																
			記号	下 地	躯体高																																						
1階	配膳室	増築	F-1	防滑長尺シート t2.0	±0	B-1	FKt6.0の上、床材立上げ	150	W-2	SUS板 t0.8 FK t8.0	1,140	L-1・L-2	W-1	FK t8.0 EP	L-1・L-2	難燃	C-1	FK t6.0 EP	L-3	不燃	塩ビ突付け	2,700	※2	—	WZ-1・Z-1		消火器BOX																
			sl	塩化ビニルリング材	-10																																						
2階	ワゴンプール	増築	F-1	防滑長尺シート t2.0	±0	B-2	ビニル巾木	100	W-2	SUS板 t0.8 FK t8.0	1,000	L-1・L-2	W-1	FK t8.0 EP	L-1・L-2	不燃	C-1	FK t6.0 EP	L-3	不燃	塩ビ突付け	2,700	※2	—	WZ-2																		
			sl	塩化ビニルリング材	-10																																						
3階	ワゴンプール	増築	F-1	防滑長尺シート t2.0	±0	B-2	ビニル巾木	100	W-2	SUS板 t0.8 FK t8.0	1,000	L-1・L-2	W-1	FK t8.0 EP	L-1・L-2	不燃	C-1	FK t6.0 EP	L-3	不燃	塩ビ突付け	2,700 2,850	※2	—	WZ-2・CZ-1																		
			sl	塩化ビニルリング材	-10																																						
既設 1階 2階 3階	廊下	改修前		長尺シート	±0		モルタルEP	100						モルタル下地の上、EP				GB-D t9.5【一部撤去】																									
		改修後	F-1	防滑長尺シート t2.0	±0	B-2	ビニル巾木	100		※1			W-1	FK t8.0 EP	L-101・L-102		C-2	GB-D t9.5								不燃	既存仕上合わせ	2,700	※2	—	WZ-3・WZ-4		既存仕上色合わせ										
			m	モルタル補修																																							
※1 腰壁仕上は特記なき限り壁仕上に同じ。																																											
※2 柱型仕上は特記なき限り壁仕上に同じ。																																											
法チェック																																											
階数	室 名	室面積 (S)㎡	建具			採光										換気								排煙(建築基準法施行令第116条の2)								備 考											
			番号	W	H	必要採 光面積	建具番号	有効採光面積算定					採光補 正係数	有効採光 面積	合 計	判 定	採光補正係数 A =d/h×6-1.4、D=7m					必要換 気面積	建具番号	有効換気面積算定					有効換気 面積	合 計	判 定												
						(S/7)		W	×	H	×	個数						d(最小) h(最大) A				補正值	(S/20)		W	×	H	×	個数					(S/50)		W	×	H	×	個数			
1F	配膳室 コンテナ置場	52.92	AD-01	1900	2000	7.56		1.900	×	2.000	×	1	3.00	11.40	24.72	OK	十分な離隔距離					→ 3.00	2.65		1.700	×	2.000	×	1	3.400	5.32	OK	1.06		1.700	×	2.000	×	1	3.40	4.37	OK	
			AW-01	1780	1500			1.780	×	1.500	×	1	3.00	8.01											0.790	×	1.500	×	1	1.185					0.790	×	0.760	×	1	0.60			
			AW-02	1180	1500			1.180	×	1.500	×	1	3.00	5.31											0.490	×	1.500	×	1	0.735					0.490	×	0.760	×	1	0.37			
	廊下	3.21				0.46										非居室						0.16								非居室	0.06								非居室				
2F	ワゴンプール	8.52				1.22										非居室						0.43								非居室	0.17								非居室				
3F	ワゴンプール	8.52				1.22										非居室						0.43								非居室	0.17								非居室				
共通	給食EV	3.48				0.50										非居室						0.17								非居室	0.07								非居室				



配置図 A1:S= 1/750
A3:S= 1/1500



配置図 A1:S= 1/200
A3:S= 1/400

凡 例			
	仮囲い(角波鋼板H=2000)	開口W	バ ー ン
	工事車両出入口		
	敷鉄板		

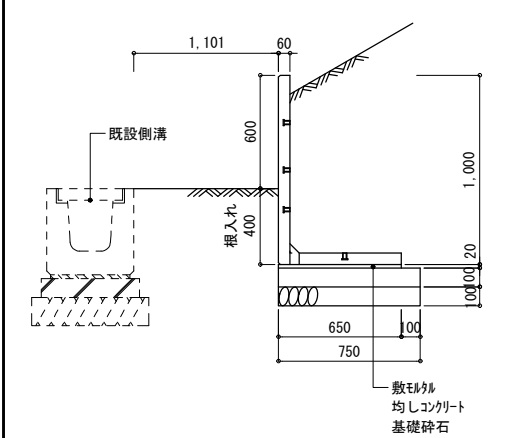
※歩行者と工事車両動線が重なる渡り通路は、安全確保のためのガードンを常駐配置とする。

工事名称				図面名称				縮尺 A1: 1/750 A3: 1/1500	
中部中学校給食配膳室等整備工事				全体配置図、仮設図					
株式会社 アスカ 総合設計		管理建築士 一級建築士 第242755号 矢野 孝義	設計者 一級建築士 第90981号 谷川 精一	設計者	構造設計者	業務年月 (2025)R7年03月 7ヶ月未満 2024a011-0409em	図面番号 A - 10		

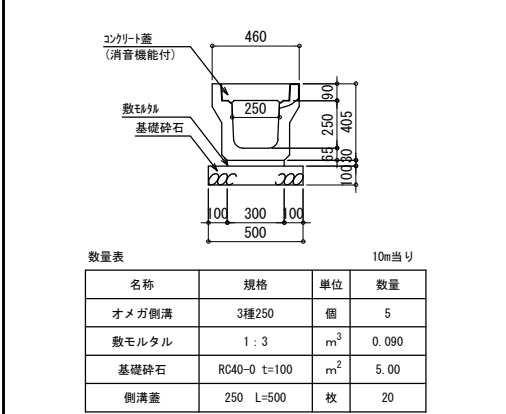
凡 例				
記 号	凡 例	内	撤 去 数 量	新 設 数 量
		土	245.7㎡	
		緑石	36.4m	
1		アスファルト舗装		165.6㎡
2		コンクリート擁壁 L2000		16.8m
3		CB2段積み		12.7m
4A		落ち蓋式側溝250 コンクリート蓋		9.0. m
4B		道路横断側溝250 グレーチング 蓋		2.0. m
5		上下式SUSﾊﾞﾘｰｶｰ (SUSﾌｪｰﾝ付)		2ヶ所

- : 計画建物
- : 改修建物
- : 既設建物

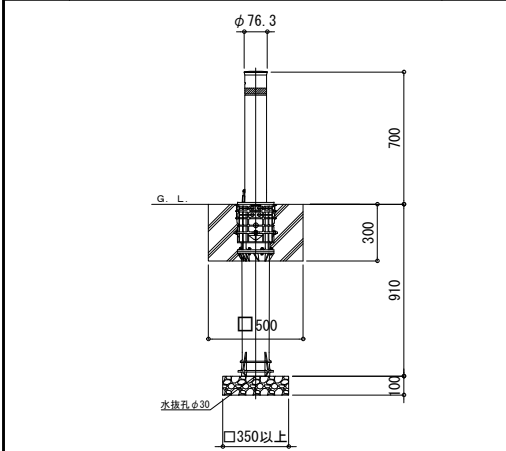
2	L型擁壁 L2000	1/20
---	------------	------



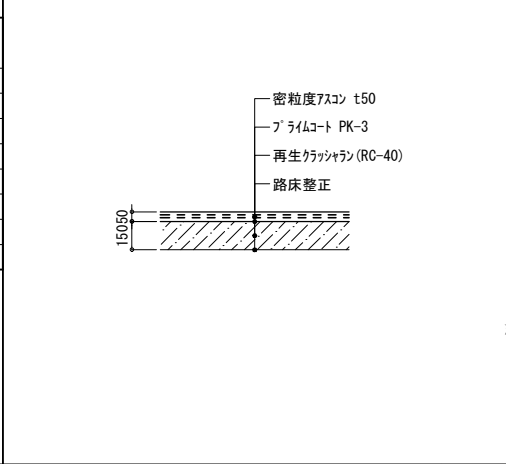
4A	落ち蓋式側溝250 コンクリート蓋	1/20
----	-------------------	------



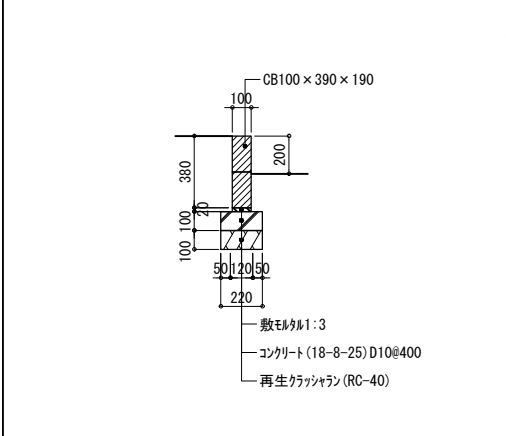
5	上下式SUSﾊﾞﾘｰｶｰ (SUSﾌｪｰﾝ付) L3,800	1/20
---	--------------------------------	------



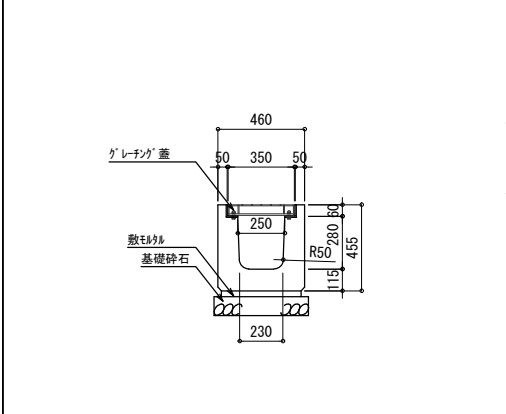
1	アスファルト舗装	1/20
---	----------	------



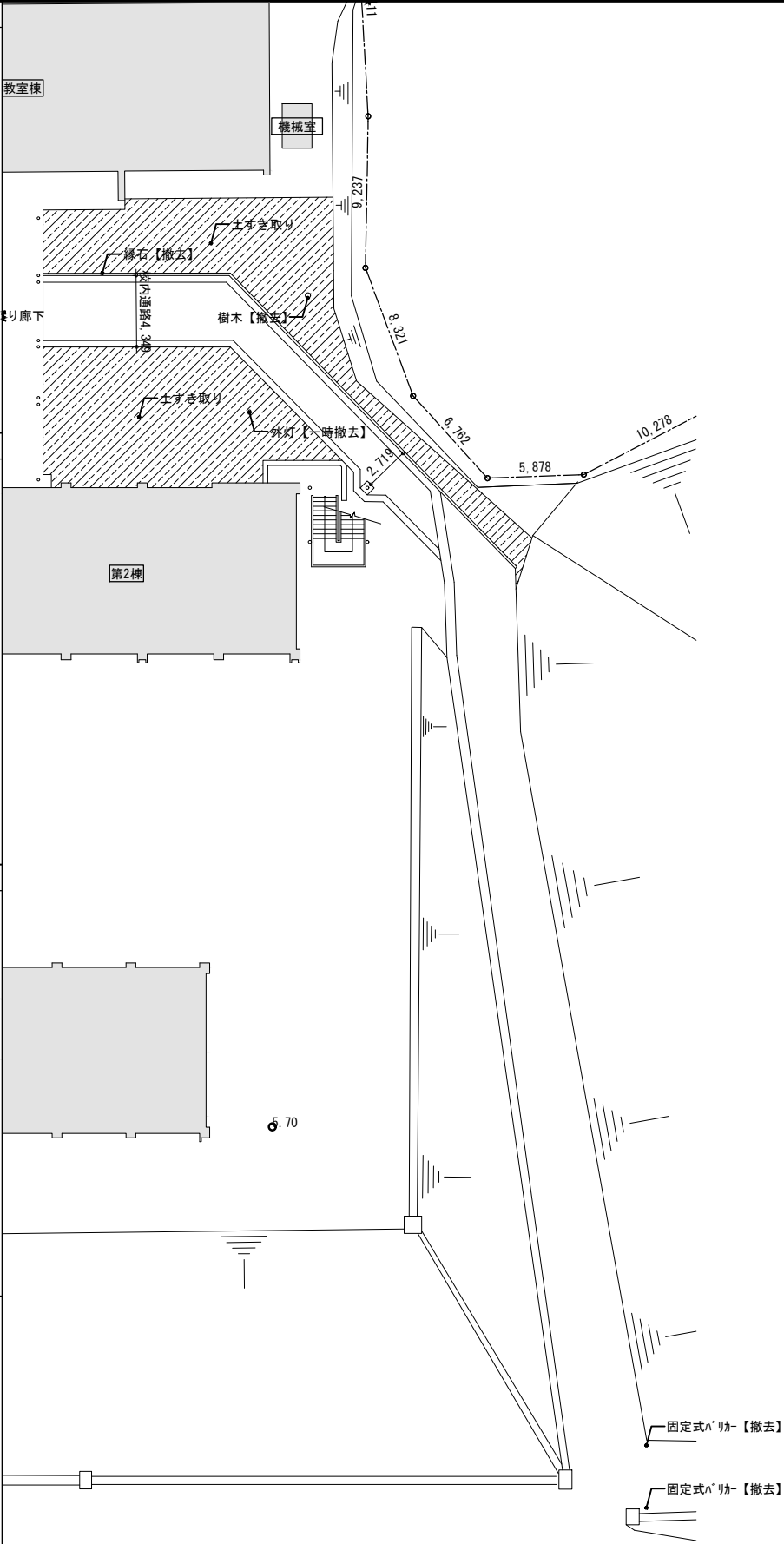
3	CB2段積み	1/20
---	--------	------



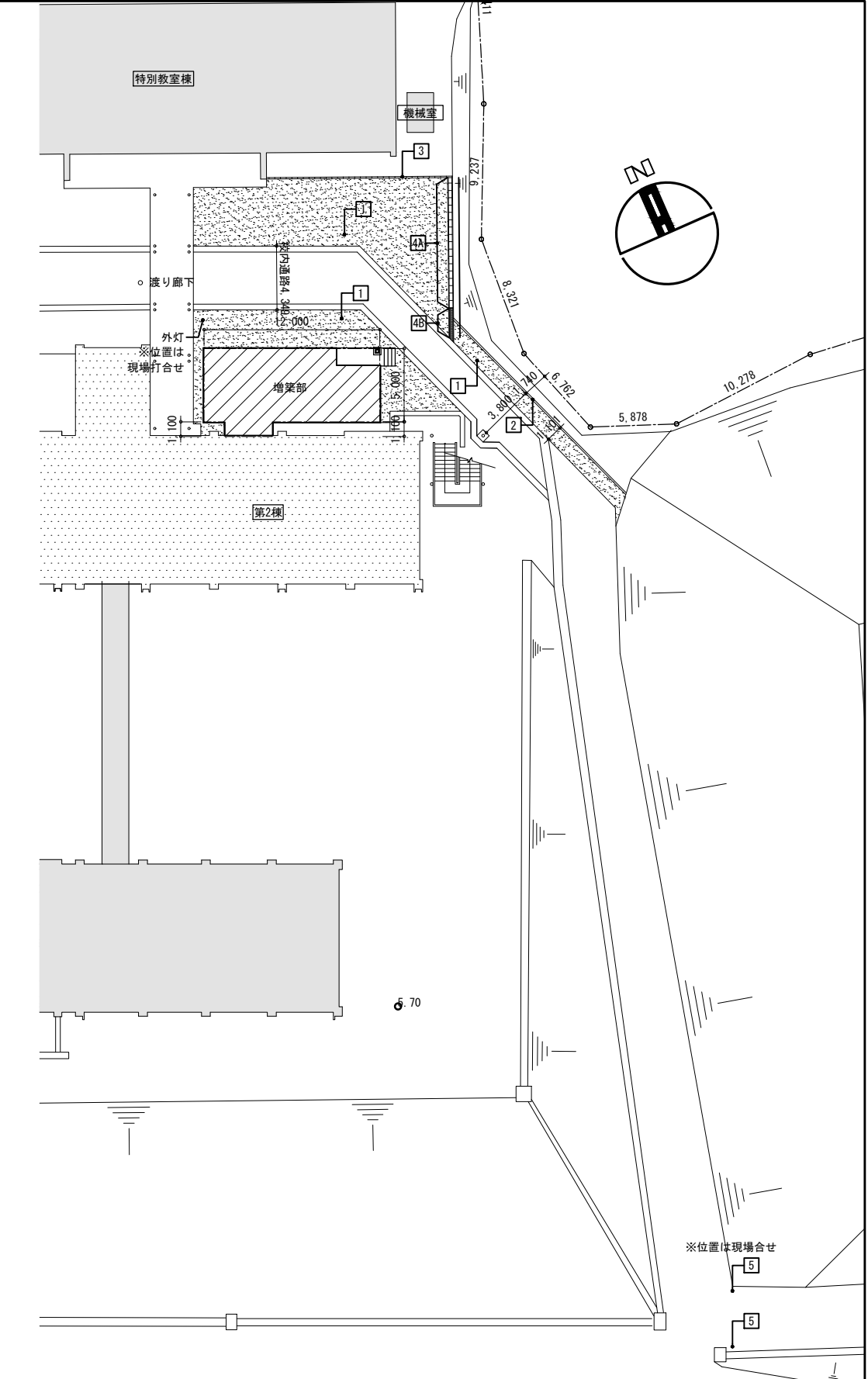
4A	道路横断側溝250 グレーチング 蓋	1/20
----	--------------------	------



5	上下式SUSﾊﾞﾘｰｶｰ (SUSﾌｪｰﾝ付) L3,800	1/20
---	--------------------------------	------

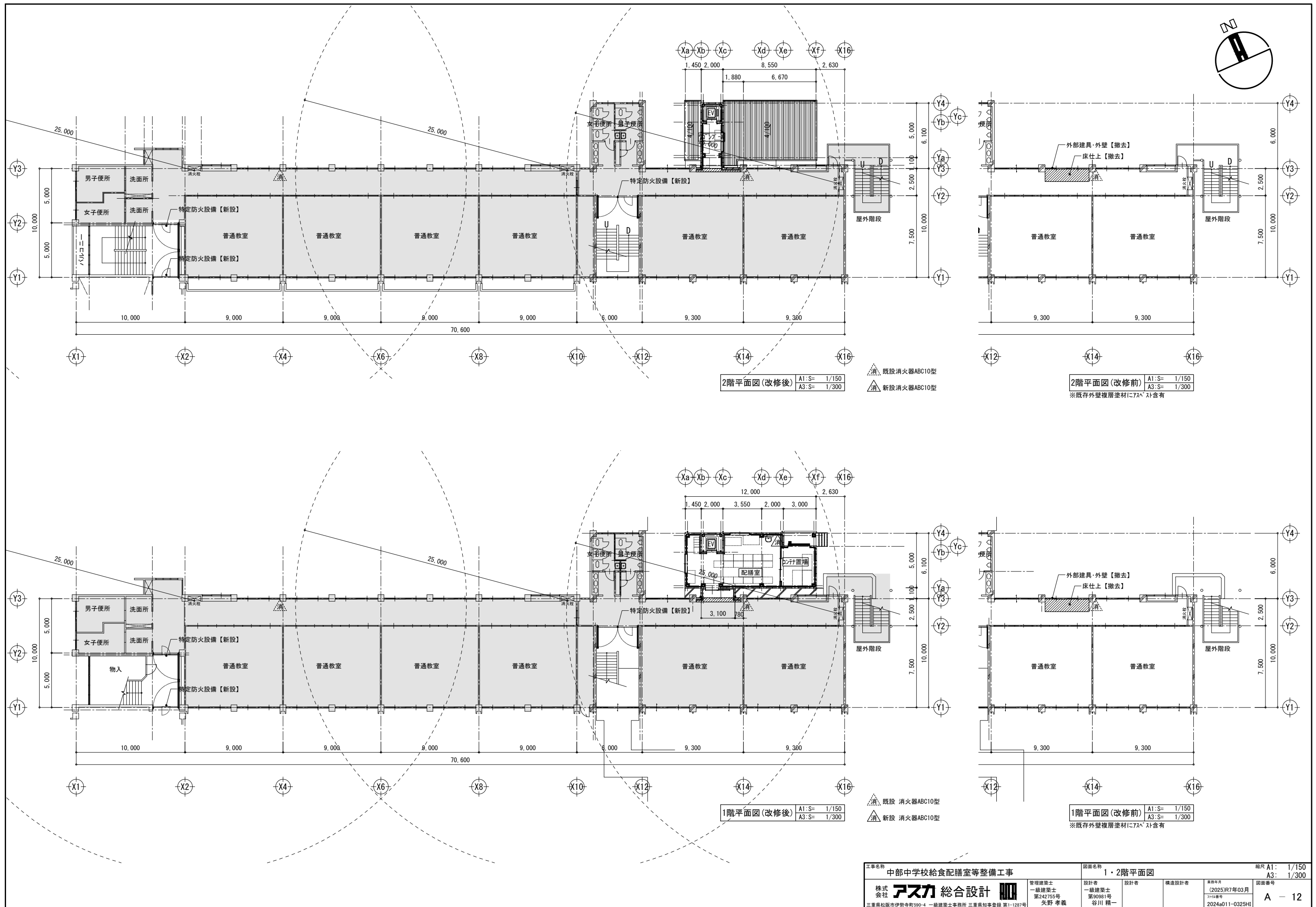


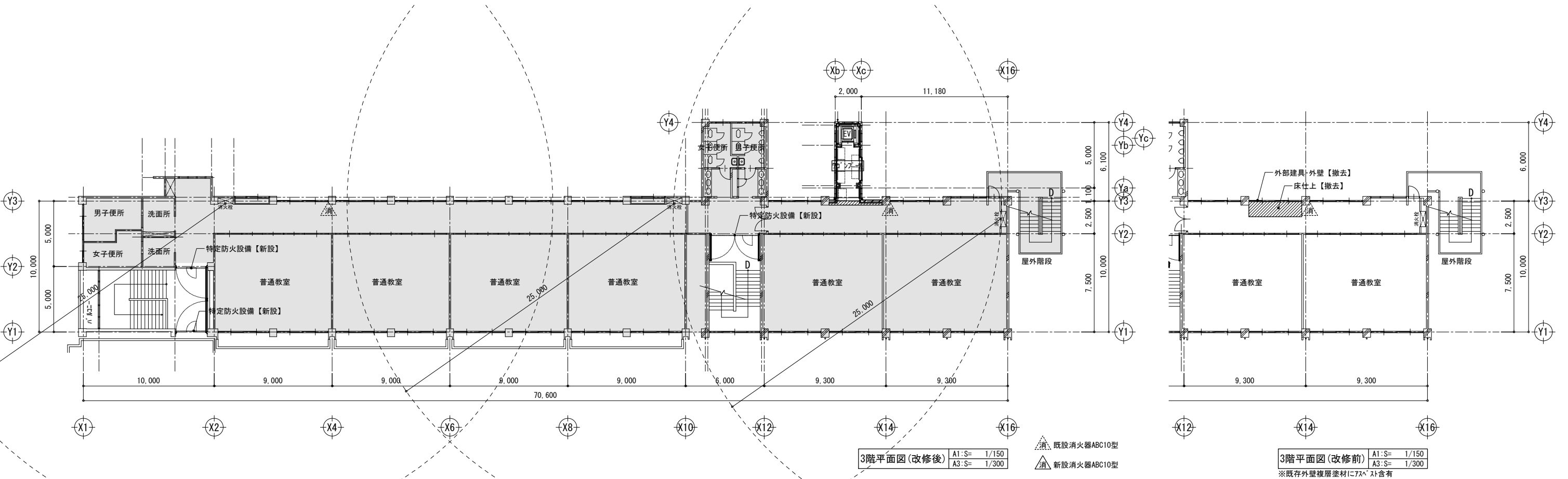
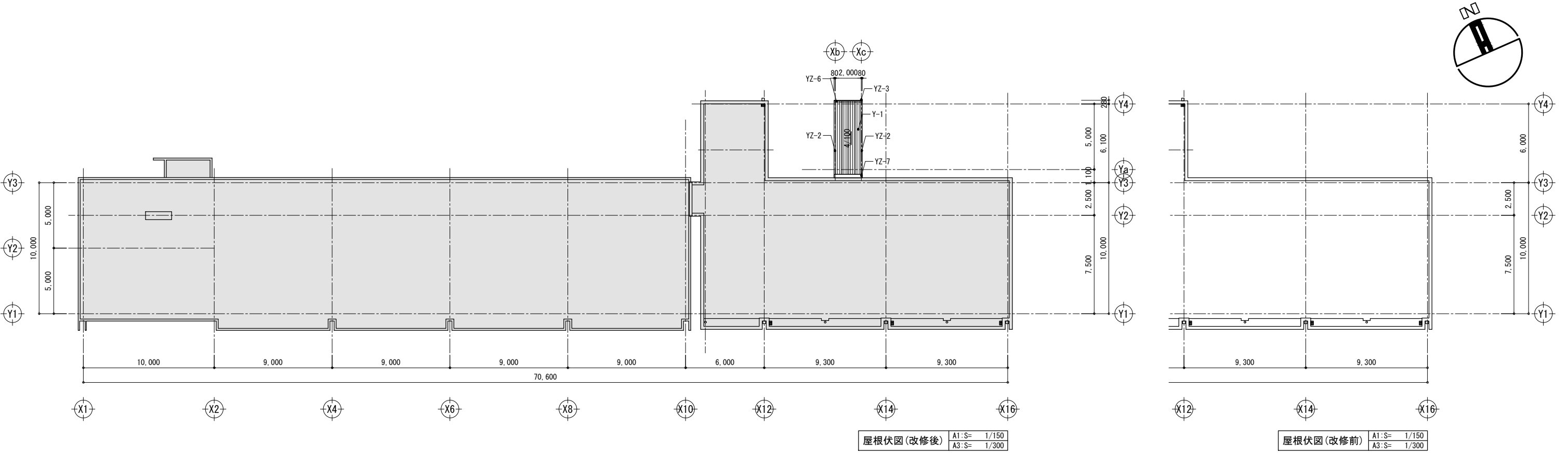
改修前_配置図	A1:S= 1/100 A3:S= 1/200
---------	----------------------------

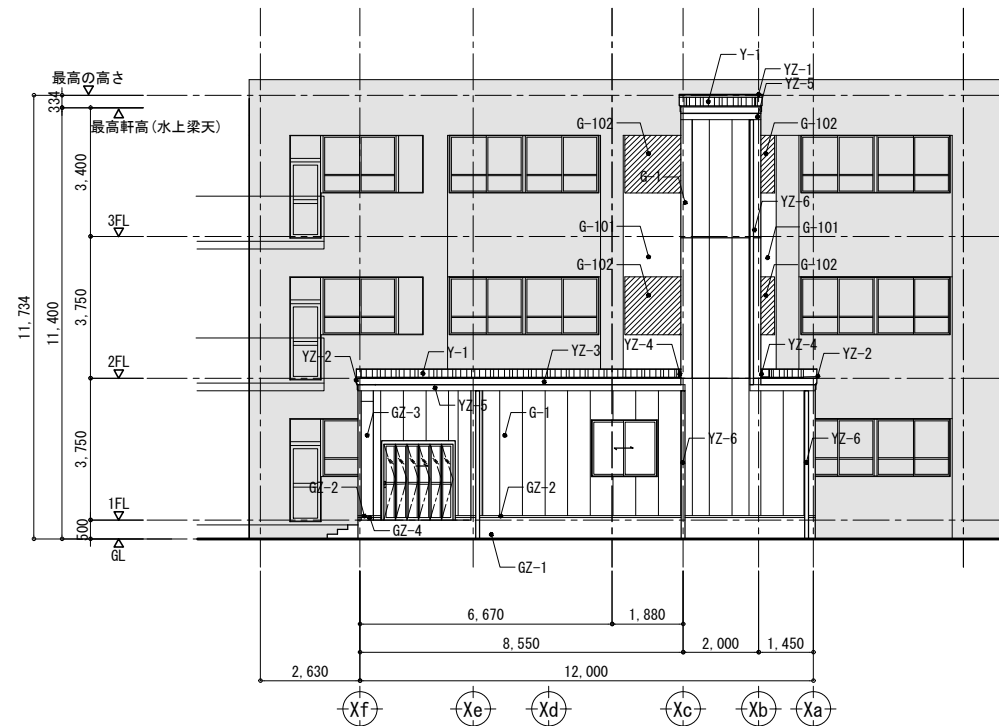


改修後_配置図	A1:S= 1/100 A3:S= 1/200
---------	----------------------------

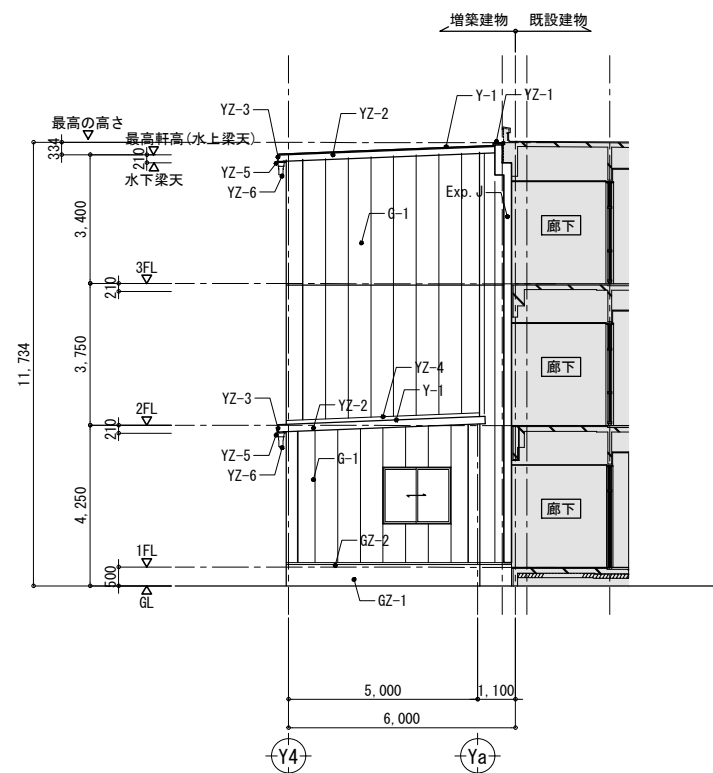
工事名称 中部中学校給食配膳室等整備工事		図面名称 部分配置図		縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	
株式会社 アスカ 総合設計 	管理建築士 一級建築士 第242755号 矢野 孝義	設計者 一級建築士 第00981号 谷川 精一	設計者	構造設計者	業務年月 (2025)R7年03月
					図面番号 A - 11
		三重県松阪市伊勢寺町590-4 一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-1287号			7716番号 2024a011-0409sm



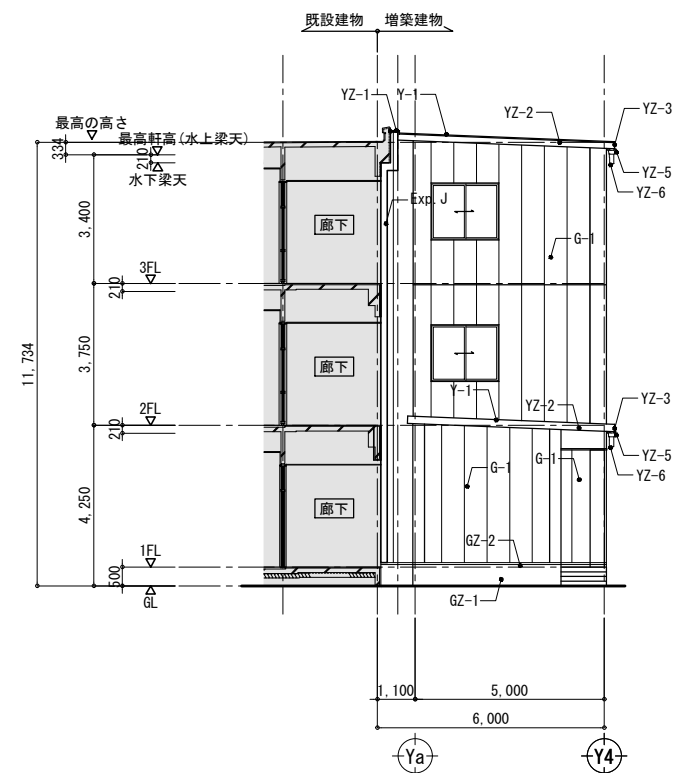




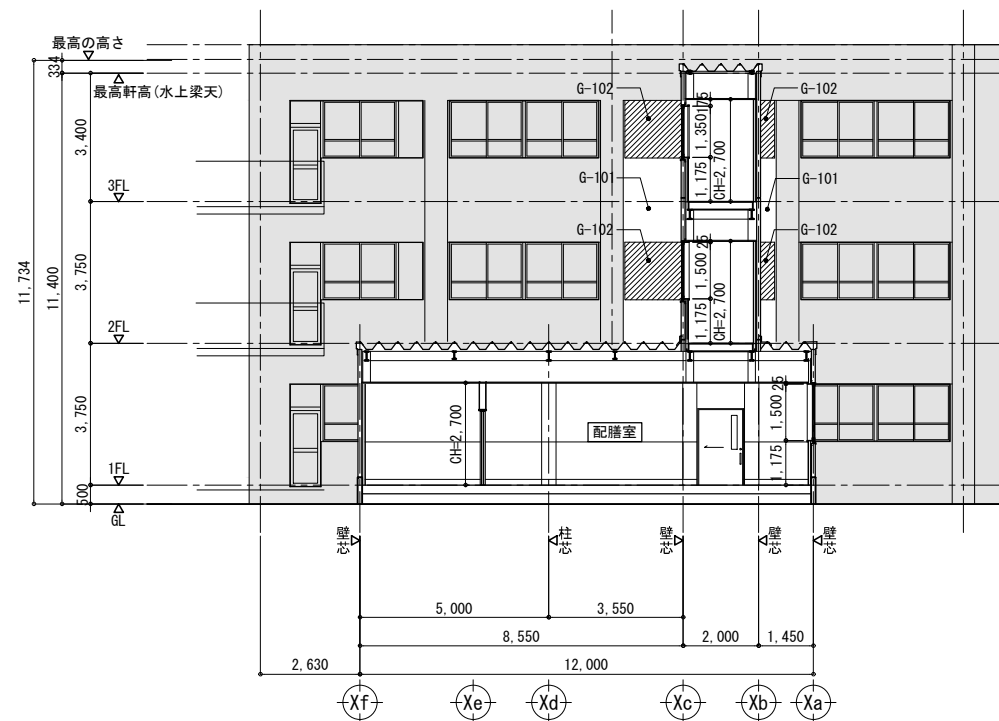
北立面図
A1:S= 1/100
A3:S= 1/200



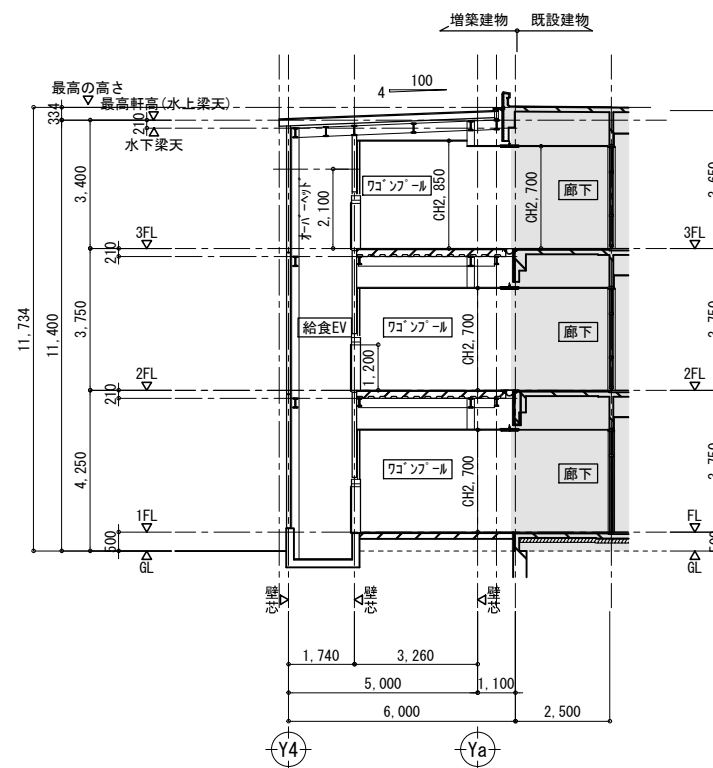
西立面図
A1:S= 1/100
A3:S= 1/200



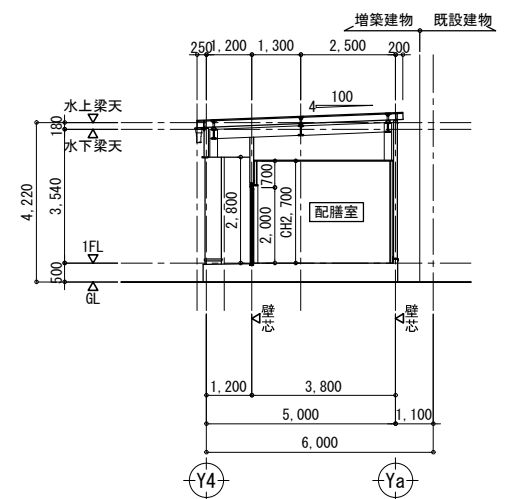
東立面図
A1:S= 1/100
A3:S= 1/200



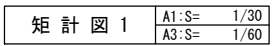
断面図 1
A1:S= 1/100
A3:S= 1/200

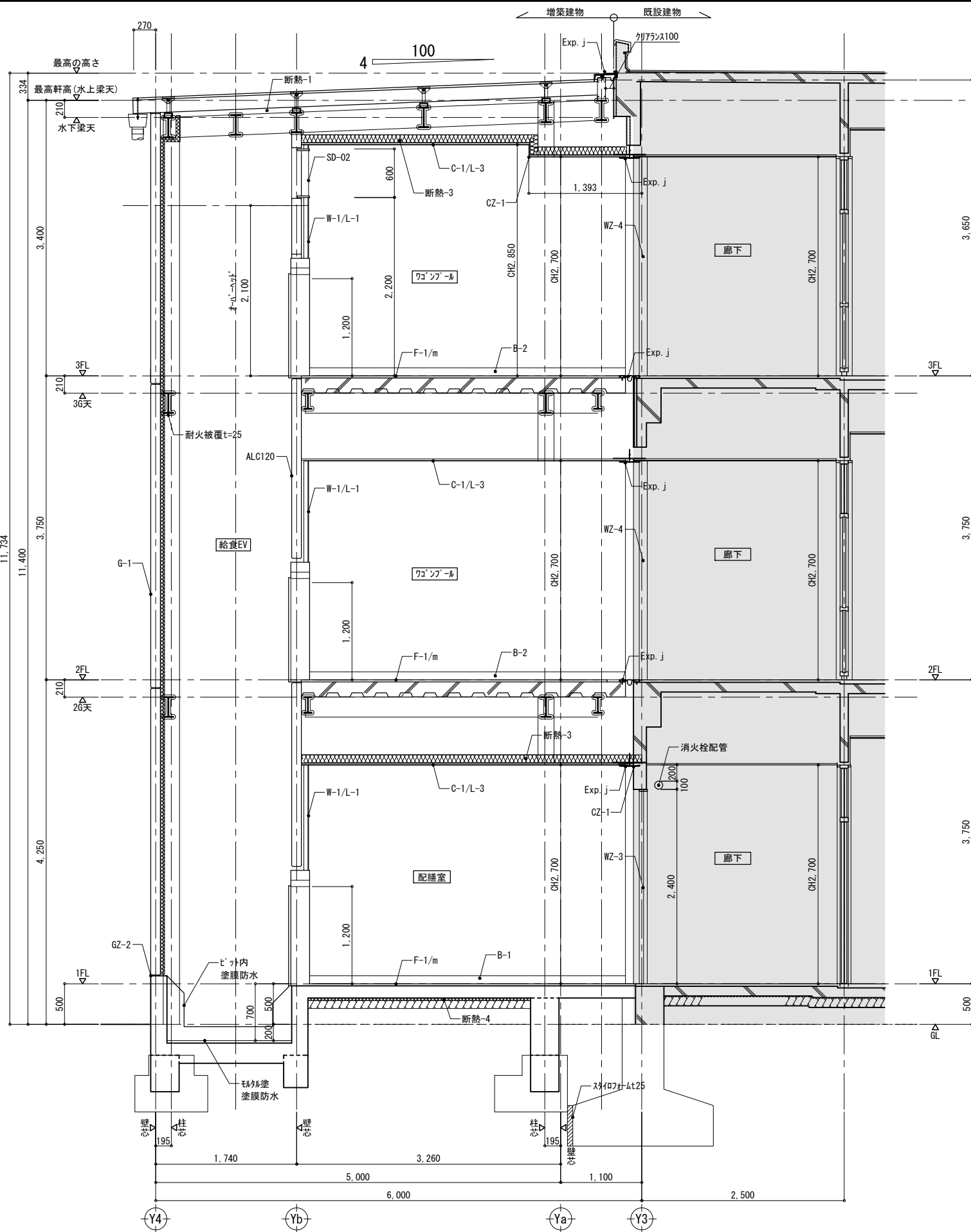


断面図 2
A1:S= 1/100
A3:S= 1/200

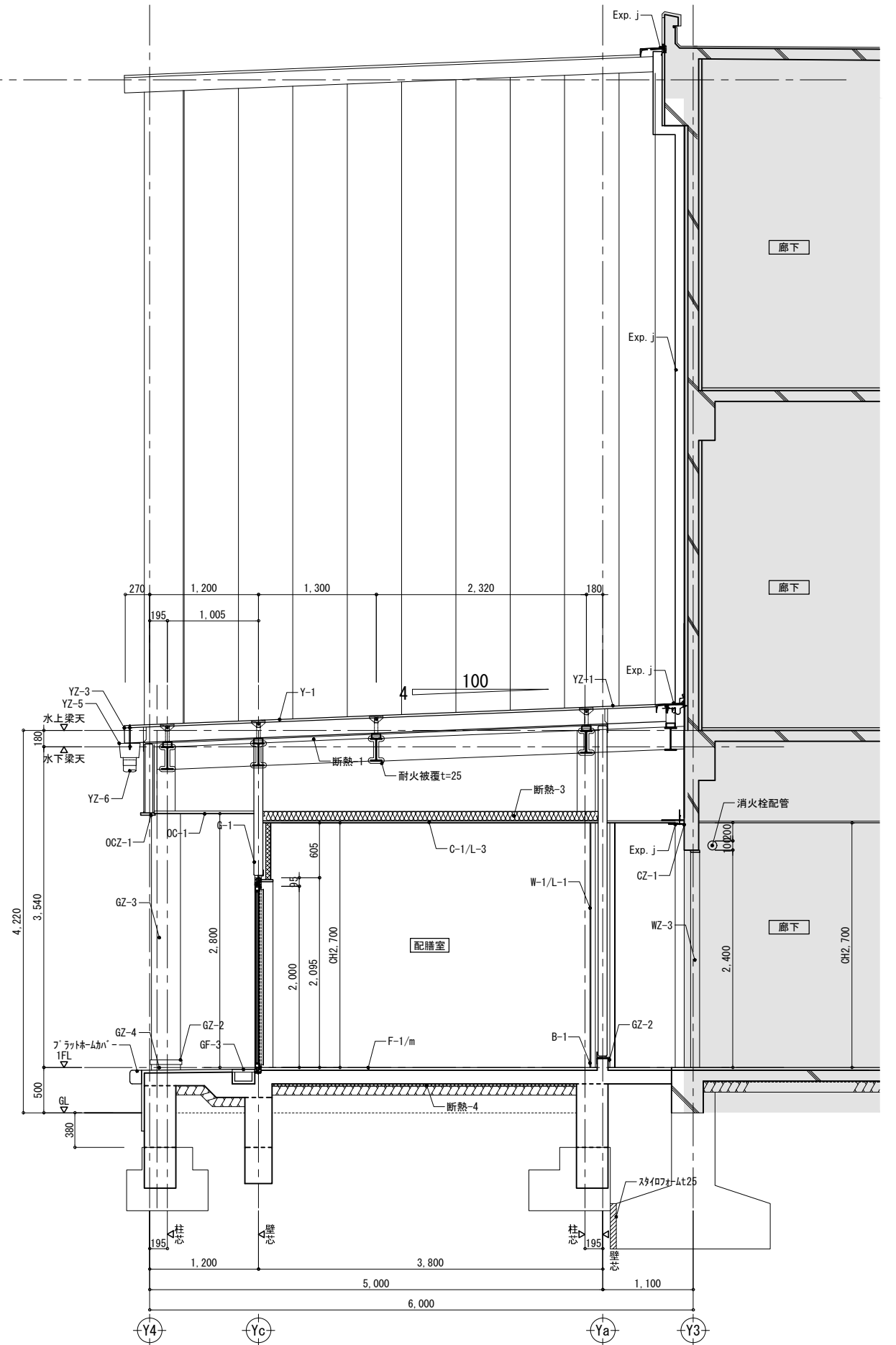


断面図 3
A1:S= 1/100
A3:S= 1/200

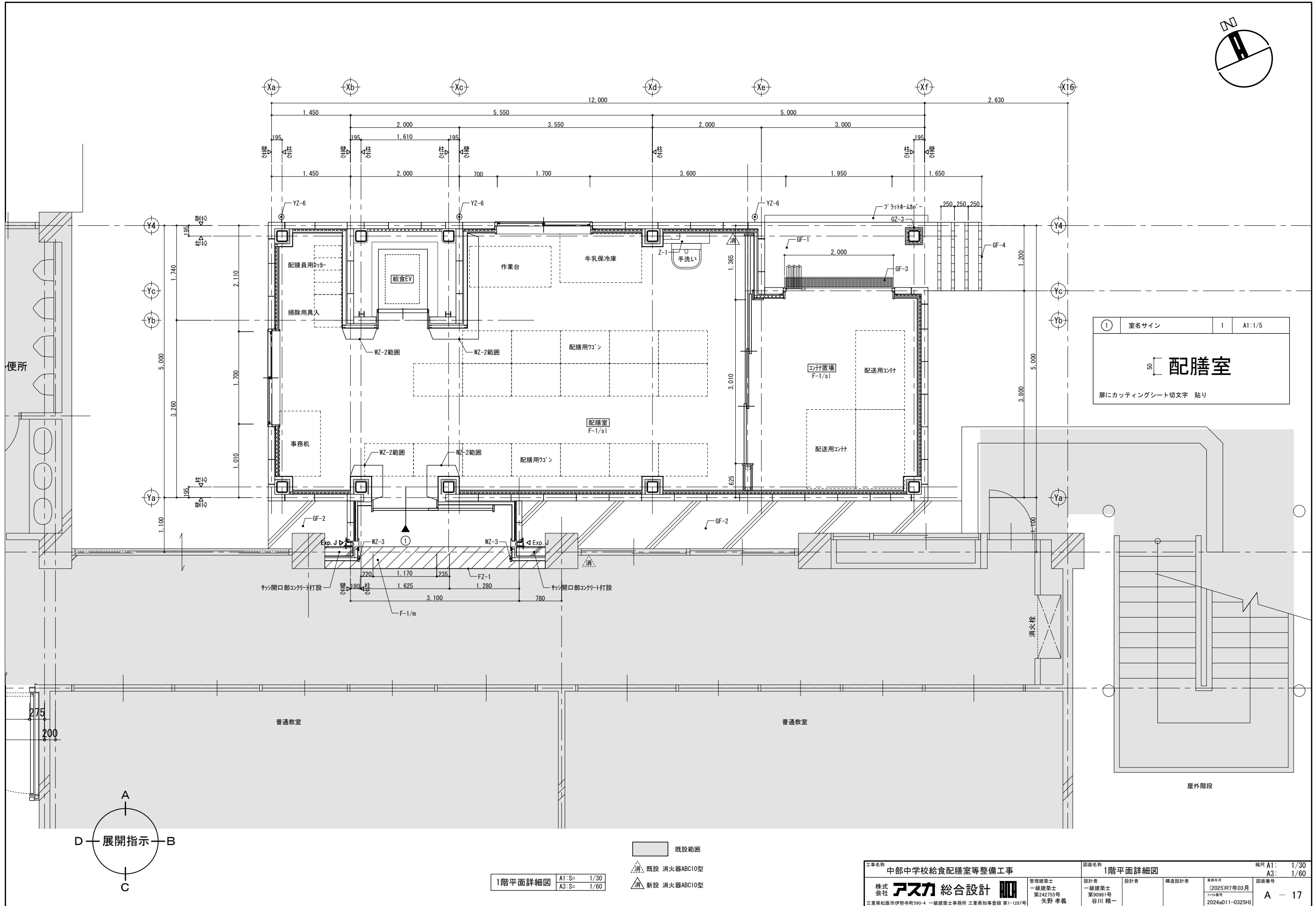




矩計図 2 A1:S= 1/30
A3:S= 1/60



矩計図 3 A1:S= 1/30
A3:S= 1/60

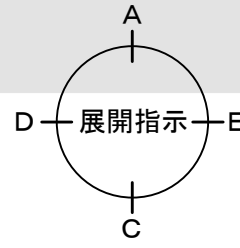
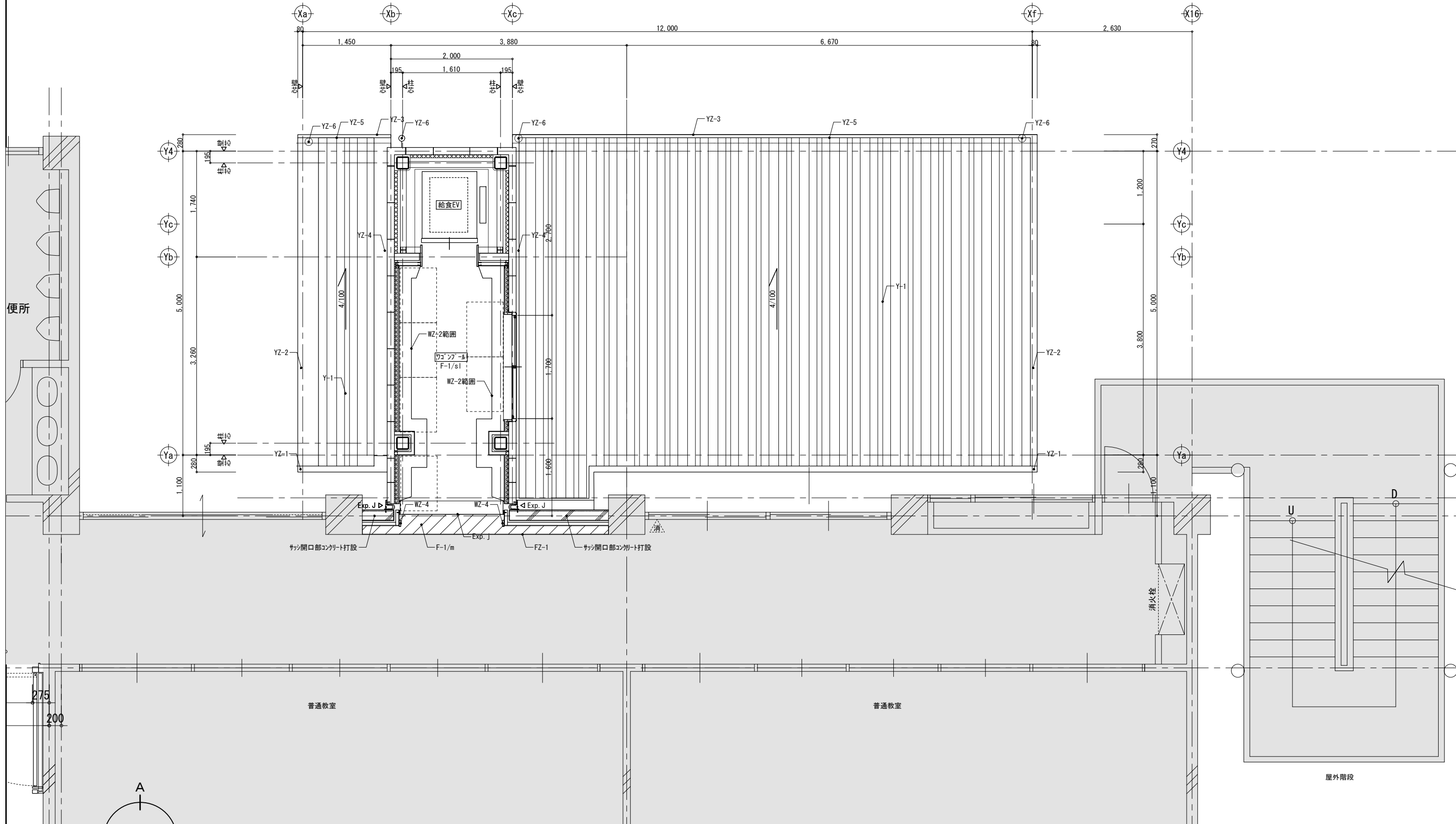
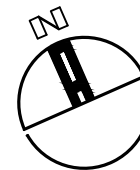


①	室名サイン	1	A1:1/5
配膳室			
扉にカットニングシート切文字 貼り			

1階平面詳細図	A1:S= 1/30
	A3:S= 1/60

工事名称 中部中学校給食配膳室等整備工事	
株式会社 アスカ 総合設計	管理建築士 一級建築士 第242755号 矢野 孝義
三重県松阪市伊勢寺町590-4 一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-1287号	

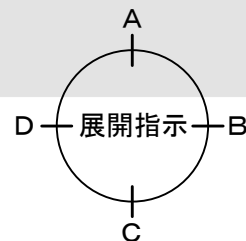
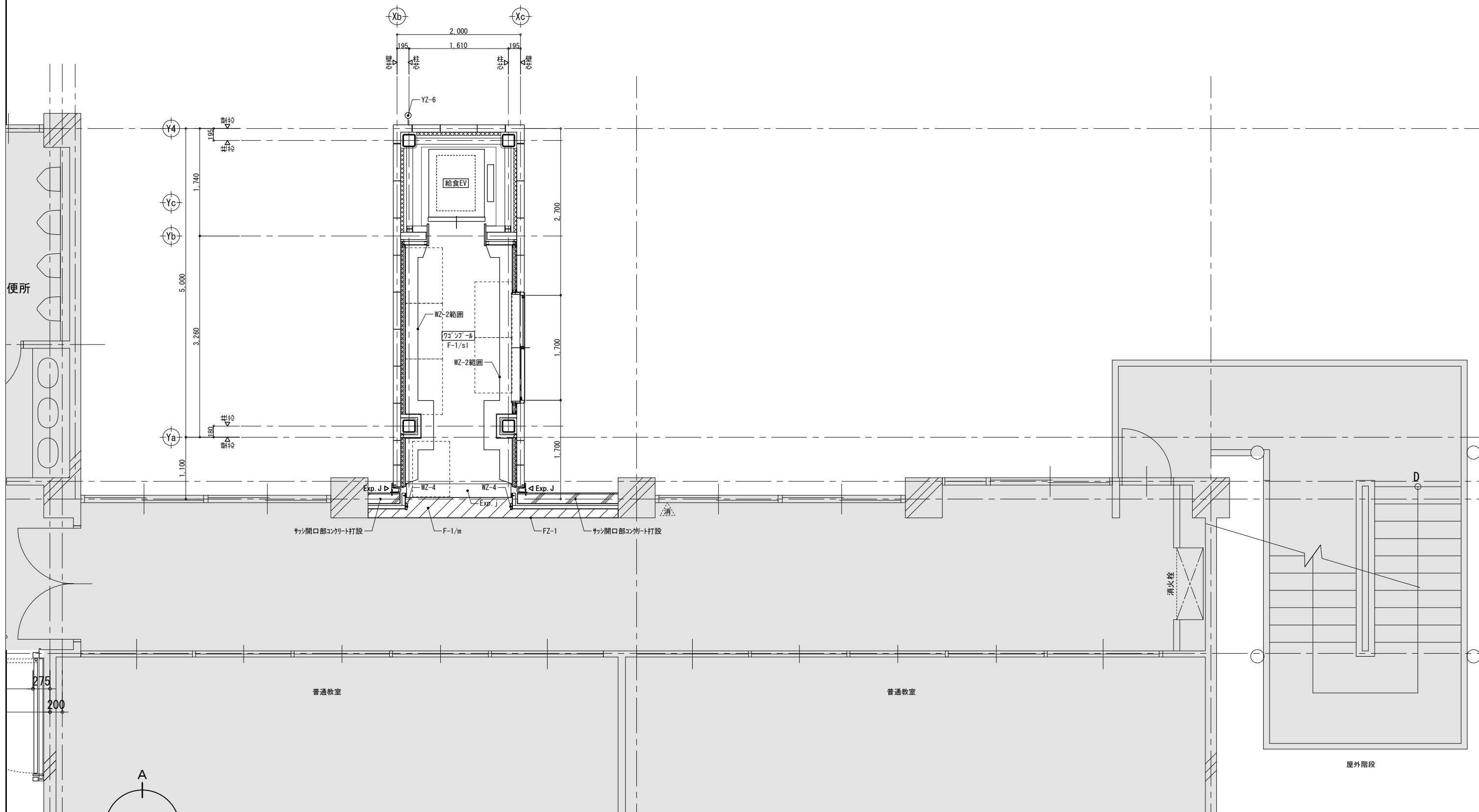
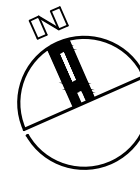
図面名称 1階平面詳細図		縮尺 A1: 1/30 A3: 1/60
設計者 一級建築士 第00981号 谷川 精一	構造設計者	業務年月 (2025)R7年03月 7ヶ月未満 2024a011-0325H1
図面番号 A - 17		



- 既設範囲
- △ 既設 消火器ABC10型
- △ 新設 消火器ABC10型

2階平面詳細図	A1:S=	1/30
	A3:S=	1/60

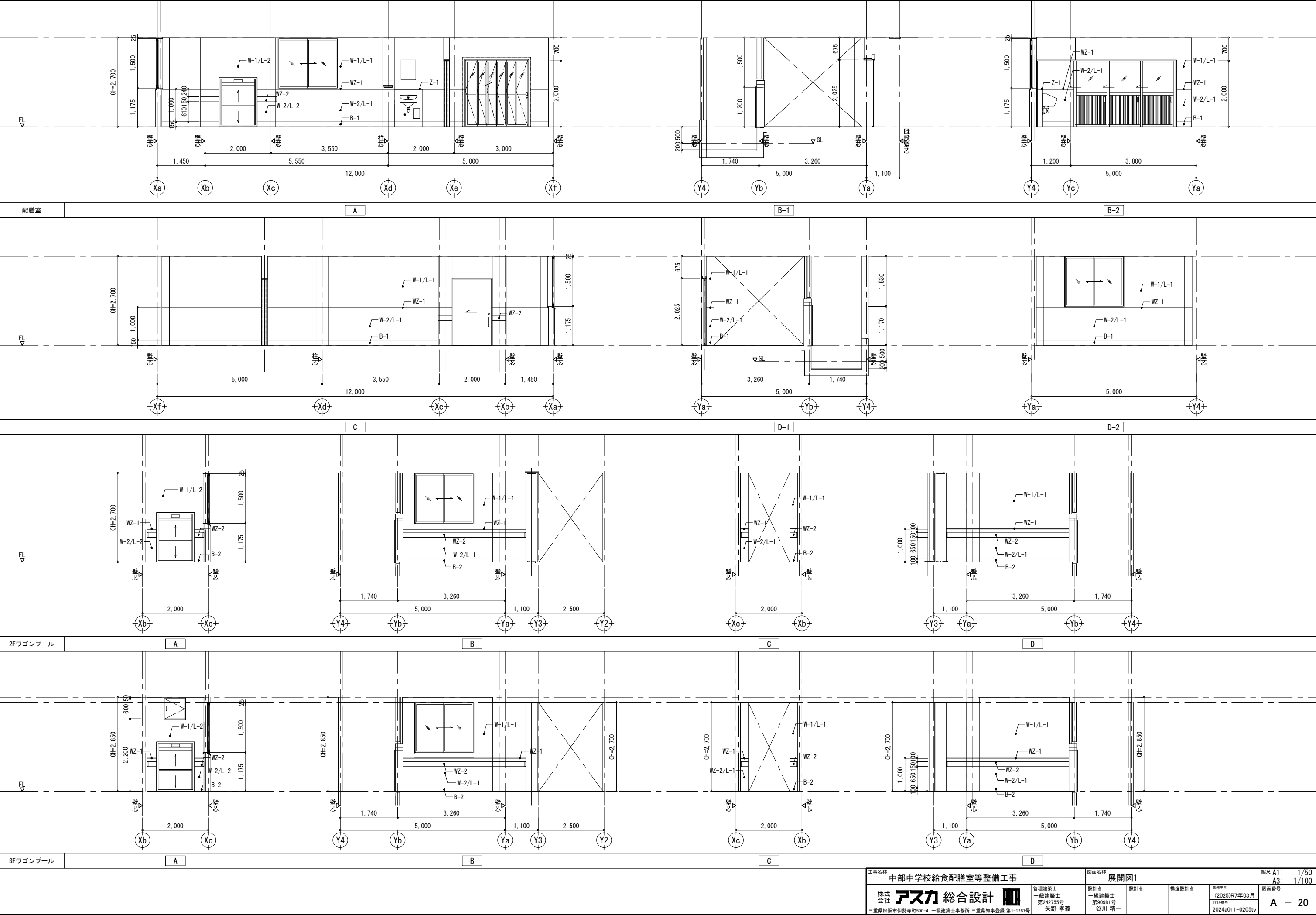
工事名称 中部中学校給食配膳室等整備工事			図面名称 2階平面詳細図			縮尺 A1: 1/30 A3: 1/60	
株式会社 アスカ 総合設計 	管理建築士 一級建築士 第242755号 矢野 孝義	設計者 一級建築士 第00981号 谷川 精一	設計者	構造設計者	業務年月 (2025)R7年03月 7ヶ月未満 2024a011-0325H1	図面番号 A - 18	
三重県松阪市伊勢寺町590-4 一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-1287号							

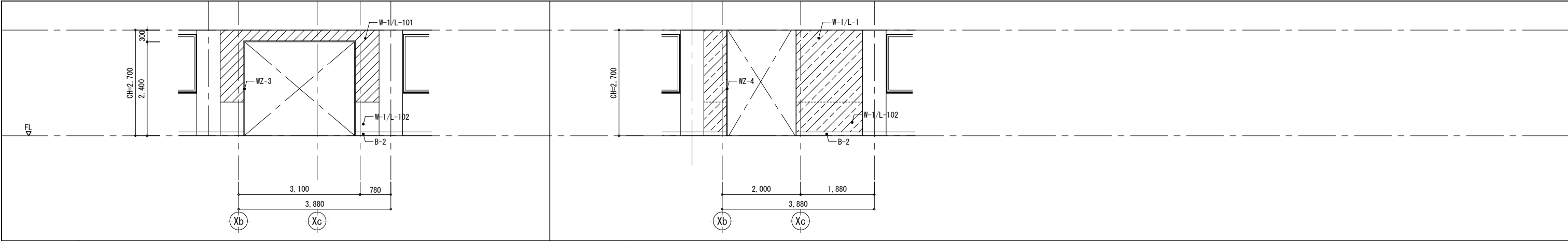


3階平面詳細図 A1:S= 1/30
A3:S= 1/60

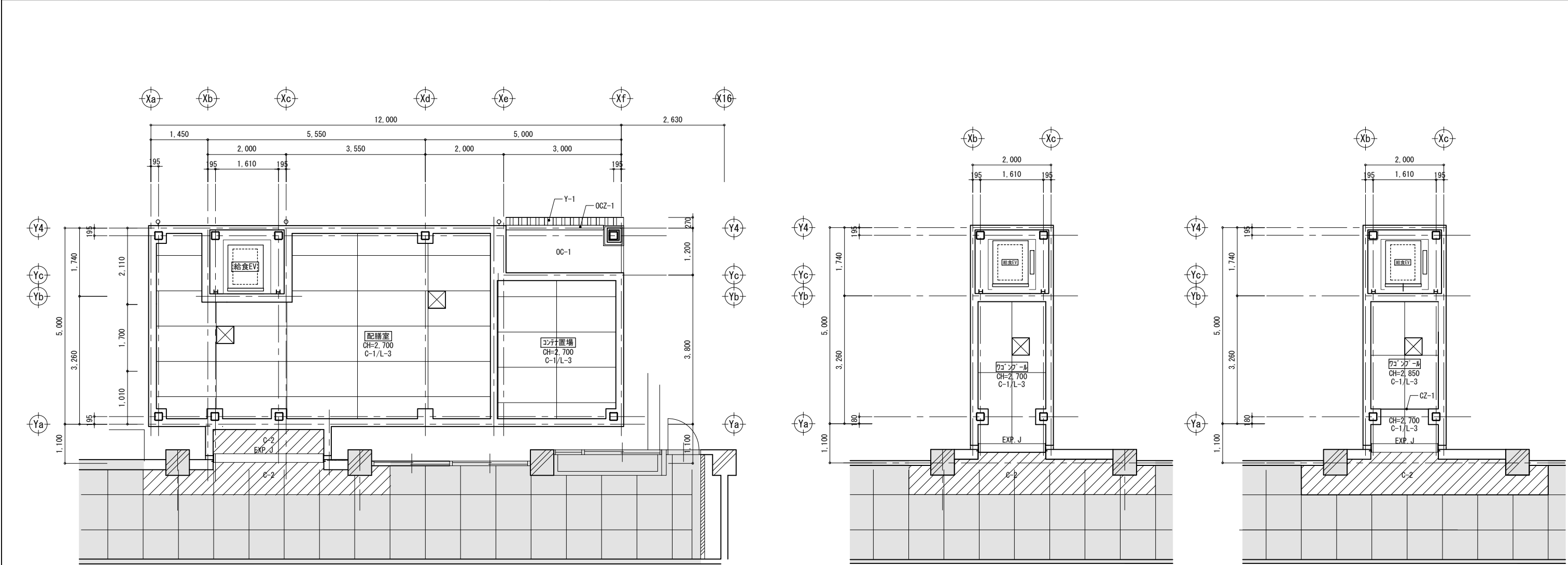
- 既設範囲
- △ 既設 消火器ABC10型
- △ 新設 消火器ABC10型

工事名称 中部中学校給食配膳室等整備工事			図面名称 3階平面詳細図		縮尺 A1: 1/30 A3: 1/60
株式会社 アスカ 総合設計	管理建築士 一級建築士 第242755号 矢野 孝義	設計者 一級建築士 第00981号 谷川 精一	設計者 構造設計者	業務年月 (2025)R7年03月 7ヶ月未満 2024a011-0325H1	図面番号 A - 19





1F既設廊下 2・3F既設廊下

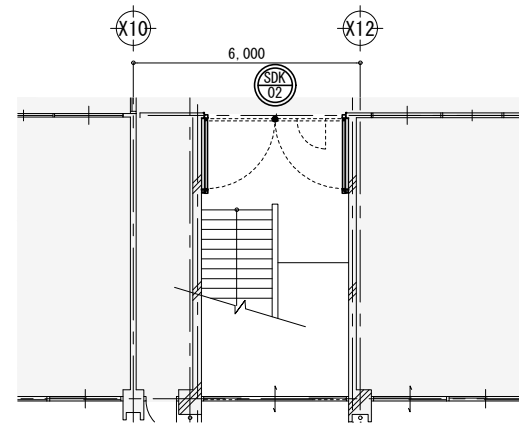
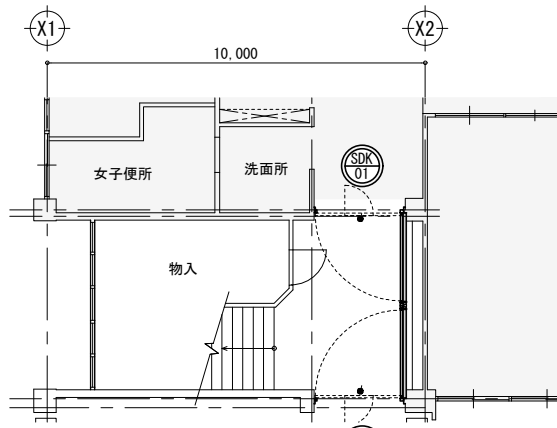
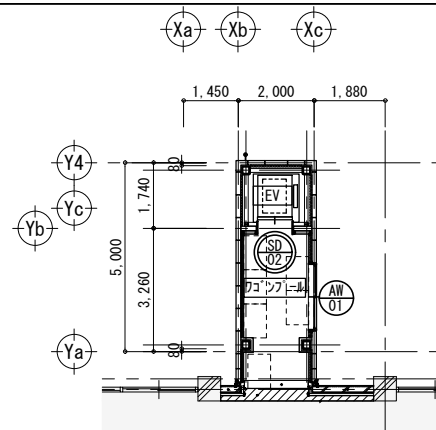
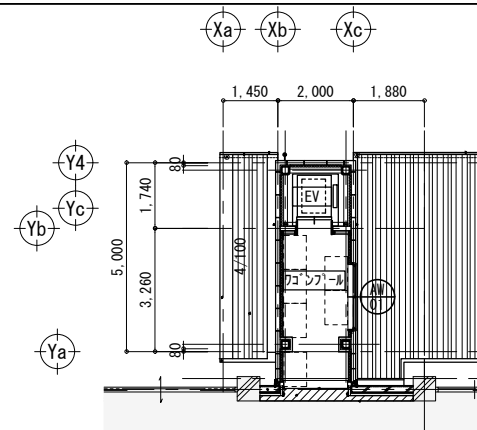
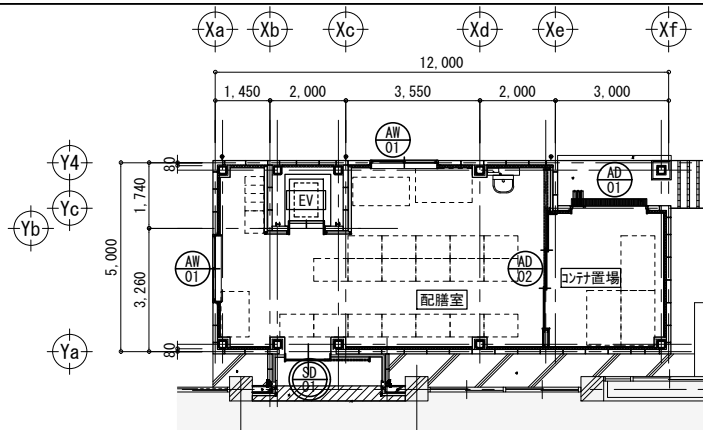
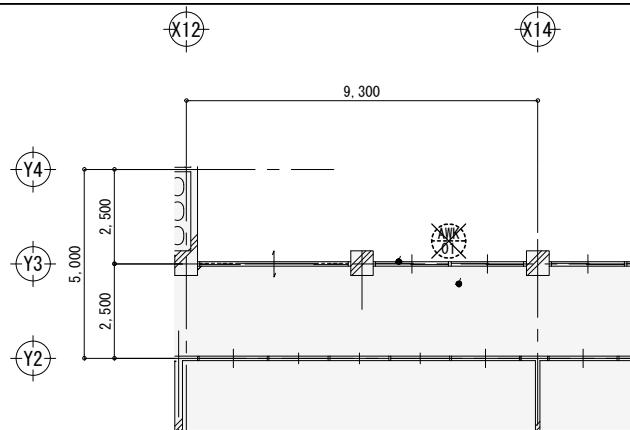


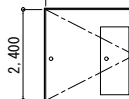
1階天井伏図 A1:S= 1/50 A3:S= 1/100

2階天井伏図 A1:S= 1/50 A3:S= 1/100

3階天井伏図 A1:S= 1/50 A3:S= 1/100

凡例			
C-1	FK t=6.0 EP	OC-1	FK t=6.0 EP
C-2	GB-D t=9.5	OCZ-1	ALC下り壁受材:7# $\times$ 120 $\times$ 30
CZ-1	天井コナ見切り塩 ϵ 製	EXP.J	天井EXP.J:7# $\times$ 製
L-3	M19(軽量天井下地)	Y-1	折板 現し
	既設天井 仕上撤去、C-1補修		天井点検口 450 $\times$ 450 7# $\times$ 枠



記 号	名 称	数 量	SDK-01	片開き防火戸	6ヶ所
			特定防火設備		
姿 図 ▼FL					
使用場所			階段室		
寸法 W×H	仕 上	2,345 × 2,400	SOP		
扉・サッシ見込	枠・額縁見込	40	150		
付属金物		煙感知連動、スモーク、マグネット一式 オートヒンジ、ケースハンドル			
ガラス	吝措				
備 考		常時閉鎖、遮炎性能付、自動閉鎖装置（ドアシールド、フロッグ式）の更新、（配線は既設は再使用とする）			

記号	名称	数量	SDK-02	両開き防火戸	3ヶ所	SD-01	ハカ一片引き防火戸	1ヶ所	SD-02	点検口	1ヶ所	AD-01	片引き折戸	1ヶ所	AD-02	三枚引込戸	1ヶ所	ANK-01	2連引違い窓	3ヶ所	AW-01	引違い窓	4ヶ所
※	図		特定防火設備			特定防火設備			特定防火設備														
	▼FL																						
使用場所			階段室			廊下			給食EV			コンテナ置場			配膳室			1～3階廊下			配膳室・カウンタール		
寸法 W×H	仕上		2,380 × 2,200		SOP	1,320 × 2,000		SOP	600 × 600		SOP	1,950 × 1,960		7#ミ	4,375 × 2,000		7#ミ	3,930 × 1,500		7#ミ	1,780 × 1,500		7#ミ
扉・サッシ見込	枠・額縁見込		40		150	40		130	17		150	17		70	120		200				70		額縁7#ミ 120
付属金物			DC、丁番、戸当たり、F0、付属金物一式			SUS引手L=600、ハンガーレール、ガイドレール、CL、			平面ハンドル（錠付）、丁番、戸当たり、付属金物一式			堀込引手、戸車、ドアハンドル、ステンレス（フラット）、CL 付属金物一式			引手、下レール、付属金物一式						戸車、クレット、網戸、付属金物一式		
ガラス	窓格											FT-4 腰ハネ付=3.0			ホリカネ付=3.0、腰ハネ付=3.0			撤去			Low-E3+A6+FL3		
備考			常時開放、遮煙性能付 自動閉鎖装置（ドアジェネレータ、ラッチ式）の更新（配線は既設は再使用とする）						小荷物専用昇降機 機械室用点検口			樹TOKO（イスターカーテン（スリムタイプ））程度											

建具凡例及び共通指定事項				建具枠の形状と符号		※特記なき限りドア厚さは40mmとする		窓摺の形状と符号		※材質は特記なき限り、SUS304 t2.0とする	
建具表における凡例		建具金物一覧		建具枠の形状と符号		※特記なき限りドア厚さは40mmとする		窓摺の形状と符号		※材質は特記なき限り、SUS304 t2.0とする	
建具符号 建具番号 一般建具 建具符号 建具番号 防火性能を有するもの (特定防火設備、防火設備) 建具符号 建具番号 既存建具 建具符号 建具番号 撤去建具		(錠の種類) シリンダー本締り錠 /CL(サムターン付を含む。) シリンダー鍵錠 /KL(サムターン付を含む。) シリンダー箱錠 /HL(サムターン付を含む。) シリンダーモノロック /SL(サムターン付を含む。) 開閉ハンドル錠 (握玉・把手類) レバーハンドル(ステンレス製) /LH ケースハンドル(ステンレス製) /GH・プッシュプルハンドル /PPH サムラッチハンドル 握玉 (支持食物) ビボットヒンジ /PH(電気錠付の扉は適電型。) T番 (ステンレス製、重量T番については 黄銅D0r製も可とする。) フロアヒンジ /FH(薄型見込46程度) グラビティヒンジ /GH(FRH重量にあったものを使用のこと。))		空錠 棒鍵錠 (引違戸用錠) グレモン錠 (特記なき限り3点締りとする。) 表示付ラッチ錠 (非常解錠可とする。) 掘込引手 押板(引手兼用、図示なき限りステンレス製とする。) 把手(図示なき限りステンレス又はアルミ合金製 L=600内外) オートヒンジ ストッパー有 /OH オートヒンジ ストッパー無 /ON } 扉同色焼付塗装品とする。 ラバトリールヒンジ スプリングヒンジ (点検口用 W≤850 H≤2015) ファイアダンパー アンダーカット 順位調整器 (特記なき限り扉内収納型とする。) 衝突防止マーク ステンレス35φ 特注製衝突防止マーク 35φ ポリカーボネイト板 /Pcb ドアガラリ [材質、仕上図示なき限り材質仕上共扉の材質に準ずる (開口率) 図示なき限り50%内外とする [特殊仕様]付付7φは遮光型とする		クロロブレン スポンジゴム W-1型 (大枠) クロロブレン スポンジゴム W-1A型 (大枠) クロロブレン スポンジゴム W-2型 (片顔縁付) クロロブレン スポンジゴム W-2A型 (片顔縁付) クロロブレン スポンジゴム W-3型 (額縁無し) クロロブレン スポンジゴム W-3A型 (額縁無し) クロロブレン スポンジゴム W-4型 クロロブレン スポンジゴム W-5型 クロロブレン スポンジゴム W-5A型		レベル差有り時 ST-1型 レベル差有り時 ST-1A型 レベル差有り時 ST-2型 レベル差有り時 ST-2A型 レベル差有り時 ST-3型 レベル差有り時 ST-3A型 レベル差有り時 ST-4型			
建具符号											
AW アルミサッシ (図示なき限り見込70とする。) AD アルミ製ドア (図示なき限り見込70とする。) AG アルミガラリ (図示なき限り見込70、開口率40%内外とする。) ATL アルミトップライト		SD 鋼製ドア (図示なき限り見込40とする。) SF 鋼製三方枠 (ステンレス製をふくむ。) SS 鋼製シャッター (ステンレス製をふくむ。) LSD 軽量鋼製ドア (図示なき限り見込40とする。) TB トイレブース									
※1)AW及びAGは、特記なき限り「水切り」「結露受」付きとし、サッシと同材、同仕上げとする。 ※2)ダクト接続のガラリには、四方枠(表面処理亜鉛メッキ鋼板t2.3(メッキ付着量Z12又はF12)加工見込み45mm、見付け30mm)を付ける。											
ガラス符号											
FL 透明フロートガラス F 型板ガラス PW 網入磨き板ガラス(クロスワイヤ) FW 網入型板ガラス (例) FL-6+A-2+FL-10 (外側) 透明70+付 5x厚6mm+空気層 (内側) 透明70+付 5x厚10mm ※ガラス固定のシーリングはA種とする。		PWL 線入磨き板ガラス FWL 線入型板ガラス T 強化ガラス TT 耐熱強化ガラス(特定防火設備個別認定型) FT 型板強化ガラス M 鏡		(その他の食物) ドアチェック ストッパー有 /DC ドアチェック ストッパー無 /DN } 扉同色焼付塗装品とする。 ※原則としてドアチェックは、パルシとは、取り付けは室内側とする。 ドアストッパー(ドアホルダー付。床付、壁付の別は現場指示とする。 特記なき限り、全ての開き戸、引き戸に設ける。) アームストッパー /AS フリクションスター フランズ落し /FO アルミパネル /AP ※食物類は原則として、仕上及び色調を建具に合わせて。		ファイアダンパー アンダーカット 順位調整器 (特記なき限り扉内収納型とする。) 衝突防止マーク ステンレス35φ 特注製衝突防止マーク 35φ ポリカーボネイト板 /Pcb ドアガラリ [材質、仕上図示なき限り材質仕上共扉の材質に準ずる (開口率) 図示なき限り50%内外とする [特殊仕様]付付7φは遮光型とする		クロロブレン スポンジゴム W-3型 (額縁無し) クロロブレン スポンジゴム W-3A型 (額縁無し) クロロブレン スポンジゴム W-4型 クロロブレン スポンジゴム W-5型 クロロブレン スポンジゴム W-5A型		レベル差有り時 ST-3A型 レベル差有り時 ST-4型	
仕上符号											
SOP 合成樹脂ペイント塗		UP ウレタン系樹脂ペイント塗		BA ステンレス鏡面(バフ)仕上							

工事名称

中部中学校給食配膳室等整備工事

図面名称

建具指示図・建具表

縮尺

A1: 1/100
A3: 1/200

図面番号

A - 22

株 会社

アスカ 総合設計

管理建築士

一級建築士 第242755号 矢野 孝義

設計者

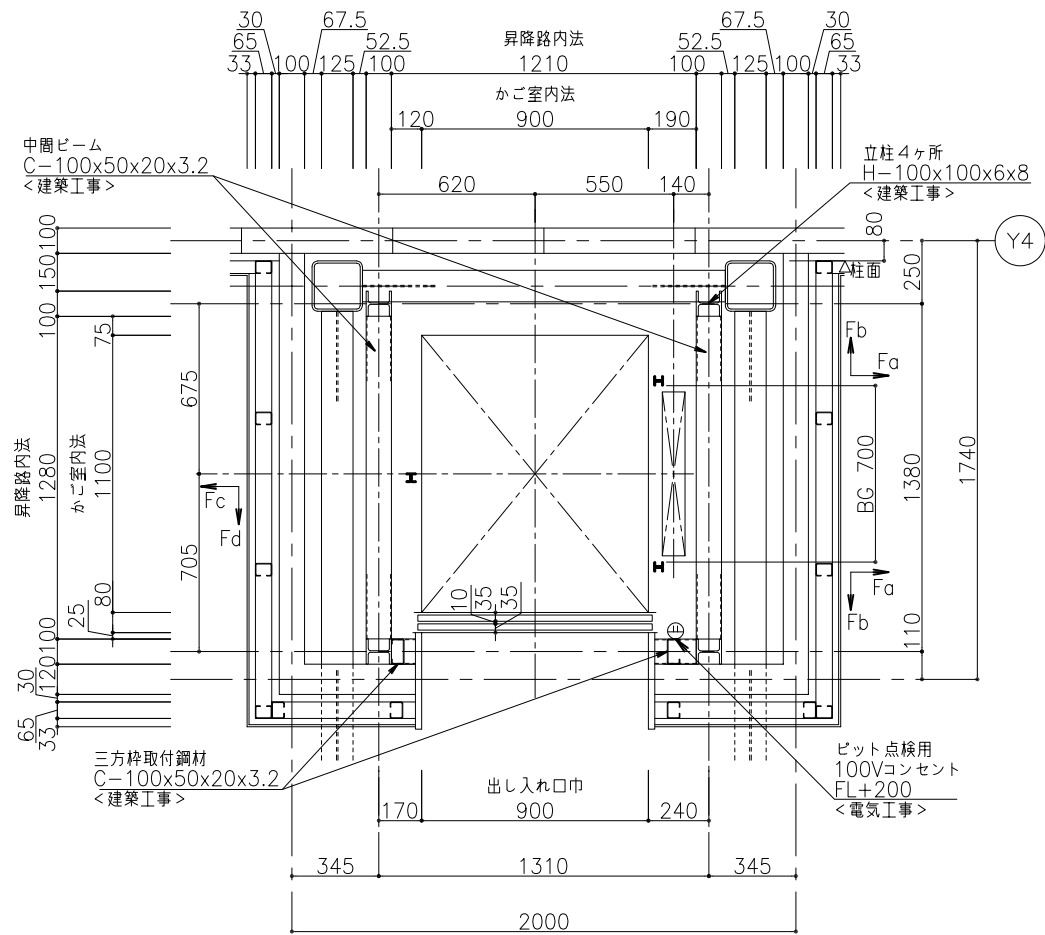
二級建築士 第90981号 谷川 精一

構造設計者

業務年月

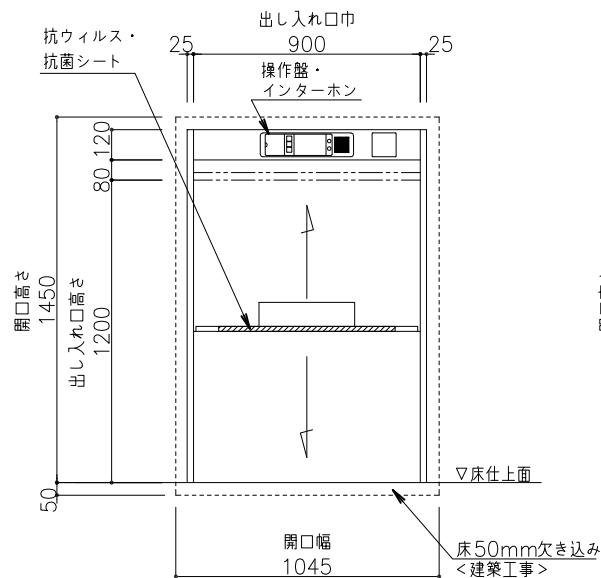
(2025)R7年03月

2024年011-0228ty

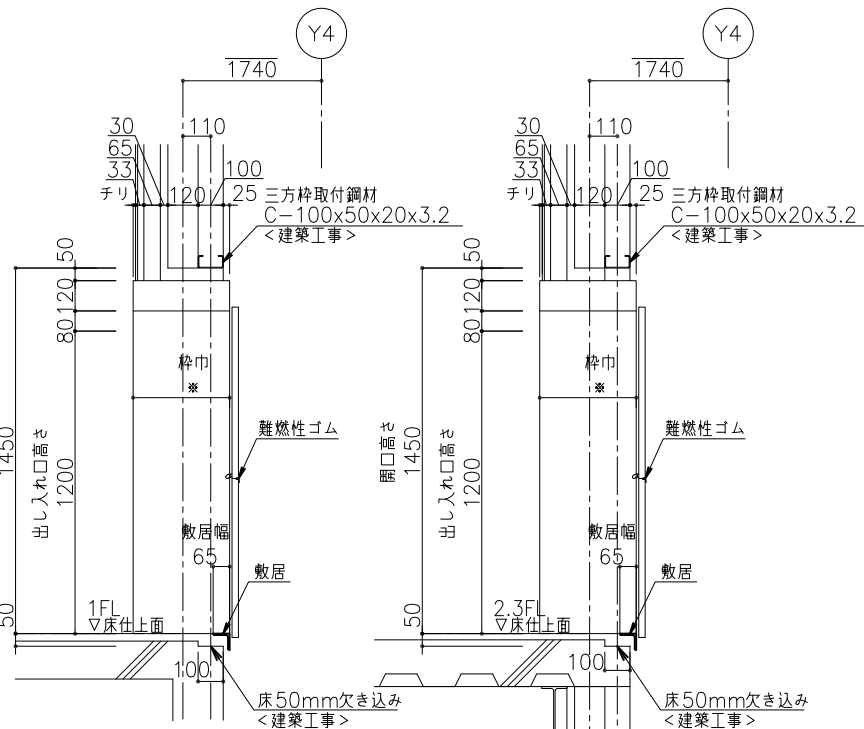


昇降路平面図 S = 1 : 1 5

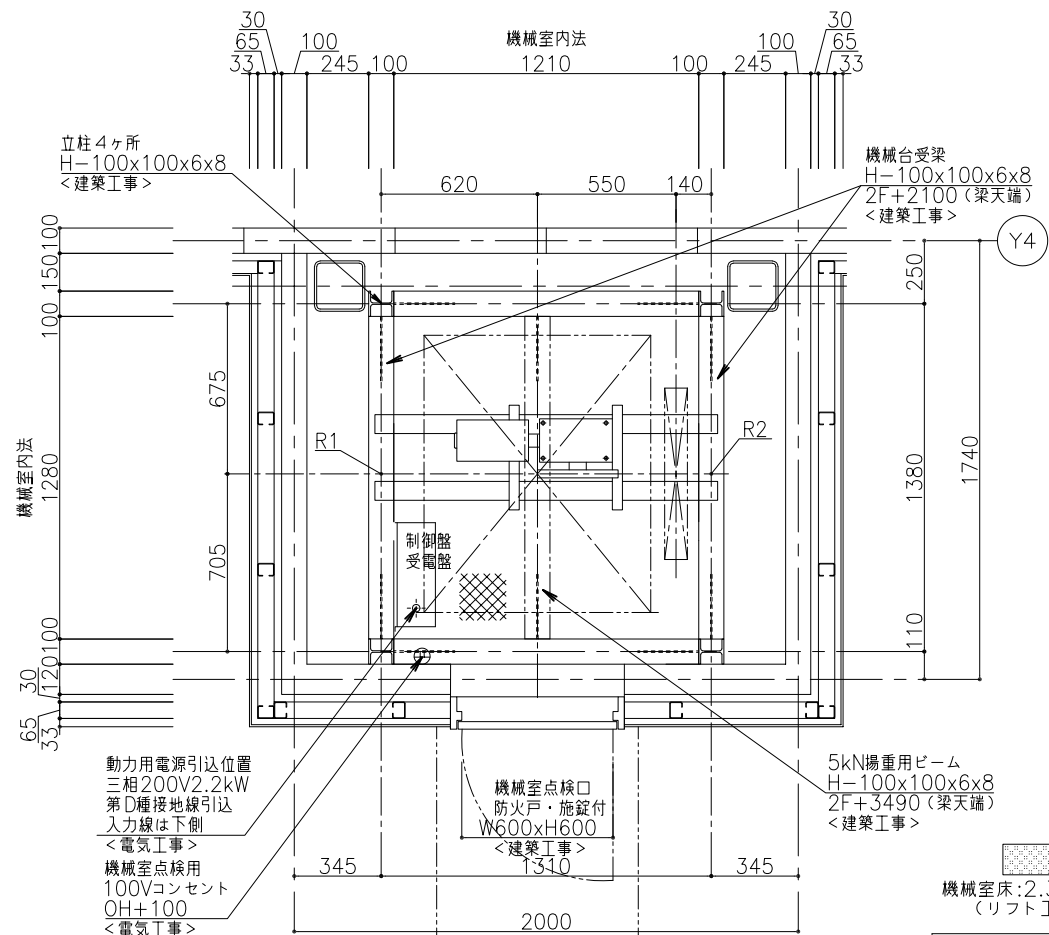
昇降路水平荷重（地震時）			
Fa	Fb	Fc	Fd
1007N	1075N	188N	658N



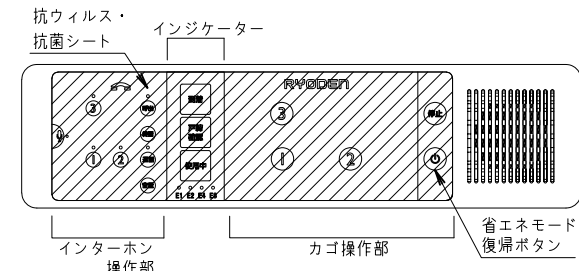
出し入れ口正面図 S = 1 : 1 5



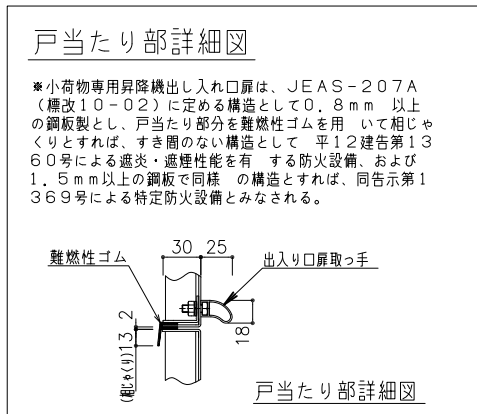
出し入れ口断面図 S = 1 : 1 5



2FL+2100 機械室平面図 S = 1 : 1 5



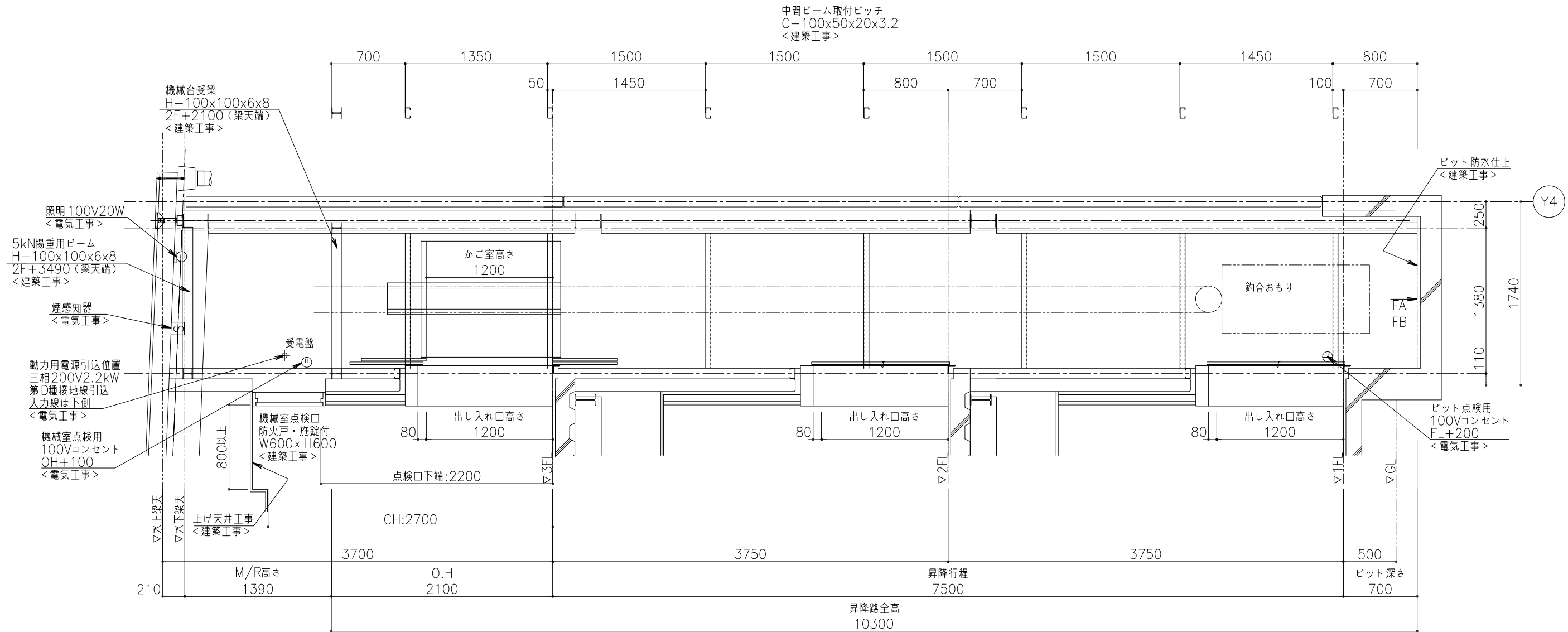
各階操作盤詳細図



戸当たり部詳細図

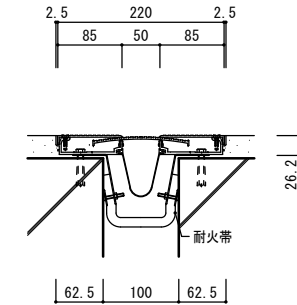
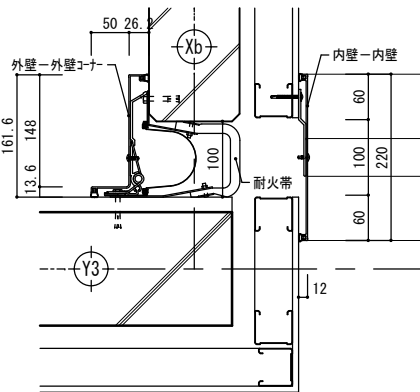
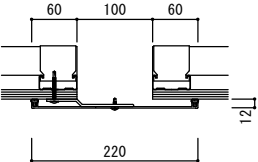
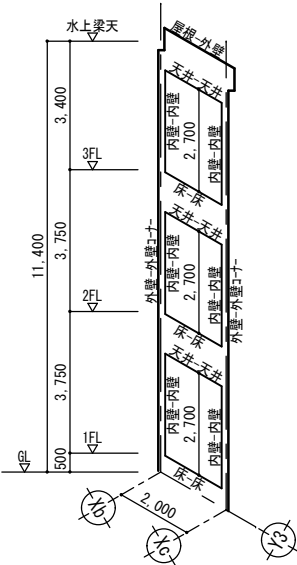
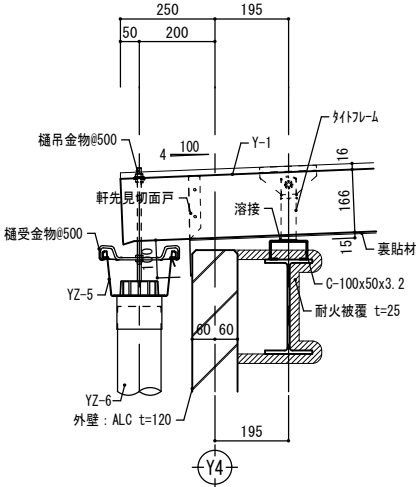
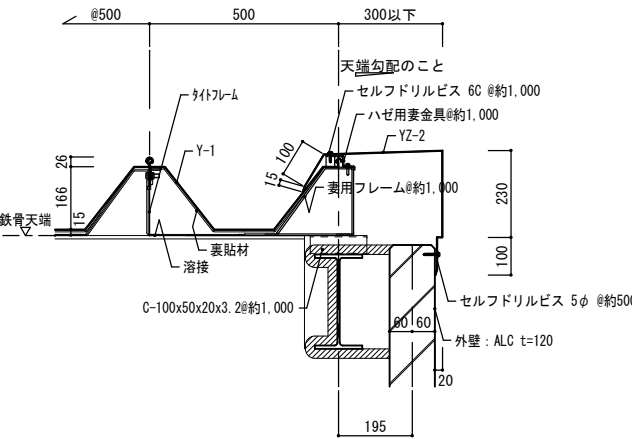
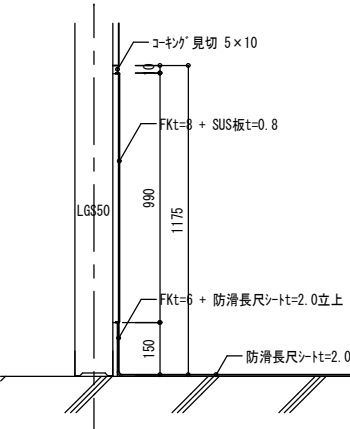
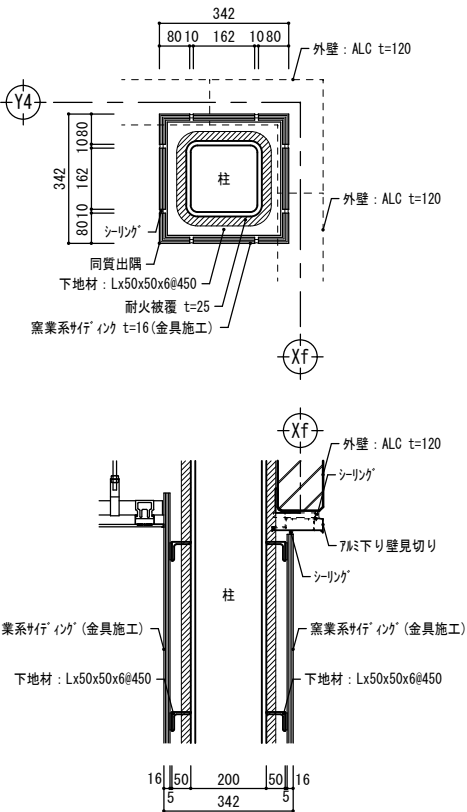
小荷物専用昇降機仕様要項	
機 種	RL-300S-45-H(同等品以上)
制 御 方 式	インバータ速度制御方式
積 載 質 量	300kg
速 度	45m/min
電 源	3相 200V
モ ー ト ル	2.2kW 4P
停 止 個 所	1-3FL 計3箇所
巻 上 機	RMG-360
ツ ナ 車	直径320mm
ソ ラ セ 車	なし
ワイヤーロープ	8mm x 2本 1:1ローピング
レ ー ル	π型成形レール:3.0kg/m
か ご 内 法	W900 x D1100 x H1200
お も り	40% BALANCE
出し入れ口戸閉方式	二枚戸上下開き式（手動式）
かご 戸閉方式	二枚戸上下開き式（電動式）
操 作 方 式	相互階制御方式
※操作盤電源錠（自動省エネモード） ※出し入れ口扉・かご扉の同時開閉付 ※到着予告アナウンス付（到着チャイム） ※積み過ぎ警報装置付（オートアナウンス付） ※ハンズフリー インターホン ※エラー表示灯 ※操作錠キータッチ音（インターホン錠除く） ※「到着」「戸閉確認」「使用中」灯 ※ドアホールド装置（出し入れ口戸閉時） ※アシストクロース（出し入れ口戸閉時）	
付加仕様	
※抗ウィルス・抗菌仕様（操作盤・出し入れ口取手）	
小荷物専用昇降機意匠仕様	
三 方 枠	ステンレスヘアライン仕上（SUS443）
出し入れ口 扉	ステンレスヘアライン仕上（SUS443）
敷 居	L形鋼65 x 65 x 6下地にステンレス巻き
か ご 室 扉	ステンレスヘアライン仕上（SUS443）
か ご 室 壁	ステンレスヘアライン仕上（SUS443）
かご室 天 井	ステンレスヘアライン仕上（SUS443）
か ご 室 床	ステンレスヘアライン仕上（SUS443）
操 作 盤	プラスチックプレート インターホン一体式 （カラーユニバーサルデザイン・オートアナウンス付）
イ ン タ ー ホ ン	プラスチックプレート 操作盤一体式 相互階通話方式 （ハンズフリー・プレストーク 切り替え式）

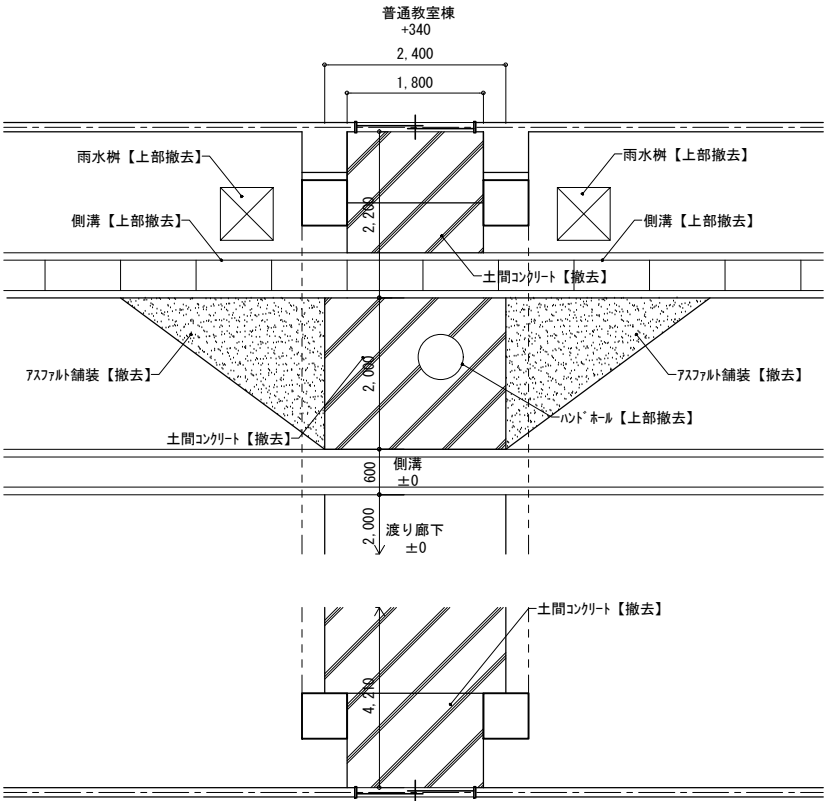
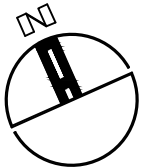
安全装置							
強制開離機構付ドアスイッチ （出し入れ口の戸）	ロック装置（出し入れ口の戸）						
ゲートスイッチ（かごの戸）	電磁ブレーキ（巻上機）						
操作盤非常停止ボタン	終端スイッチ （かご行き過ぎ制限スイッチ）						
戸開放防止警報装置 （オートアナウンス付）	インバータ異常検知						
かご昇降時間管制（AST）	インバータ緊急出力遮断						
衝突受（かご・おもり）	巻上機ロープ外れ止め						
積載注意名板							
電源設備							
電源トランス 容量 KVA	電源側 NFB 定格A	動力電源線サイズ別最大引込長（m）				接地線 最小サイズ （mm ² ）	機械室 発熱量 kJ/h
2, 0 m ²	3, 5 m ²	5, 5 m ²	8, 0 m ²				
4. 1	30	21	37	58	85	2. 0	2662



昇降路縦断面図 S = 1 : 2 0

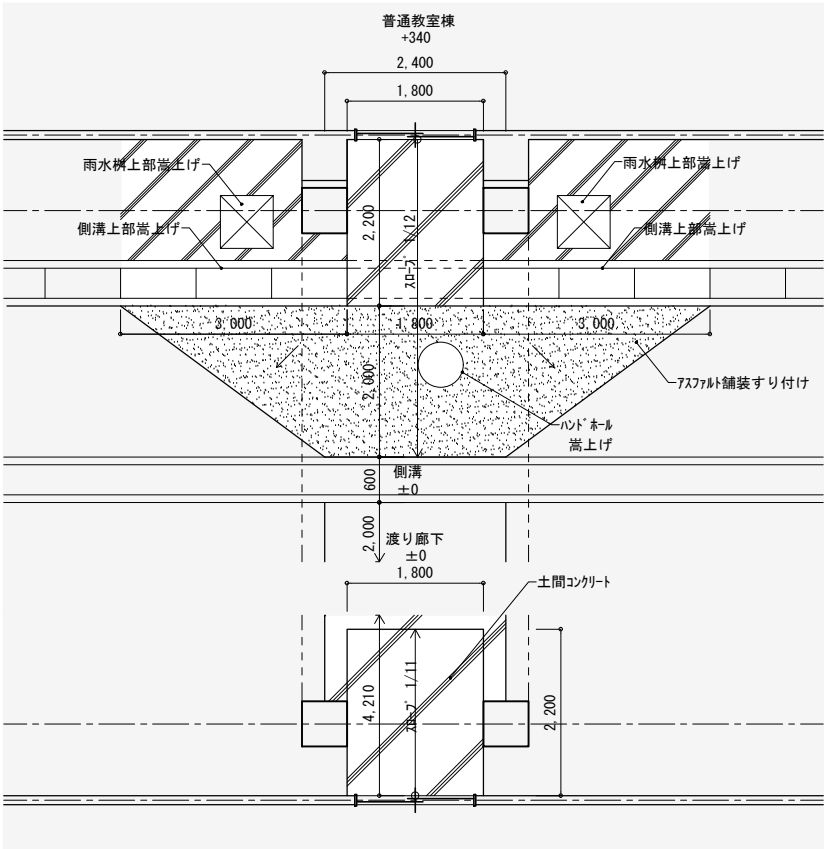
ピット衝突荷重	
FA(かご側)	FB(おもり側)
43.2kN	27.8kN

EXP. J 詳細図（クリアランス100）床－床		A1:1/ 5 A3:1/10
		
EXP. J 詳細図（クリアランス5100）外壁－外壁コーナー・内壁－内壁		A1:1/ 5 A3:1/10
		
EXP. J 詳細図（クリアランス50）天井－天井		A1:1/ 5 A3:1/10
		
EXP. J 位置図		A1:1/100 A3:1/200
		
折板 詳細図		A1:1/10 A3:1/20
		
EXP. J 詳細図（クリアランス50）天井－天井		A1:1/10 A3:1/20
		
腰壁SUS板貼		A1:1/5 A3:1/10
		
雑詳細図		A1:1/5, 10, 100 A3:1/10, 20, 200
		



改修前_平面図

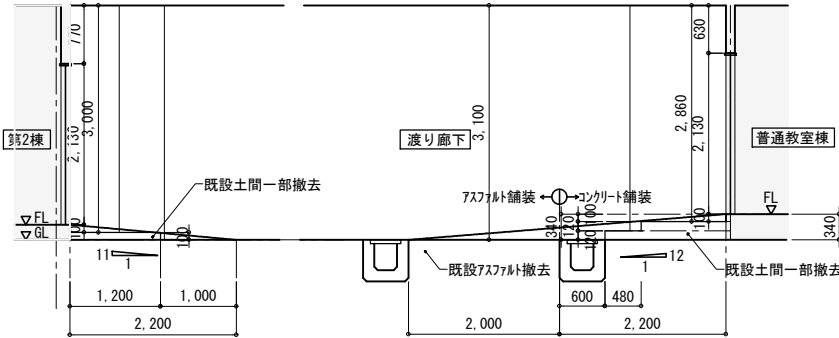
A1:S= 1/50
A3:S= 1/100



改修後_平面図

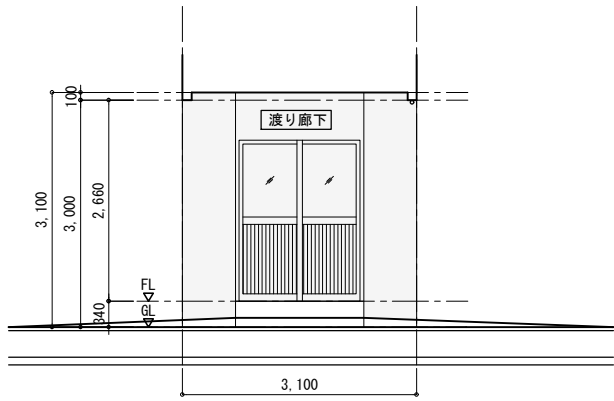
A1:S= 1/50
A3:S= 1/100

- 凡 例
- 土間コンクリート直均しt120
 - 溶接金網
 - 再生クワッチラン(RC-40)t100
 - 密粒度アスコンt50
 - プライムコート PK-3
 - 再生クワッチラン(RC-40)t100
 - 路床整正



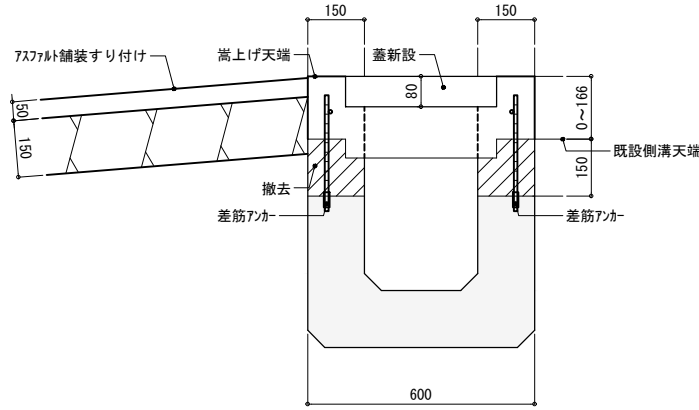
改修後_断面図a

A1:S= 1/50
A3:S= 1/100



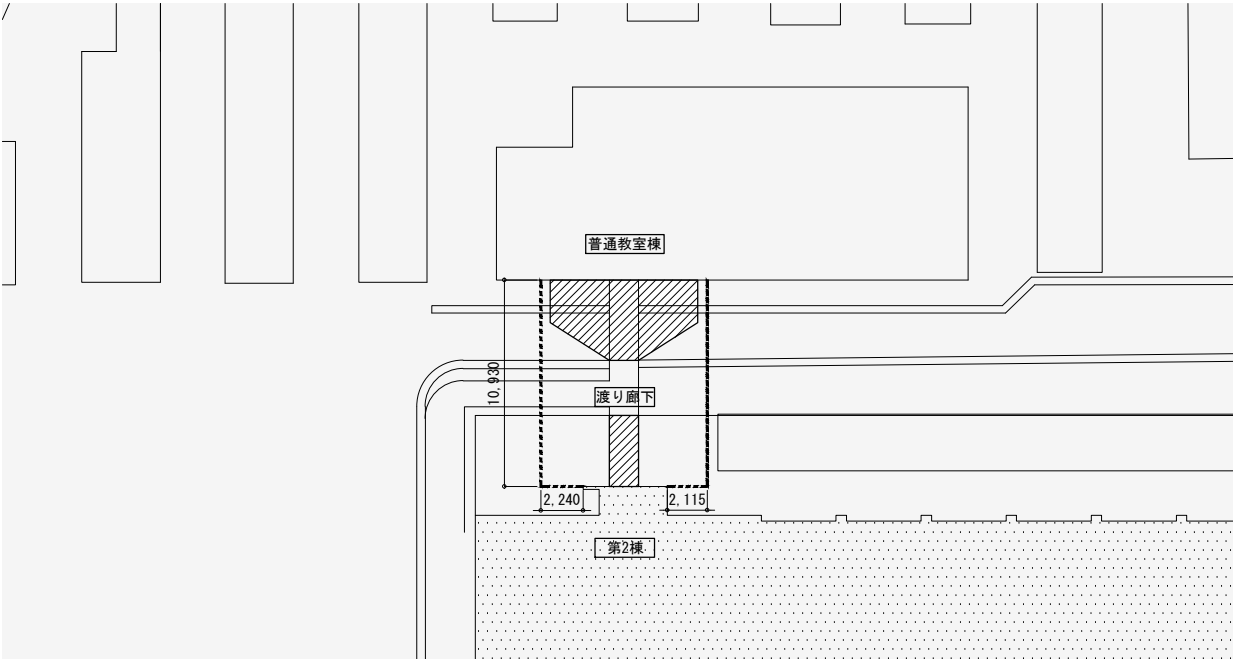
改修後_断面図b

A1:S= 1/50
A3:S= 1/100



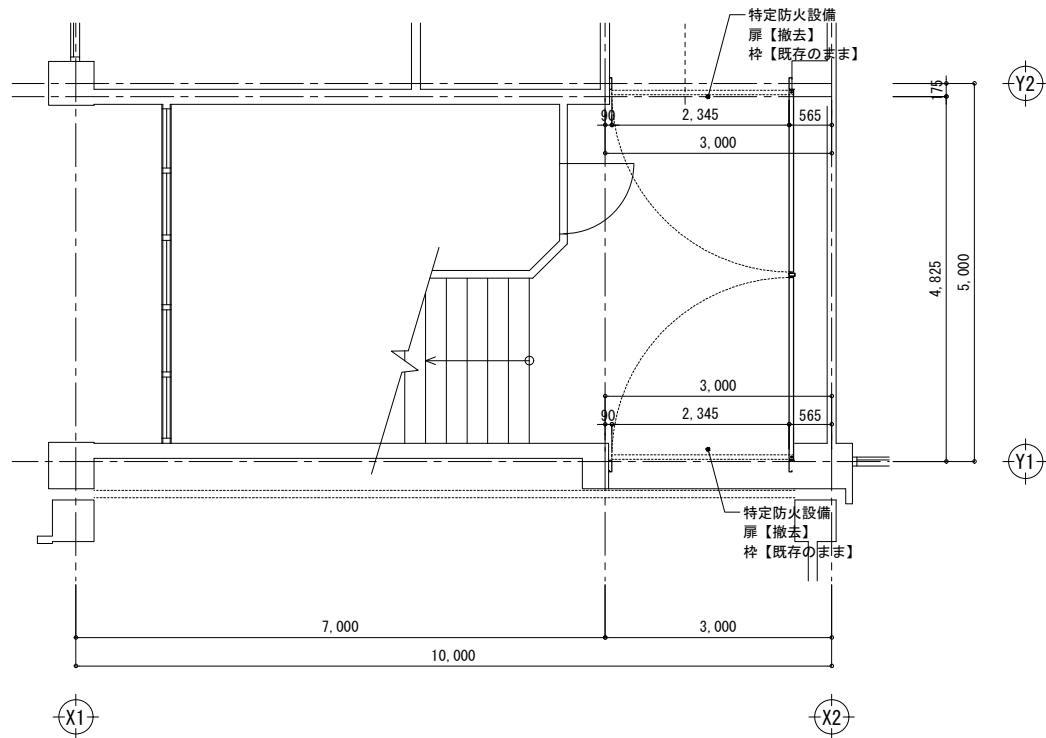
側溝詳細図

A1:S= 1/10
A3:S= 1/20

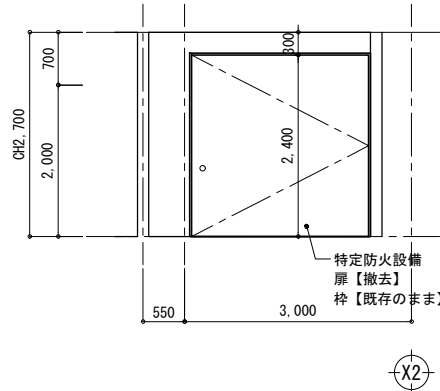


配置図

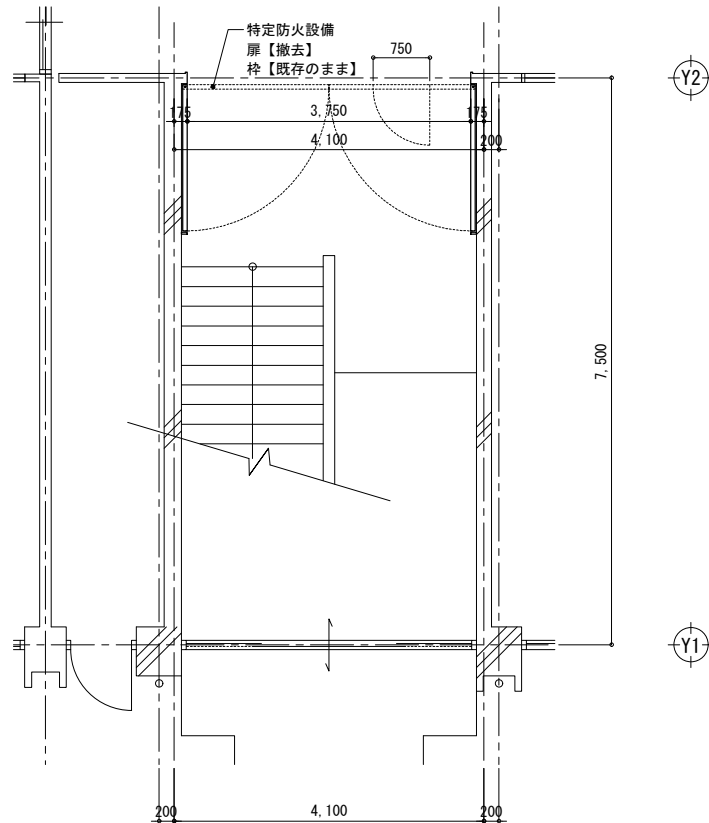
A1:S= 1/100
A3:S= 1/200



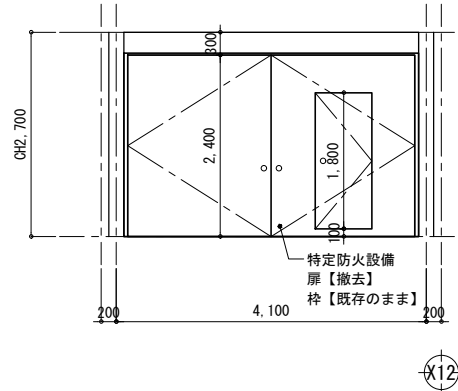
1階西側階段詳細図 (改修前) A1:S= 1/50 A3:S= 1/100



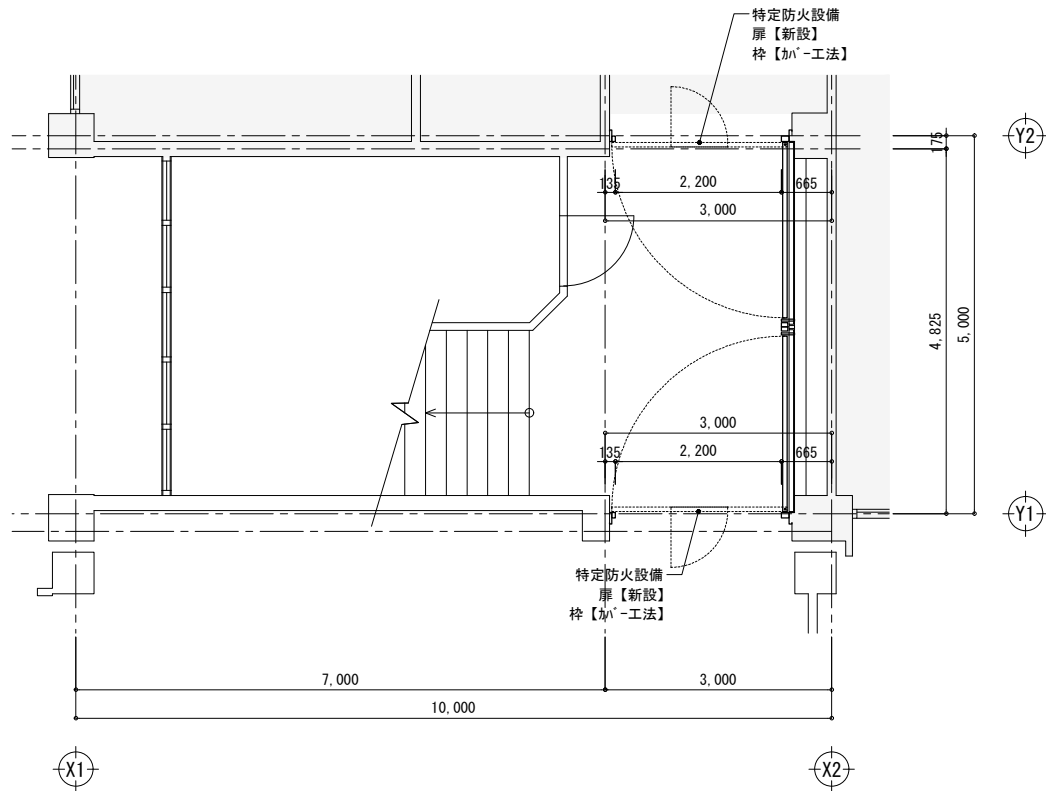
1階西側階段展開図 (改修前) A1:S= 1/50 A3:S= 1/100



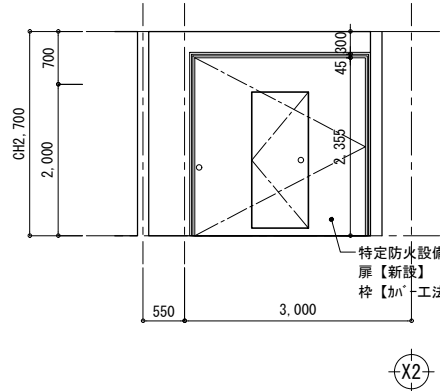
1階中央階段詳細図 (改修前) A1:S= 1/50 A3:S= 1/100



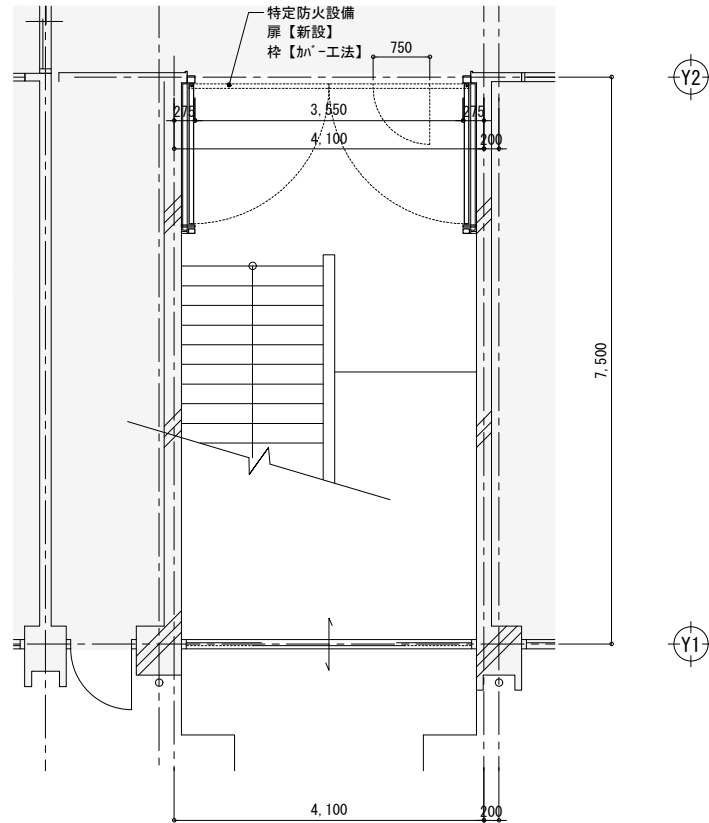
1階中央階段展開図 (改修前) A1:S= 1/50 A3:S= 1/100



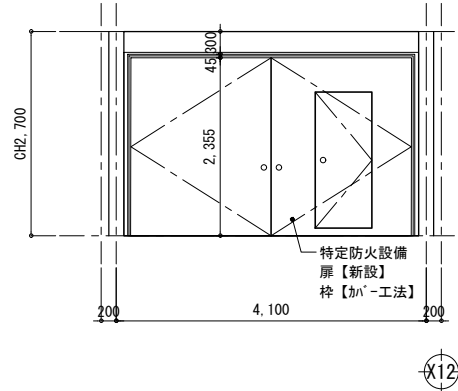
1階西側階段詳細図 (改修後) A1:S= 1/50 A3:S= 1/100



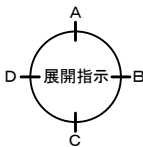
1階西側階段展開図 (改修後) A1:S= 1/50 A3:S= 1/100



1階中央階段詳細図 (改修後) A1:S= 1/50 A3:S= 1/100



1階中央階段展開図 (改修後) A1:S= 1/50 A3:S= 1/100



構造設計標準仕様

適用は 印を記入する。

1, 建築物の構造内容

- (1) 工事名称 中部中学校給食配膳室等整備工事
- 建築場所 三重県亀山市田村町75
- (2) 工事種別 ☐ 新築 ☒ 増築 ☐ 増改築 ☐ 改築
- (3) 構造種別
- ☐ 木造 (W) ☐ 補強コンクリートブロック造 (CB) ☒ 鉄骨造 (S)
- ☐ 鉄筋コンクリート造 (RC) ☐ 壁式鉄筋コンクリート造 (WRC)
- ☐ 鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC) ☐ 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)
- ☐ プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC) ☐
- (4) 階 数
- 地下 0 階 地上 3 階 塔屋 0 階
- (5) 主要用途 中学校
- (6) 屋上付属物
- ☐ 広告塔 ☐ 高架水槽 ton ☐ 室外機 ☐
- ☐ 煙突 ☐ キュービクル ton ☐ 太陽光パネル(予定) ☐
- (7) 増築計画 ☐ 有 () ☒ 無
- (8) 付帯工事
- ☐ 門塀 ☐ 擁壁 ☐ ☐ ☐
- (9) 特別な荷重
- ☒ エレベータ 荷物用 (ロープ式) 油圧式 ☐ リフト ton ☐ ホイスト ton
- ☐ 倉庫積載床 Kg/m² ☐ 受水槽 ton
- (10) 構造計算ルート X方向ルート (1) Y方向ルート (1)

2, 使用構造材料

- | 1) コンクリート | | 品質保証強度は設計基準強度+3Nとする | | | |
|---------------|--------------------|----------------------------|---------|-------|--|
| 適用箇所 | 種類 | 設計基準強度FC-N/mm ² | スランプ cm | 備考 | |
| 捨コンクリート | ● 普通 | □ 13.5 ● 18 | 18 | | |
| 土間コンクリート | ● 普通 | □ 18 ● 21 | 18 | | |
| ラッフルコンクリート | ● 普通 | ● 18 □ 21 | 18 | | |
| 基礎、基礎梁 | ● 普通 | ● 24 □ 27 □ 30 | 15 | | |
| 柱、梁、壁、床、2BL以上 | 1階スラブ
● 普通 □ 軽量 | ● 24 □ 27 □ 30 | 15 | | |
| | ● 普通 □ 軽量 | ● 24 □ 27 □ 30 | 15 | | |
| | ● 普通 □ 軽量 | □ 21 □ 24 □ 27 | 15 | | |
| | □ 普通 □ 軽量 | □ 21 □ 24 □ 27 | | | |
| | □ 普通 □ 軽量 | □ 21 □ 24 □ 27 | | | |
| 押えコンクリート | □ 普通 □ 軽量 | □ 18 □ 21 □ 24 | 18 | 比重 18 | |

- (2) コンクリートブロック (CB)
☒ A種 ☐ B種 ☐ C種 厚 ☐ 100 ☐ 120 ☐ 150 ☐ 190

- ### (3) 鉄筋

	種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	■ SD295A	D10～D16		● 重ね継手
	□ SD295B			
	■ SD345	D19～D25		● ガス圧継手 D19以上
	□ SD390	D29以上		
丸 鋼	□ SR235			□ 特殊継手
溶接金網	□	D6-100×100		()

- #### (4) 鉄骨

	種類	使用箇所	現場溶接	設計溶接強度
鋼 材	☒ SS400 ☐ SM400A ☐ SSC400 ☐ SM400B ☐ SM490B ☐ STKR400 ☐ STK490 ☐ STK400 ☐ SM490B ☒ BCR295 ☐ JBCR295 ☐ BCP325 ☐ SM490B ☒ SM490C ☐ TMCP (BT-HT325C)	梁	☐ 有 ☒ 無 ☐ 0.9F ☒ 1.0F ☐ 有 ☒ 無 ☐ 0.9F ☒ 1.0F ☐ 有 ☒ 無 ☐ 0.9F ☒ 1.0F	
		柱	☐ 有 ☒ 無 ☐ 0.9F ☒ 1.0F ☐ 有 ☒ 無 ☐ 0.9F ☒ 1.0F	
		ダクト	☐ 有 ☒ 無 ☐ 0.9F ☒ 1.0F	
備 考	SS400 : JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材) -195 STKR400: JIS G3466 (一般構造用圧延鋼材) -198 SM490C: JIS G3136 (建築構造用圧延鋼材) -194 SNR400B: JIS G3138 (建築構造用圧延鋼材) -197 SSC400: JIS G3350 (一般構造用圧延鋼材) -196 BCR295: 大臣認定 MSTL-0141 MSTL-0142同等品 JBCR295: 大臣認定 MSTL-0401 (BCJ評定-ST0216)			

- (5) ボルト

- | | | | | |
|---|--|---|---|--|
| ☐ 高力ボルト | ☒ F10T | ☒ F8T | ☐ S10T | 認定品 (☐ M12 ☒ M16 ☒ M20 ☐ M22 ☐ M24 |
| 株式会社NSK [※] 17年 認定番号 MBLT-0052 (国指第1669号平成16年11月4日付) | | | | |
| ☒ 中ボルト | $\phi = 13$ | $\phi = 12$ | 高力ボルトすべり係数試験 ☐ 要 ☒ 否 | |
| ☒ アンカーボルト | SMR400
SS400 | $L =$
$\phi = 20, 16$ | $L = 400, 320$ mm | ナット (シングル, ダブル)
ナット (シングル, ダブル) |
| ☒ ベー [※] の柱脚工法を使用する。 | (財)日本建築学会による一般評定 FBCJ評定-ST0093-16] (平成28年9月16日付)
同部株式会社京都工場 認定番号 MBLT-0063 (国指第2973-1号平成18年3月15日付)
同部株式会社京都工場 認定番号 MBLT-0063 (国指第2973-2号平成18年3月15日付) | | | |
| ☐ 頭付スタッド | $\phi = 16$ | 19 | $L = 80, 100, 130$ | mm |
| (6) 屋根、床、壁 | | | | |
| ☐ 角波サイディング [※] | 使用箇所外壁 | | | |
| ☐ アスロック | 厚60 | ロイヤル [※] 工法 | 使用箇所外壁 | |
| ☒ ALC | 厚120 | ロイヤル [※] 工法 | 使用箇所外壁 | |
| ☒ 金属屋根 | 折板ハゼ葺き H=166 t=0.8 (インシュレーション) | | | |
| ☒ デッキプレート | 形式 QL-99-50-12 | | 厚1.2 | |

3, 地 盤

- (1) 地盤調査
- ☐有（☐敷地面 ☐近隣） ☐ボーリング調査 ☐平板載荷試験 ☐水平地盤反力係数の測定
☐土質試験 ☐物理試験 ☐簡易粒度試験
- 無 （調査予定） ☐有 ■無
- (2) 地盤調査計画
- ☐ボーリング調査 ☐静的貫入試験 ☐標準貫入試験 ☐水平地盤反力係数の測定
☐土質試験 ☐物理調査 ☐平板載荷試験 ☐簡易粒度試験
- (3) 地盤調査及び試験杭の結果により、長杭、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある
- (4) ボーリング標準貫入値、土質構成（基礎・杭の位置を明記すること）

別図による。

- ☐ 調査地盤
- ☐ 位置図
- ☐ 支持地盤、地層及び深さについてのコメント
- ☐ 孔内水位
G L -
- ☐ 近隣データの調査地盤と設計地盤とは約 m の距がある
- ☐ 備考

4, 地業工事

- (1) 直接基礎 ☐ ベタ基礎 ☐ 布基礎 ☒ 独立基礎 試験堀 ☐ 有 ☒ 無
深さGL- m、支持層 長期許容支持力度 250 kN/m² 載荷試験 ☒ 有 ☐ 無

- (2) 基礎杭 支持層—風化花崗岩

杭 種	材 料	施工法	備考
☐ RC ☐ PHC	PHC (☐ A種 ☐ B種 ☐ C種)	☐ 打ち込み	JIS規格品
☐ PRC ☐ H鋼	CPRC (☐ I種 ☐ II種 ☐ IV種)	☐ 埋込み (セメントミルク工法)	
☐ SC ☐ 鋼管	SC tc = (☐ 9 ☐ 12 ☐ 16)	☐ HI-FB (大臣認定工法 TACP-0263) 同等品 ☐ MAGNUM-BASIC (大臣認定工法 TACP-0507) 同等品 ☐ HILPERLITE (大臣認定工法 TACP-0404) 同等品 $\alpha=340$ 以上	
☐ 摩擦杭	鋼材 ☐ STK400 ☐ STK490	※打力について(又は注法に用いるため)ノートの積算書を作成し監督者の確認を要す。	
☐ 場所打ち コンクリート杭	コンクリート F c = スランブ c m セメント量 K g / m ² 鉄筋 主筋 SD HOOP SD	☐ オールドキング ☐ 底底杭 ☐ リバースサーキュレーション ☐ アースドリル ☐ ミニアース ☐ B H ☐ 深礎 ☐ 手掘 ☐ 機械掘	底底杭 日本建築学会認定 第 号 年 月 日

杭仕様 ☐ 施工計画書承認 ☐ 杭施工結果報告書

試験杭 (☐有 ☐無) (☐打ち込み ☐載荷) 試験掘 本 位置は現場係員と協議の上決定

符号	杭径 (mm)	設計長期支持力 (kN) (設計短期引拔耐力)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項

※地盤調査、土質試験、力学試験の結果により変更も有り得る。 ※杭の継手工法を機械式継手とする場合は認定書及び検討書を提出し監理者の確認を得ること。
※試験掘は本杭を兼ねない。試し掘り跡の穴はセメントミルクを注入する。
※既成杭の施工管理については、「平成28年国交省告示第468号」を遵守すること。

5. 鉄筋コンクリート工事

- ① コンクリート
コンクリートはJIS認定工場製の製品とし施工に関してはJASS5(2003)による。
セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
構造体コンクリート現場の圧縮度試験体試験(JASS5-T-603)は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打ち込み量が150m³をこえる場合は150m³ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当り6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。
ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技術または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。
- (2) 鉄筋
鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。
鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋基準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
D19未満は、すべて重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと(200箇所を超えるときは、200箇所ごと)に1回行い、1回試験は3本以上とする。
外観検査 有 □ 無、引張試験 有 □ 無、超音波深層試験 有 □ 無
柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、
□ H型(タ型) □ W型(溶接型)
□ S型(スパイラル型)とする。
- 水セメント比 □ 60以下 □ 55以下
単位水量 □ 180kg/m³以下 □ 175kg/m³以下 □ 170kg/m³以下
単位セメント量 □ 単位水量を達成できない場合は高性能AE減水剤を使用することやむを得ない □ 300kg/m³以上 400kg/m³以下
- コンクリート及び鉄筋の試験は公共またはそれに準ずる第三者試験機関で行うこと。
- (3) 型枠
材料 合板厚 12mmを標準とする。
型枠存置期間※鉄骨建て方は設計基準強度の100%を確認。

種類 部位		せ き 板				支		柱
		基礎、梁側、柱、壁	スラブ下、はり下			スラブ下		はり下
セメント の 種類 平均 気温	早強度 [※] ルト ランド [※] セメント	早強度 [※] ルト ランド [※] セメント	早強度 [※] ルト ランド [※] セメント	普通 [※] ルト ランド [※] セメント	早強度 [※] ルト ランド [※] セメント	普通 [※] ルト ランド [※] セメント	早強度 [※] ルト ランド [※] セメント	
	高炉セメント A種			高炉セメント A種		高炉セメント A種	普通 [※] ルト ランド [※] セメント	
	シリアセメント A種			シリアセメント A種		シリアセメント A種	高炉セメント A種	
							シリアセメント A種	
コン クリ ート (日)	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの 圧縮強度		12N/mm2 (埋戻し時は18N/mm2)		設計基準強度の100%		設計基準強度の		
						100%		100%

注)1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。

注)2 スラブの支柱の盛りかえは行わない。

注)3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。

注)4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。

注)5 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6, 鐵骨工事

- (1) 鉄骨工端は指示のない限り下記による
- 日本建築学会「JASS 6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
■ 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
- (2) 工事管理者の承認を必要とするもの
- 制作工場 ■ 製作要領書 ■ 工作図 ■ 施工計画書
- 建築基準法第 6 8 条による認定工場 (大臣認定 グレード)
- 材料規格証明書または試験成績書
- 鋼材 ■ 高力ボルト ■ 特殊ボルト □ スタッドボルト
- 社内検査表
- (3) 工事監理者が行う検査項目
- (● 印以外の項目の検査結果については、工事管理者に報告すること)
- 現寸検査 ■ 組立・開先検査 ■ 製品検査
- 建方検査
- (4) 接合部の溶接は下記によること
- 日本建築学会「溶接工作基準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」

- (5) 接合部の検査
溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告する二こ）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備 考
		社内	第三者	工事管理者	
☒ 突合せ溶接部 ☐ ☐	超音波深傷試験 外観（目視）検査 マクロ試験・その他	100 個	30 個	個 個 個	主要構造部の製作外注は原則として行わない。
第三者検査機関名					
第三者検査機関とは、建築主、工事管理者又は工事施工者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

注) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。

- 高カボルトは「J」S B 1 1 8 6の高カボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態あること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが50 S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
- 高カボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2度締めとする。
- 締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。

- (6) 防錆塗装
- 防錆塗装の範囲は、高カポルト接合の摩擦面及びコンクリートで被服される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5674、2回塗りを標準とする。
- 現場における高カポルト接合部及び接合部の素地調整は急に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。
- (7) 耐火被覆の材料
- 意匠図による。

- (8) 補強部材
- 屋根及び外壁の継ぎ目、開口周り及び建具等の補強部材は適宜監理者と相談の上配置する。

7. 設備関係

- 梁貫通孔の配置は設備図による。梁貫通補強に既製品を使用する場合はメーカーの検討書と管理者の承認を要す。
- 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
- 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1／3以下とし管の間隔を5 c m以上とする。

※ 建築基準法施行令第129条の2の3の事項
建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

- 建設設備（昇降機を除く）、建築物の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽の恐れがないものとする。
- 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、
 - 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とする。
 - 建築物の部分を通ずる配管の場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
 - 管の伸縮又は他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
 - 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
- 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他の建築物の一部に、その設置する位置を示す第20条第一号第三号の図に示すような風圧及び地震その他の震動及び衝撃に耐える構造耐力上安全なものとする。
- 「給湯設備」は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造として、かつ、給水時の水量が15%を超えない給湯設備として、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示138号第5に規定する構造方法によること。
- 「給湯設備」：建築物における電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの。

- ## 8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
- 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
- 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

工事名称 中部中学校給食配膳室等整備工事		図面名称 構造仕様書			縮尺 A1: non A3: non
株式会社 アスカ 総合設計 	管理建築士 一級建築士 第242755号 矢野 孝義	設計者 一級建築士 第90981号 谷川 精一	設計者	構造設計者	重積年月 (2025)R7年03月 7/15番号 2024a011-0325H
		図面番号 S - 01			

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１．一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
d・・・異形鉄鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D・・・部材の成 R・・・直径
@・・・間隔 r・・・半径 e・・・中心線 lo部材の内寸法距離 ho・・・部材間の内法高さ
ST・・・あばら筋 HOOP・・・帯筋 S, HOOP・・・補強帯筋 φ・・・直径又は丸鋼

２．鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折まげ角度90°はスラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むI形およびL形梁のキヤップタイにのみ用いる。 ※片持スラブ、L配筋の先端
図				
鉄筋の予長	4d以上	6d以上(※4d以上)	10d以上(※4d以上)	

折曲げ内法寸法Rは、SR235は3d以上、SD295A、SD295B、SD345のD16以下は、3d以上、D19以上は4d以上

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋折り曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内の寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ以下 D16以下	3d以上 4d以上
	上記以外の鉄筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ以下 19φ～25φ D19～D25 28φ～32φ D29～D38	6d以上 8d以上

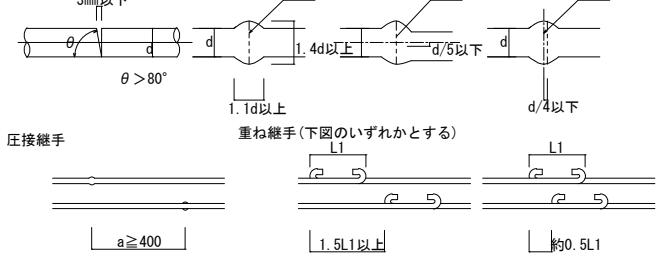
(3) 鉄筋の定着及び重ね継手長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm2)	定 着 の 長 さ			特別の定着及び重ね継手の長さ(L1)
		一般 (L2)	下ば筋 (L3)		
			小 梁	スラブ	
SD295A SD295B SD345	21～27	40d または 25d フックつき	25d または 15d フックつき	10d かつ 15cm以上	40d または 30d フックつき
	30～45	40d または 20d フックつき			40d または 25d フックつき
SD390	21～27	40d または 30d フックつき	25d または 15d フックつき	10d かつ 15cm以上	45d または 35d フックつき
	30～45	40d または 25d フックつき			40d または 30d フックつき

継手

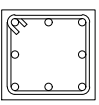
1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状



(4) かぶり厚さ (単位: mm)

ひびわれ誘発目地部など底部のかぶり厚さが部分的に減少する箇所に対しても最小かぶり厚さを確保する。



かぶり厚さ

部位		設計かぶり厚さ (mm)	
		設計かぶり厚さ (mm)	最小かぶり厚さ (mm)
土に接しない部分	屋根スラブ・床スラブ・非耐力壁	屋 内 30	20
		屋 外 40	30 (20)
	はり	屋 内 40	30
	耐力壁	屋 外 50	40 (30)
土に接する部分	擁 壁	50	40
	柱・はり・スラブ・耐力壁	50	40
	基礎・擁 壁	70	60

- (注) (1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事管理者の承認を受けて30mmとすることができる。
(2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事管理者の承認を受けて40mmとすることができる。
(3) コンクリートの品質及び施工方法に応じ、工事管理者の承認を受けて40mmとすることができる。
(4) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
(5) ()内は仕上げがある場合。
決定により標準かぶり厚さは10mm増し

(5) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上



(6) 鉄筋のフック (a-fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

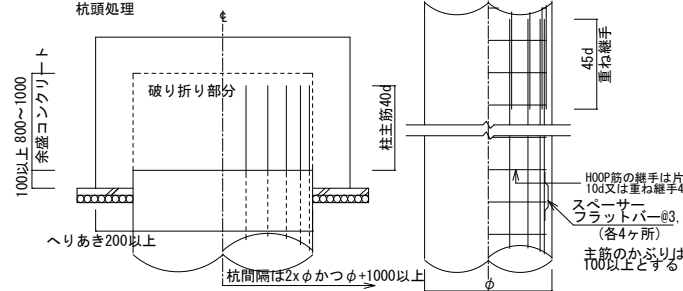
- a. 丸鋼 b. あばら筋、帯筋 c. 煙突の鉄筋
d. 柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）
e. 単純梁の下端筋
f. その他、本配筋標準に記載する箇所

３．杭（地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。）

(1) PC杭、又はPHC杭全てに補強を行う 杭頭補強は特記による。特記がなければ下記による。

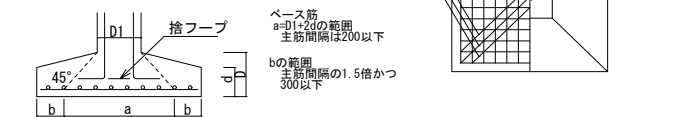
所定の場所に止まった場合		所定より低く止まった場合	
杭径	300φ、350φ、400φ	450φ、500φ、600φ	
補強筋	6-D13、8-D13	10-D13、8-D16、10-D16	
H O O P		D10-@150	

(2) 現場打ちコンクリート杭

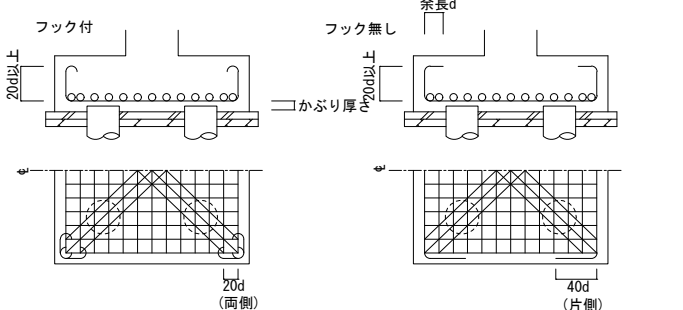


４．基礎

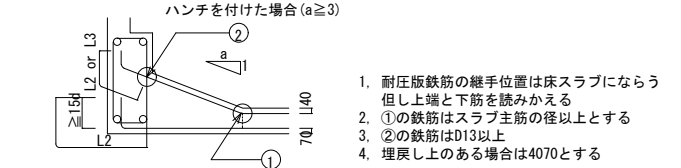
(1) 直接基礎



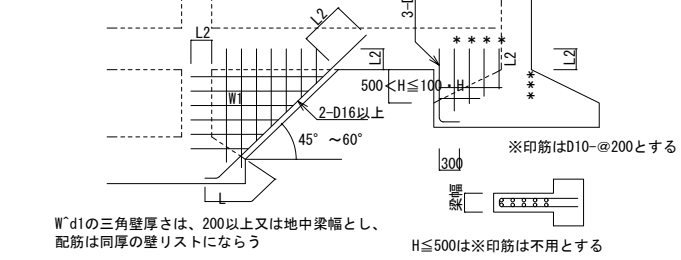
(2) 杭基礎



(3) ベタ基礎

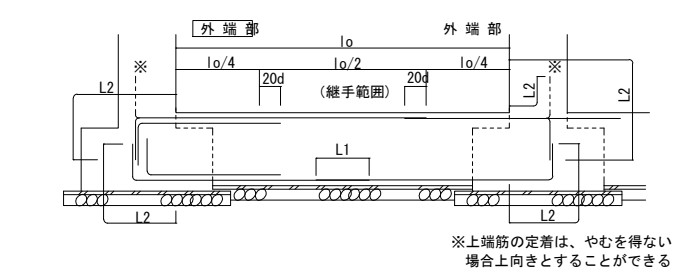


(4) 基礎接合部の補強

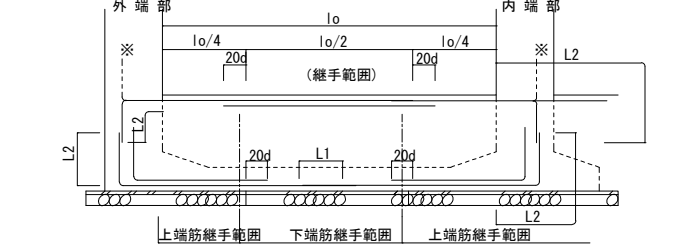


５．地中梁

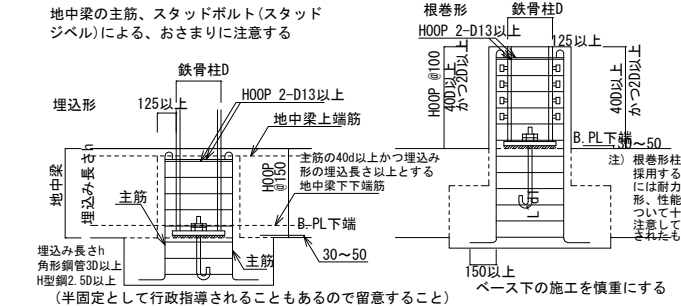
(1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)



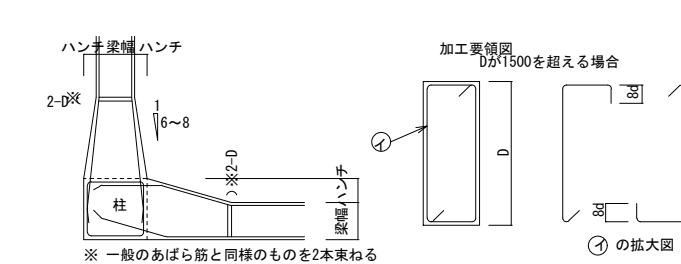
(2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)



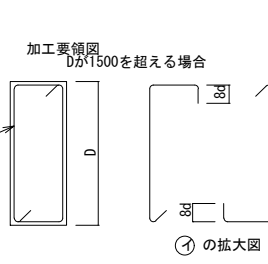
(3) 小規模鉄骨構造の柱脚固定の背筋



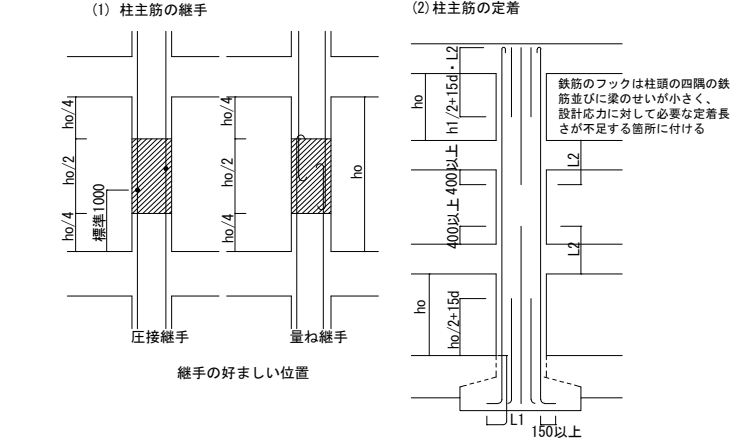
(4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領



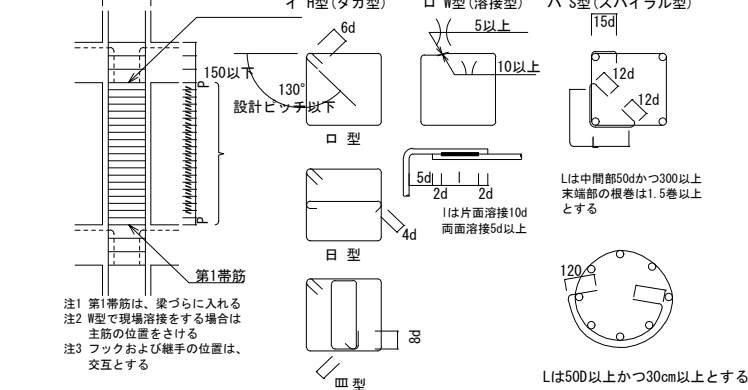
(5) せいの高い梁のあばら筋



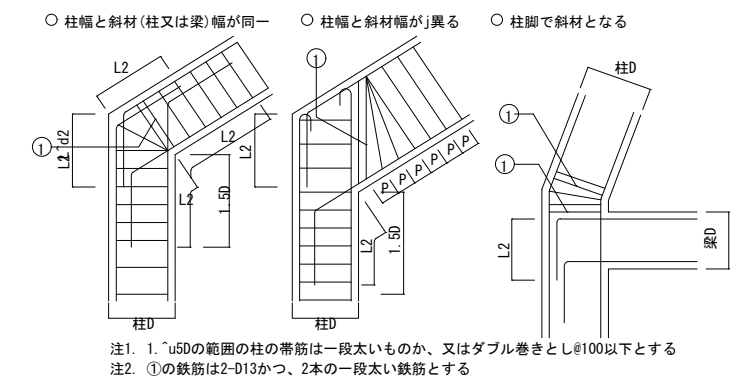
６．柱



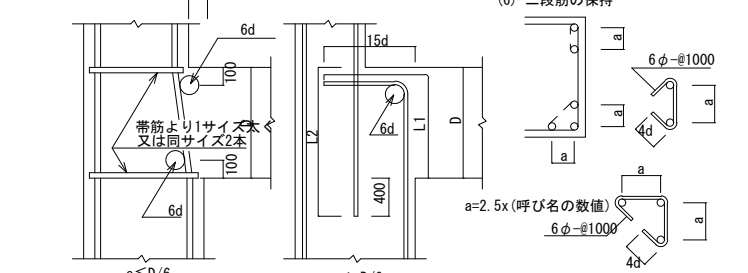
(3) 帯筋



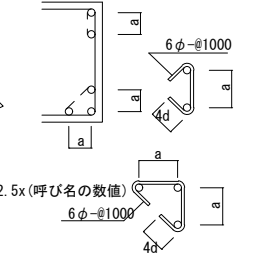
(4) 斜め柱・斜め梁



(5) 絞り



(6) 二段筋の保持



工事名称 中部中学校給食配膳室等整備工事

株式会社 **アスカ** 総合設計

三重県松阪市伊勢寺町590-4 一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-1287号

図面名称 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

設計者 一級建築士 第242755号 矢野 孝義
図面番号 S - 02

縮尺 A1: non
A3: non

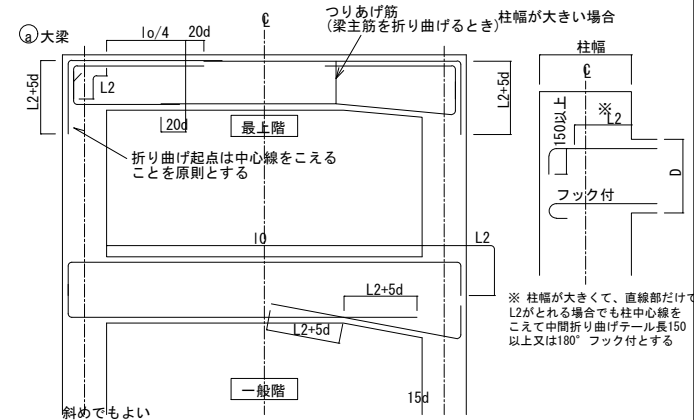
業務年月 (2025)R7年03月
2714番号
2024a011-0325H1

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

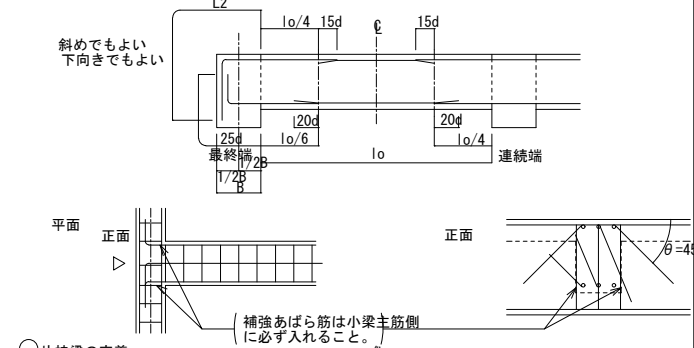
L=鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

7. 大梁、小梁、片持梁

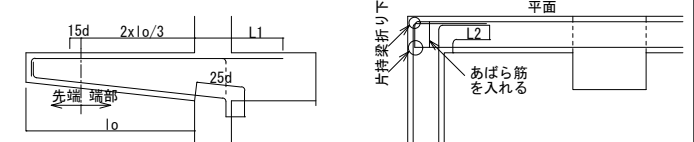
(1) 定着



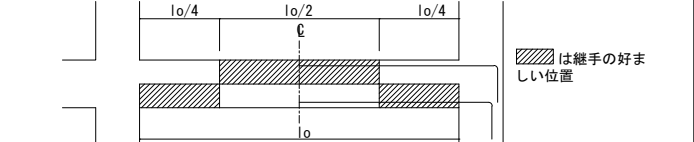
⑥ 小梁の定着



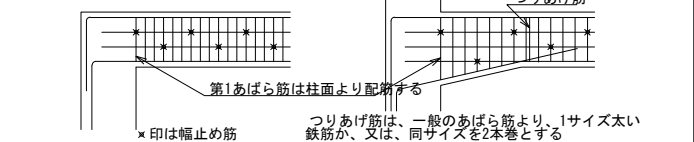
⑥ 片持梁の定着



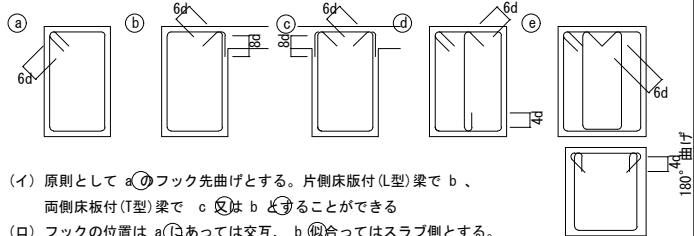
(2) 大梁主筋の継手



(3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置

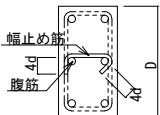


(4) あばら筋の型 (注、床板がない場合は135°以上のフックとする)



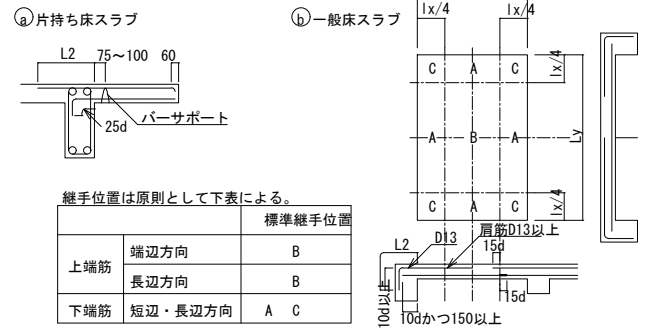
(イ) 原則として a のフック先曲げとする。片側床版付 (L型) 梁で b、両側床版付 (T型) 梁で c のように b とすることができる。
(ロ) フックの位置は a の場合は交互、b の場合はスラブ側とする。
(5) 幅止め筋の本数、加工

	D<600 不要
腹筋	600≤D<900 2-D10(9φ) 1段 900≤D<1200 4-D10(9φ) 2段 1200≤D D10(9φ) @300以内
幅止め筋	D10(9φ)@1000位内で割り付ける

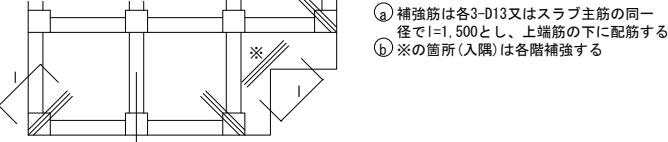


8. 床板

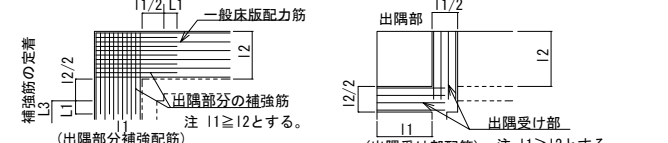
(1) 定着および継手



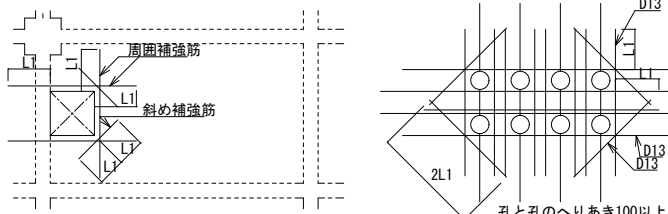
(2) 屋根スラブの補強



(3) 片持ちスラブ出隅部補強

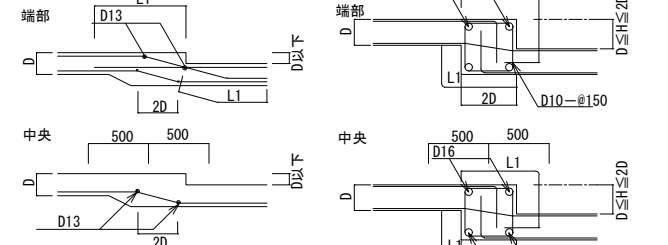


(4) 床板開口部の補強(開口の径500程度の場合)

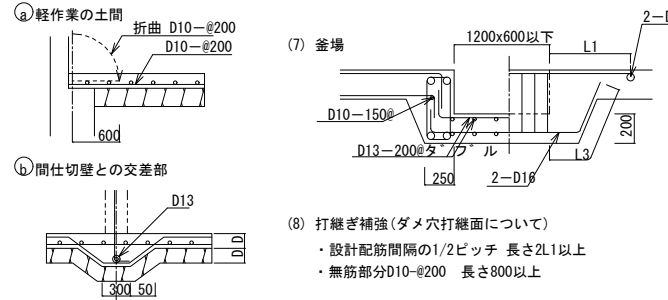


床板厚さD	周囲	斜め
D≤150	各2-D13	各1-D13
150<D≤200	各2-D13	各2-D13
200<D≤300	各2-D19	各2-D16

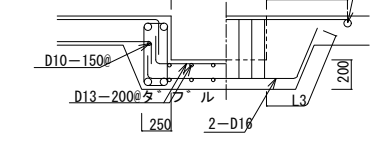
(5) 床板段差



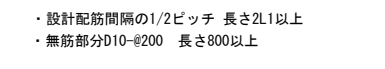
(6) 土間コンクリート



(7) 釜場

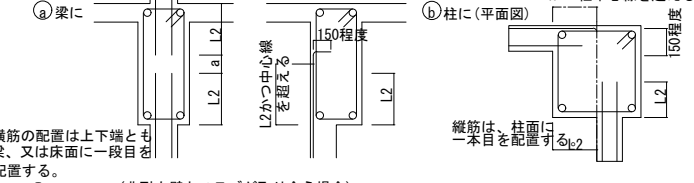


(8) 打継ぎ補強(ダマ穴打継面について)

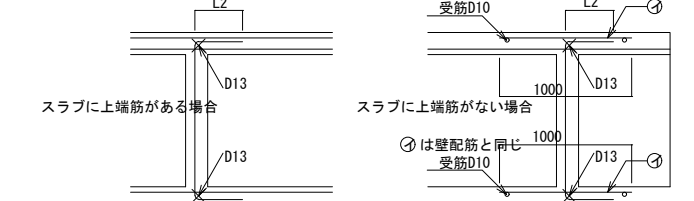


9. 壁

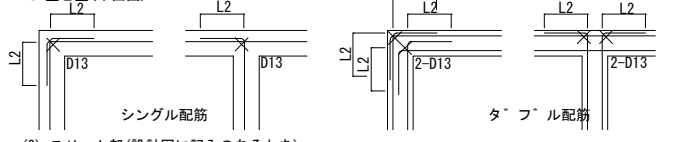
(1) 定着



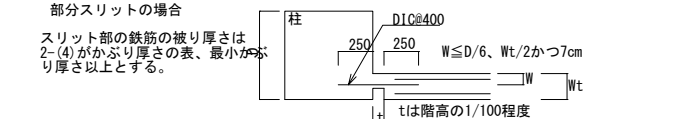
⑥ 床に



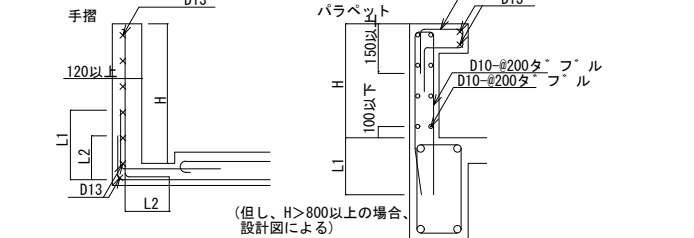
⑥ 壁と壁(平面図)



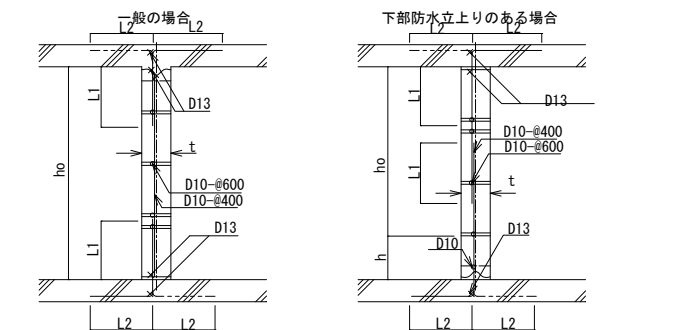
(2) スリット部(設計図に記入のあるとき) 部分スリットの場合



(3) 手摺、パラベット

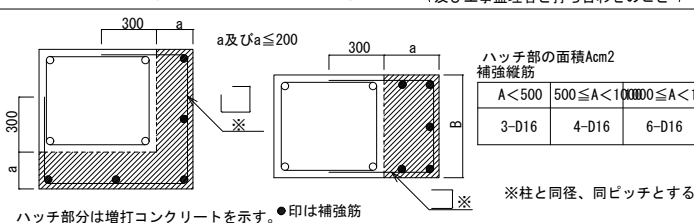


(4) コンクリートブロック構壁

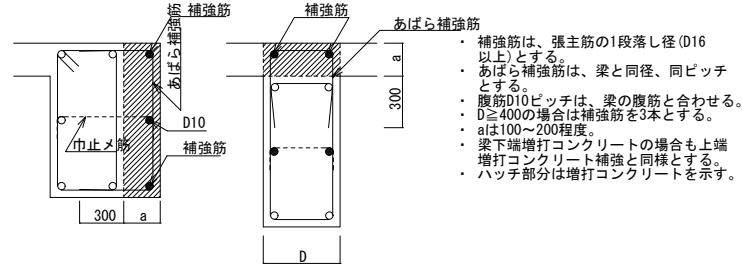


注) ho≤25tかつ3500以下とする。但し直交方向25t以内に壁、又は柱がある場合は除く
注) hはコンクリートブロック段数調節寸法とする。但し、200≤h≤400
注) 継手部は必ずモルタルをてん充すること

10. 柱、梁増打コンクリート補強

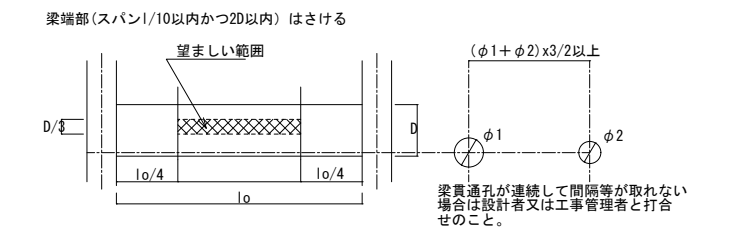


(2) 梁



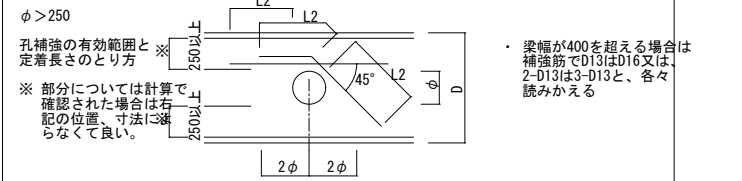
11. 梁貫通孔補強

(1) 設置可能範囲



(2) 鉄筋標準配筋 但し、φ≤D/3とする

80≤φ≤100	100≤φ≤150	150≤φ≤250
折筋 2-(2-D13) 縦筋 ST2-D13	折筋 2-(2-D13) 縦筋 ST2-D13-100@ 横筋 2-(2-D13)	斜筋 4-(2-D13) 縦筋 ST2-D13-100@ 横筋 2-(2-D13) 上縦筋 ST2-D13

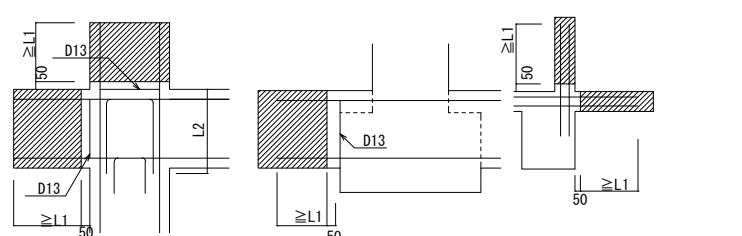


(3) 既製品 (使用するときは、設計者又は工事管理者と打合せのこと)

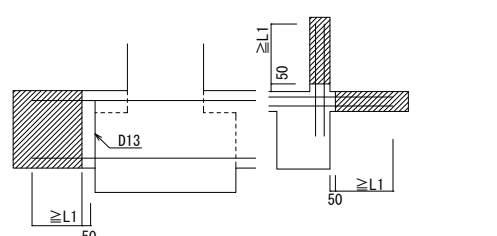
□ リング型 □ バイプ型 □ 金網型 □ プレート型

12. 増築予定 (将来増築予定のコンクリート間仕打ち部分は、増築時の鉄筋継手工事を考慮して配置する)

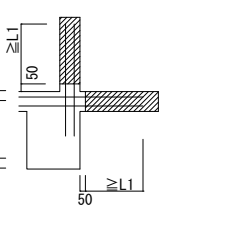
(1) 柱、梁



(2) 地中梁



(3) 床版、壁



工事名称 中部中学校給食配膳室等整備工事

株式会社 アスカ 総合設計
三重県松阪市伊勢寺町590-4 一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-1287号

図面名称 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

設計者 一級建築士 第242755号 矢野 孝義
構造設計者 谷川 精一
2024a011-0325H1

縮尺 A1: non
A3: non

図面番号 S - 03

鉄骨構造標準図

1. 一般事項

- (1) 材料及び検査
- (a) 構造設計仕様による
- (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする
- (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する
- (2) 工作一般
- (a) 鉄骨製作及び施行に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事管理者の承認を得る
- (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
- (c) 高張力鋼のひずみきょう正は、冷間きょう正とする
- (3) 高力ボルト接合
- (a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
- (4) 溶接接合
- (a) 溶接技能者
- 溶接技能者は施工する溶接に適用するJIS Z3801(手溶接)又はJIS Z3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引き続き、半年以上溶接に従事している者とする
- (b) 溶接機器
- (イ) 交流アーク溶接機 300A～500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
- (ロ) アークエアーガウジング機(直流) (ホ) 溶接電流を測定する電流計
- (ハ) サブマージアーク溶接機 1 式 (ヘ) 溶接棒乾燥器
- (c) 溶接方法
- アーク手溶接(MC) ガスシールドアーク半自動溶接(GC)
- セルフ(ノンカ゛ス)シールドアーク半自動溶接(NGC)アークエアーガウジング(AAG)
- (d) 溶接姿勢
- 下向 F 立向 V 横向 H 上向 O
- (e) 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
- (イ) 仮付位置
- 組立て溶接は溶接の初、終端、過角部など用途上、工作上、問題となり易い箇所は避ける
- (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する
- (f) 溶接施工
- (イ) エンドタブ
- I) 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
- II) エンドタブの材質は、母材と同質とする
- III) エンドタブの長さは、MC: 35mm以上
- NGC、GC: 40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、エンドタブ母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
- IV) プレス鋼板タブ、圓形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監理者の承認を得る
- (ロ) 裏あて金
- 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする
- (ハ) スカラップ 半径は30～35mmと、10mmのダブルアールとする
- ※本工事は原則としてノンスカラップ 工法とする。
- (ニ) 裏はつり
- 基準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の承認を励行し、部材に確認マークを付ける
- (ホ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためない様に、養生を行う
- (5) 塗装
- コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの摩擦面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

2. 溶接基準図

(注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース S: 脚長 (単位 mm)

(1) スミ肉溶接

$t \leq 16\text{mm}$

t 7以下 8～10 11～13 14～16

S t1 t1 t1 t1

・但し片面溶接の場合はS=1.5tとする

余盛は(1+0.1S)mm以下とする

(2) 部分溶込み溶接 (使用箇所注意)

$D1 \geq t/3$ $t/3 \leq S \leq 10\text{mm}$ $t \leq t1$

t $t > 16\text{mm}$

溶接姿勢 F.V

・両端に補強すみ肉溶接を付加する

(3) 完全溶込み溶接 (平継手、T継手)

t=4/4

$\theta = 45^\circ$

f $R \leq 2$

G=0～2 (裏はつり後溶接)

・両側に補強すみ肉溶接を付加する AAG

t=4/4

MC NGC GC

t (mm) θ G t L θ G t L

$6 \leq t \leq 12$ 45° 6 6 5 45° 6 6 5

$12 \leq t < 16$ 35° 9 9 8 45° 6 9 8

$16 \leq t$ 35° 9 9 8 35° 9 9 8

溶接姿勢 F.V

・補強すみ肉溶接を付加する

f=t/4

T形突合せ継手余盛

のど厚 tmm 余盛の高さ mm

$t \leq 4$ 1

$4 < t \leq 12$ 2

$12 < t \leq 19$ 3

$t > 19$ 4

t $6 < t < 19\text{mm}$

溶接姿勢 F.V

f $\geq 0.5\text{mm}$ (ただし、 $t \geq 15\text{mm}$ のとき4mmとする) $\theta = 45^\circ$

削り面

a > 4mmの場合 平継手で板厚が異なるとき

G=0～2 (裏はつり後溶接)

G=0～2 (裏はつり後溶接)

・両端に補強すみ肉溶接を付加する

t $6 < t < 19\text{mm}$

溶接姿勢 F.V

(4) フレーア溶接

寸法 (mm)

ϕ 9 7 4.5

13 8 6.5

16 9 8

19 10 9.5

22 11 11

25 12.5 12.5

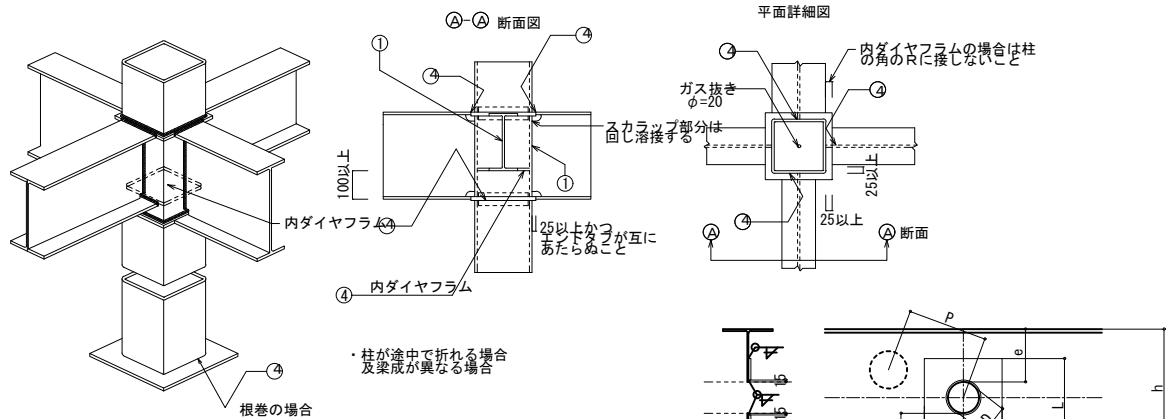
・フレーア溶接長は、鋼板に接する全長とする

・9mm～16mmは1スパン以上、19mm以上は2スパン以上とする

溶接 棒角度 θ は30°～40°とする

・溶接記号番号を○中に記入のこと

・BOX型 (通しダイヤフラムの場合)



スリーブ 補強要領

梁貫通孔の配置は設備図による。

共通事項

- D < h / 2 とする。
- e > D とする。
- P は大なる方のスリーブ径の3倍以上とする。
- L > 2.5D かつ L > 200 とする。
- スリーブ位置は鉄骨の中央材を原則とする。
- 補強要領は右表に示す。

(凡例) 無印 - 補強不要

- 印 - 母材が e と同厚プレートで補強する。
- △ 印 - 母材が e と同厚プレートで両面に補強する。
- X 印 - スリーブ 不可

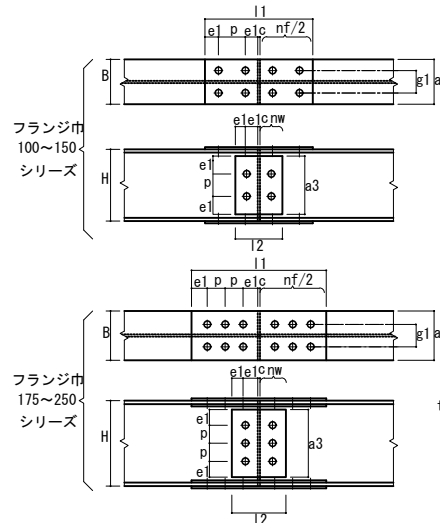
- 尚、補強プレートは全周隅肉溶接とし、スリーブ内側も同様とする。
- また、補強材の材料強度は母材と同等とする。
7. スリーブが鉄骨の端部材に配置されるときは、上記補強に加えて鋼管を溶接する。鋼管は両面全周隅肉溶接とする。
8. 既製品(認定品)を使用する場合は認定要領による。

ボルト接合要領

1 表示記号

H 形鋼	ウェブ 高さ	H	ボルト	フランジボルト	n f
	フランジ 巾	B		ウェブボルト	n w
添板	フランジ 厚	t2	ル	縁 端 距 離	e l
	ウェブ 厚	t1		ピ ッ チ	p
板	フランジ 外側添板	SPL-1	ト	ゲ ー ジ	g
	フランジ 内側添板	SPL-2		千鳥打ち間隔	b
板	ウェブ 添板	SPL-3		クリアランス	C

A 大 梁



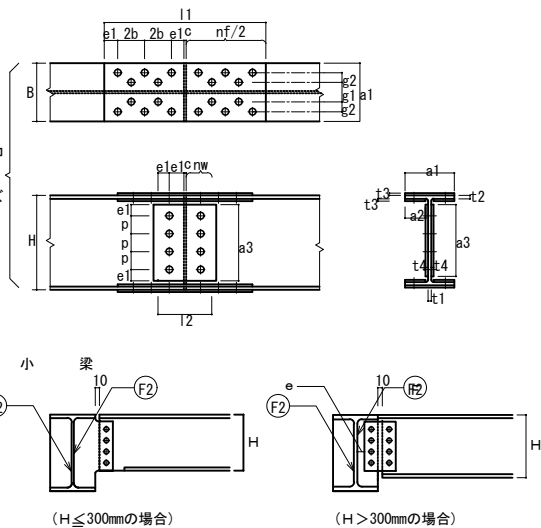
2 縁端距離及びピッチ

H T B	e l	p
M-1 6	3 5	6 0
M-2 0	4 0	6 0
M-2 2		
M-2 4	4 5	7 5

3 千鳥打ちのゲージ間隔

g	b	
	ボルト 径	
	M16 20 22	M 2.4
3 5	5 0	6 5
4 0	4 5	6 0
4 5	4 0	5 5
5 0	3 5	5 0
5 5	2 5	4 5
6 0	—	4 0

フランジ巾 300 シリーズ



(H ≤ 300mm の場合)

(H > 300mm の場合)

- (注) 1 高力ボルトの施工性を考慮して、e > 2.0 とする。
- 2 大梁の仕口部においてピン接合の場合は、この図を準用する。

工事名称 中部中学校給食配膳室等整備工事

株式会社 アスカ 総合設計

三重県松阪市伊勢寺町590-4 一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-1287号

図面名称 鉄骨構造標準図

設計者 一級建築士 第242755号 矢野 孝義

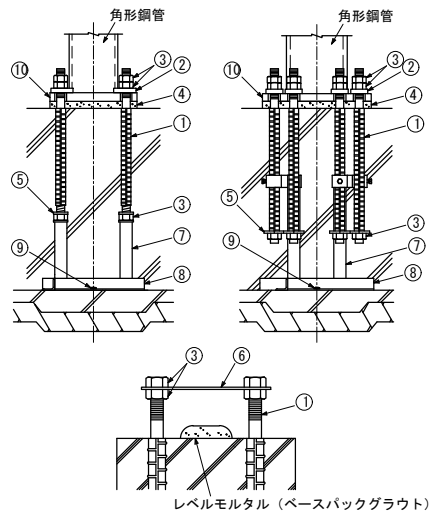
谷川 精一

縮尺 A1: non A3: non

図面番号 S - 04

1. 工法概要

1.1 構成部材

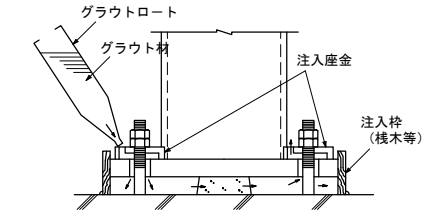


1 アンカーボルト
2 注入座金
3 Mナット
4 ベースパックグラウト(グラウト材)(コンクリートアンカー)
5 定着座金
6 テンプレート

7 フレームポスト
8 フレームベース
9 ステンアンカー
10 ベースプレート

(注)上記 1～⑩の構成部材は「ベースパック」構成部品として供給される。
(注)上記 6～9は現場状況により仕様異なる場合がある。

1.2 柱脚の定着方法概要



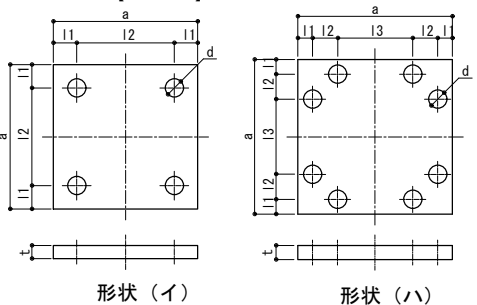
2. 柱

F値(N/mm ²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	
	TSC295	

3. 構成部材・寸法

3.1 ベースプレート

●材質
SN490B【JIS G 3136】

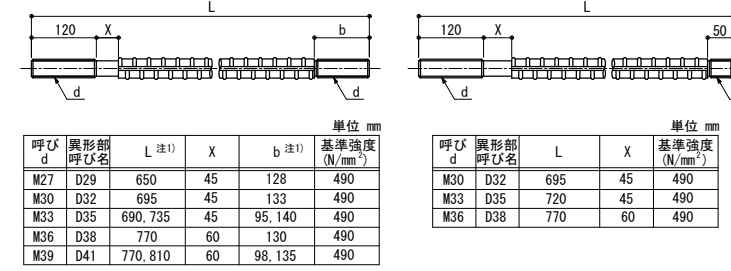


形状 (イ) 形状 (ハ)

3.2 アンカーボルト (Mアンカーボルト)

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

i) アンカーフレーム Aタイプの場合 ii) アンカーフレーム Cタイプ の場合



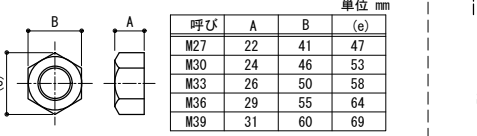
単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L 注1)	X	b 注1)	基準強度(N/mm ²)
M27	D29	650	45	128	490
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690, 735	45	95, 140	490
M36	D38	770	60	130	490
M39	D41	770, 810	60	98, 135	490

注1) 据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

3.3 Mナット

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】



単位 mm

呼び	A	B	(e)
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

3.4 定着座金

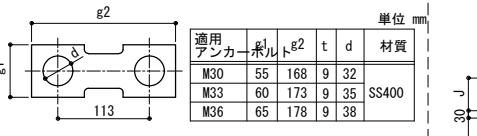
i) アンカーフレーム Aタイプの場合



単位 mm

適用アンカーボルト t	d	材質
M27	55	9 28
M30	55	9 31
M33	60	9 34
M36	65	12 37
M39	80	12 40

ii) アンカーフレーム Cタイプ の場合



単位 mm

適用アンカーボルト t	d	材質
M30	55	168 9 32
M33	60	173 9 35
M36	65	178 9 38

3.5 注入座金

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

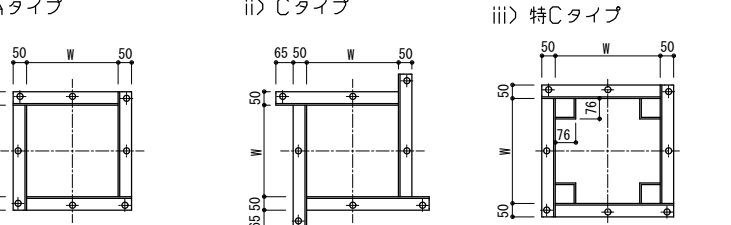


単位 mm

記号	適用アンカーボルト t	c	t	d
PM27	M27	32	42	101 18 28
PM30	M30	32	42	101 18 31
PM33	M33	35	45	110 18 34
PM36	M36	35	45	110 18 37
PM39	M39	38	48	118 18 40

3.6 フレームベース

i) Aタイプ ii) Cタイプ iii) 特Cタイプ



3.7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ(h寸法)はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ(最低h寸法)は下表に記載の値とする。

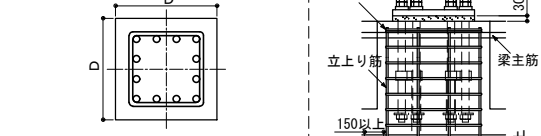
タイプ	最低h寸法 (mm)
Aタイプ	50
Cタイプ※	50
特Cタイプ	50

※杭頭納まり及び配筋状況に合わせて特Cタイプを選択できる。

4. コンクリート柱型

4.1 形状・材質

●形状
形状は正方形とし、寸法は下表に記載の値とする。



単位 mm

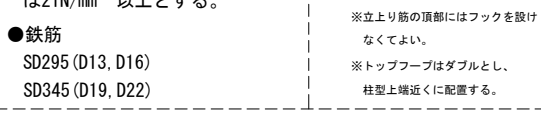
呼び d	異形部呼び名	L	X	基準強度(N/mm ²)
M30	D32	695	45	490
M33	D35	720	45	490
M36	D38	770	60	490

●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm²以上とする。

●鉄筋
SD295 (D13, D16)
SD345 (D19, D22)

4.2 配筋

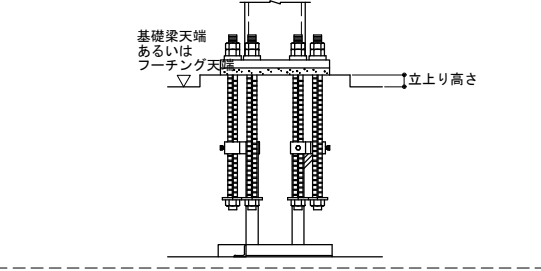
配筋仕様は下表による。



※立上り筋の頂部にはフックを設けなくよい。
※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

4.3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。
※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。



4.4 特記事項

上記内容によらない場合は下記による。

採用

□ 下表標準柱型寸法からの変更あり (「柱型寸法最大・最小値一覧」による)

□ 下表標準配筋仕様からの変更あり

□ 立上り筋に頂部フックが必要

5. 工場製作 (溶接)

■組立

●ベースプレートの中心線(桁が線)に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法 (完全溶込み溶接)

●完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の関与標準 (JASS 6 鉄骨工事 2018年版より)

図	溶接方法	適用板厚 T (mm)		プレート間隔 G (mm)		ルート面 R (mm)		開先角度 α (°)		溶接姿勢
		標準値	許容差	標準値	許容差	標準値	許容差			
被覆アーク溶接	6~	7	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1: 45	-2.5, +∞ (-5, +∞)	下向き		
		9	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1: 35				
ガス溶接	6~	6	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1: 45	-2.5, +∞ (-5, +∞)	下向き		
		7	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1: 35				

許容差
・記号+∞は制限無しを示す。
・2段階きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差(上段:管理許容差、下段:段内:限界許容差)を示す。

■ベースプレートの予熱

●気温(鋼材表面温度)が5℃以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚 (mm)	
		t<32	32≤t≤50
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	予熱なし	50℃
CO ₂ ガスシールドアーク溶接	SN490B	予熱なし	予熱なし

※フラックス入りワイヤによるCO₂ガスシールドアーク溶接の予熱温度は、低水素被覆アーク溶接に準じる。

■検査方法: 溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。

■施工管理: 7. 本工法の施工及び施工管理参照。

6. 工事場施工

6.1 基礎工事

●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6.2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト(フレーム)の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。

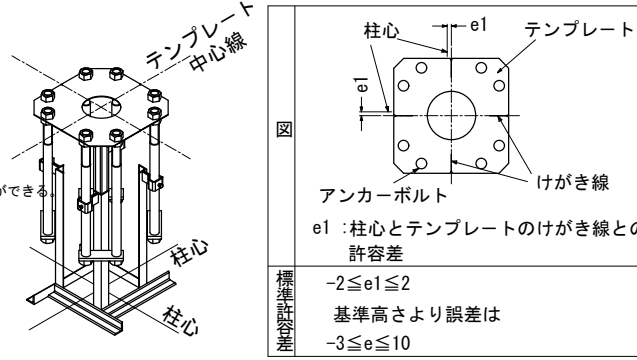


図 標準許容差

e1: 柱心とテンプレートのけがき線との許容差

-2≤e1≤2
基準高さより誤差は
-3≤e≤10

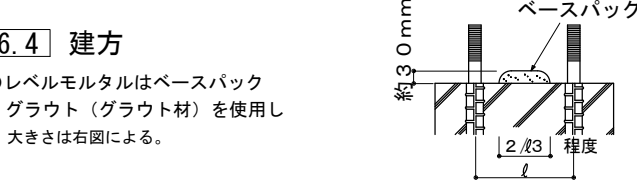
6.3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト(フレーム)との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6.4 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト(グラウト材)を使用し、大きさは右図による。



6.5 アンカーボルトの本締め(弛み止め)

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6.5 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(6kg)に対して、計量カップで1.0~1.1Lの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7. 本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者(元請)の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち 6. 2 アンカーボルト据付け及び 6. 6 ベースパックグラウトの注入は、ベースパック・セレクトベース施工技術委員会によって認定された有資格者(ベースパック施工管理技術者・施工技能者)が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

工事名称
中部中学校給食配膳室等整備工事

図面名称
ベースパック柱脚工法 標準図

縮尺 A1: non
A3: non

株式会社
アスカ 総合設計

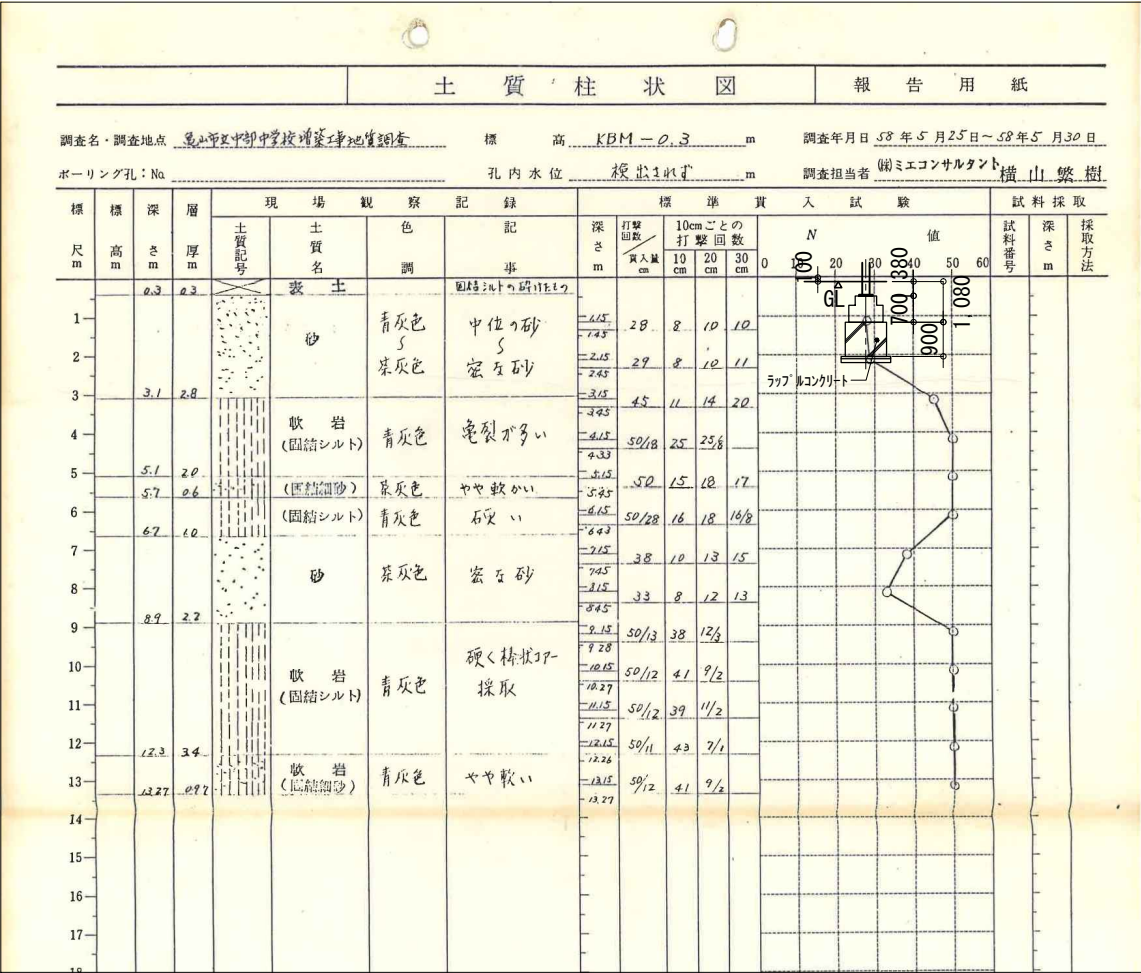
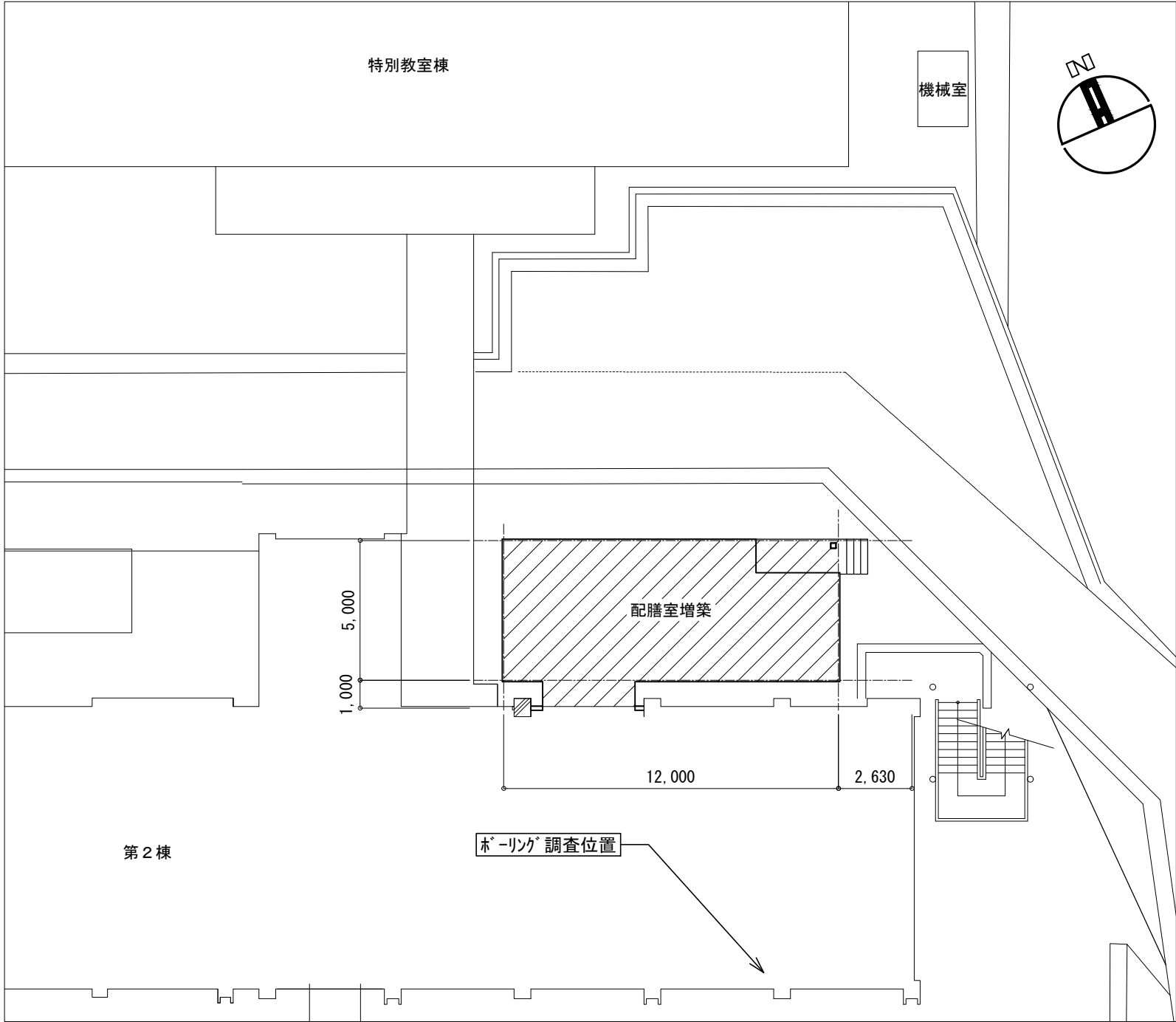
管理建築士
一級建築士
第242755号
矢野 孝義

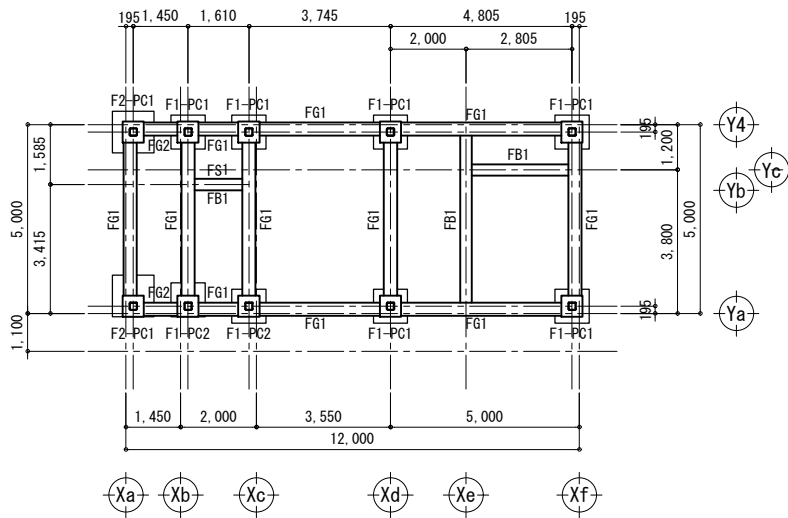
設計者
一級建築士
第00981号
谷川 精一

構造設計者

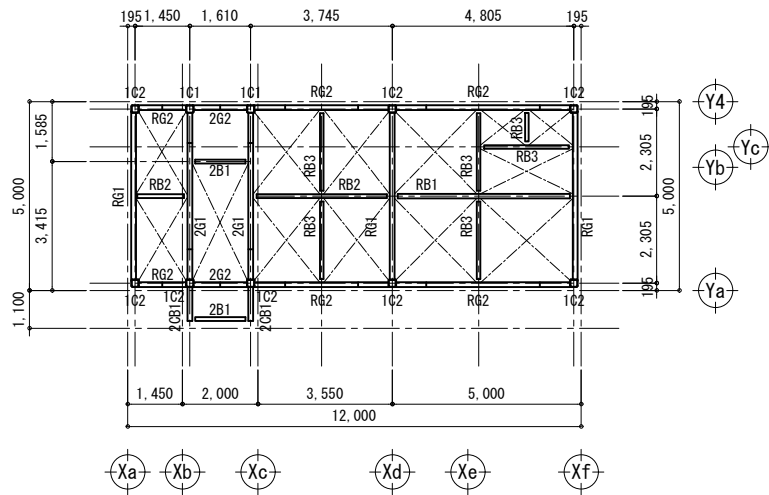
業務年月
(2025)R7年03月
7月6日
2024a011-0325H1

図面番号
S - 05

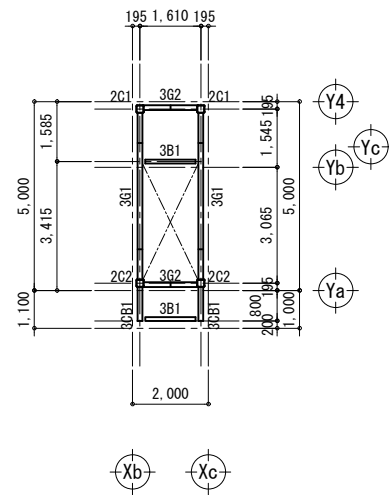




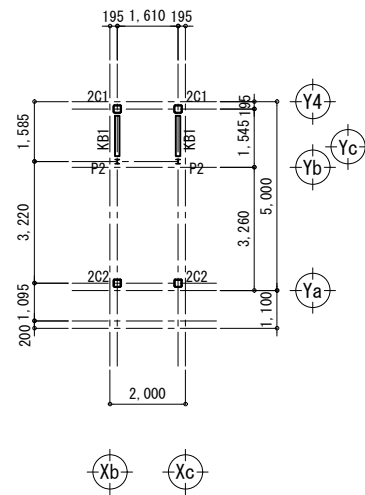
基礎伏図 A1:S= 1/100
A3:S= 1/200



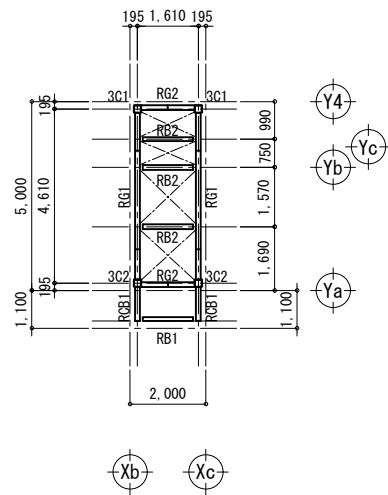
※ブレースは全てM16とする。
2階梁伏図 A1:S= 1/100
A3:S= 1/200



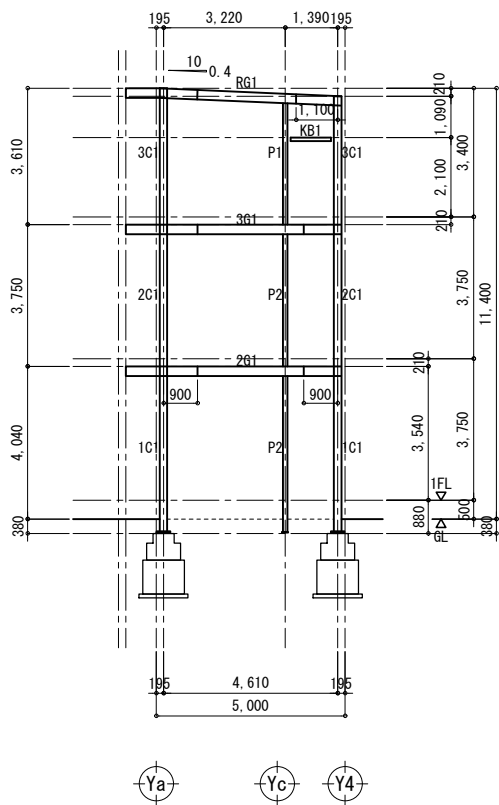
※ブレースは全てM20とする。
3階梁伏図 A1:S= 1/100
A3:S= 1/200



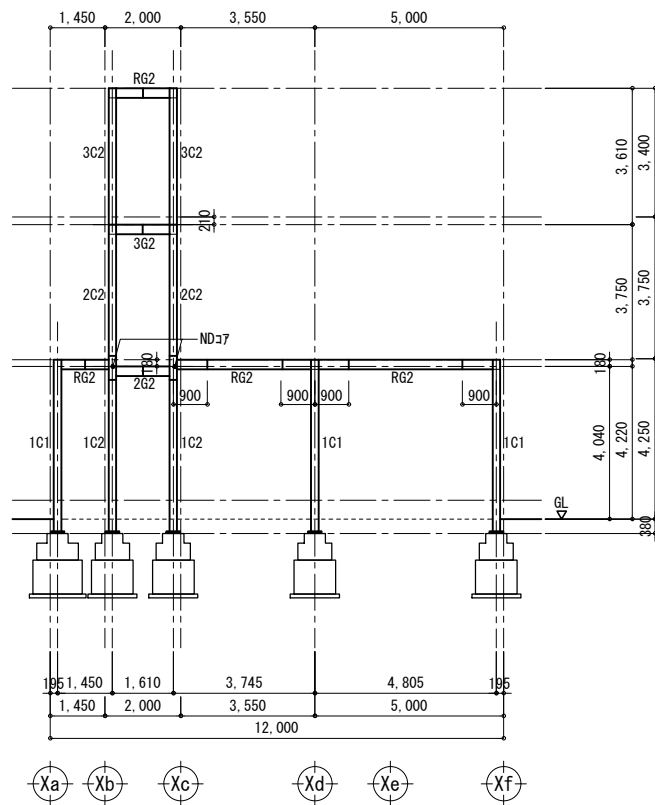
3-R階中間梁伏図 A1:S= 1/100
A3:S= 1/200



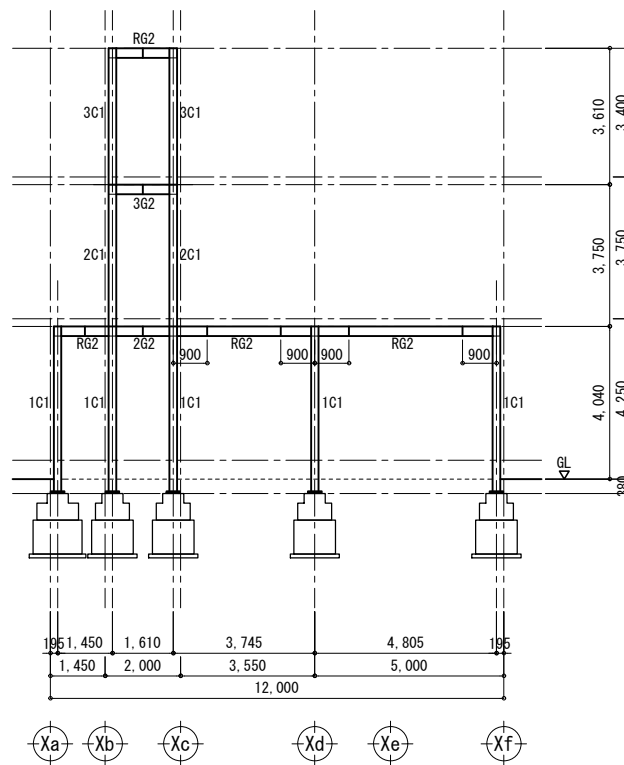
※ブレースは全てM16とする。
R階梁伏図 A1:S= 1/100
A3:S= 1/200



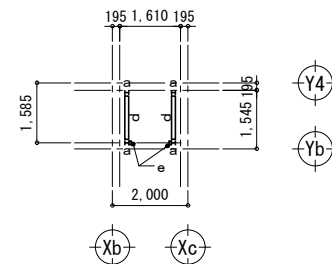
Xc通軸組図 A1:S= 1/100
A3:S= 1/200



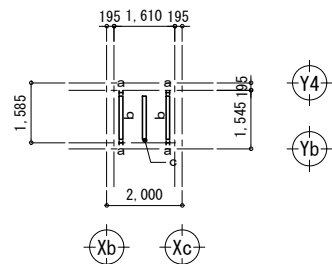
Ya通軸組図 A1:S= 1/100
A3:S= 1/200



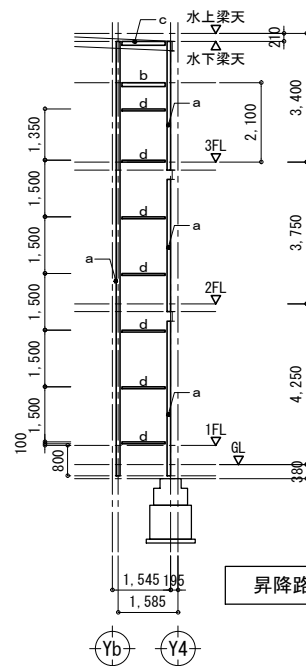
Y4通軸組図 A1:S= 1/100
A3:S= 1/200



昇降路伏図 A1:S= 1/100
A3:S= 1/200



3FL+2100機械室伏図 A1:S= 1/100
A3:S= 1/200

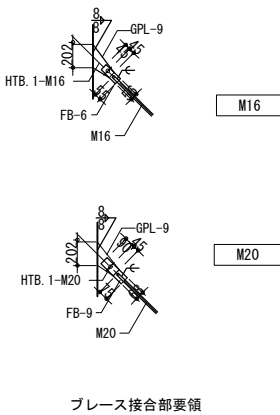


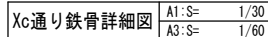
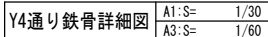
昇降路縦断面図 A1:S= 1/100
A3:S= 1/200

床リスト		土に接するスラブの地業は捨コン50砕石t100とする。			
符 号	版 厚	位 置	短辺方向	長辺方向	備 考
FS1	250	上端筋	D13-@200	D13 @150	1Fスラブ
		下端筋	D13-@200	D13 @150	
S1	150	上端筋	D13-@200	D13 @150	1Fスラブ
		下端筋	D13-@200	D13 @150	

符 号	FG1	FG2	FB1
位 置	全断面	全断面	全断面
断 面			
上端筋	3-D19	3-D19	2-D19
下端筋	3-D19	3-D19	2-D19
あばら筋	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D10-@200
腹筋			
備 考			

符号	部材	継手 仕口				備考
		フランジ		ウェブ		
		プレート	ボルト	プレート	ボルト	
1C1	□-200×200×9 (BCR295)、BP					ｸﾞｲﾔﾌﾗﾑは梁ﾌﾗﾝｼﾞ 厚の+6mm以上 ｸﾞｲﾔﾌﾗﾑの材質はSM490Cとする。 特に支障のある場合を除き ノｽｸﾗｯﾌﾟ 工法を原則とする。 段差梁は原則として通しｸﾞｲﾔと し内ｸﾞｲﾔを使用する場合は 監理者の承認を得る。
2C1	□-200×200×9 (BCR295)					
3C1	□-200×200×9 (BCR295)					
1C2	□-200×200×12 (BCR295)					
2C2	□-200×200×12 (BCR295)					
3C2	□-200×200×9 (BCR295)					
2C2	□-200×200×12 (BCR295)					
3C2	□-200×200×9 (BCR295)					
P1、P2	H-125×125×6.5×9			GPL-9	2-M20	ﾘﾌﾞﾌﾟﾚｰﾄ PL-9
RG1	H-250×125×6×9	PL-12×125	6-M16	PL-6×125	2×2-M16 @90	
RG2	H-250×125×6×9	PL-12×125	6-M16	PL-6×125	2×2-M16 @90	
3G1、3G2	H-250×125×6×9	PL-12×125	6-M16	PL-6×125	2×2-M16 @90	
2G1、2G2	H-250×125×6×9	PL-12×125	6-M16	PL-6×125	2×2-M16 @90	
RB1	H-250×125×6×9			GPL-6	2-M16	
RB2	H-200×100×5.5×8			GPL-6	2-M16	
RB3	H-175×90×5×8			GPL-6	2-M16	
3B1、2B1	H-200×100×5.5×8			GPL-6	2-M16	
RCB1	H-250×125×6×9			GPL-6	2-M16	
3CB1	H-250×125×6×9			GPL-6	2-M16	
2CB1	H-250×125×6×9			GPL-6	2-M16	
KB1	H-200×100×5.5×8			GPL-6	2-M16	
水平ﾌﾞﾚｰｽ	M16 ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ付 ﾋﾞｰﾑ (JIS規格品)			GPL-6	1-M16	
	M20 ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ付 ﾋﾞｰﾑ (JIS規格品)			GPL-9	1-M20	
小荷物専用昇降機部材						
a	H-100×100×6×8	立柱				
b	H-100×100×6×8	機械台受梁				
c	H-100×100×6×8	揚重用ﾋﾞｰﾑ				
d	C-100×50×20×3.2	中間ﾋﾞｰﾑ				
e	C-100×50×20×3.2	三方枠取付鋼材				



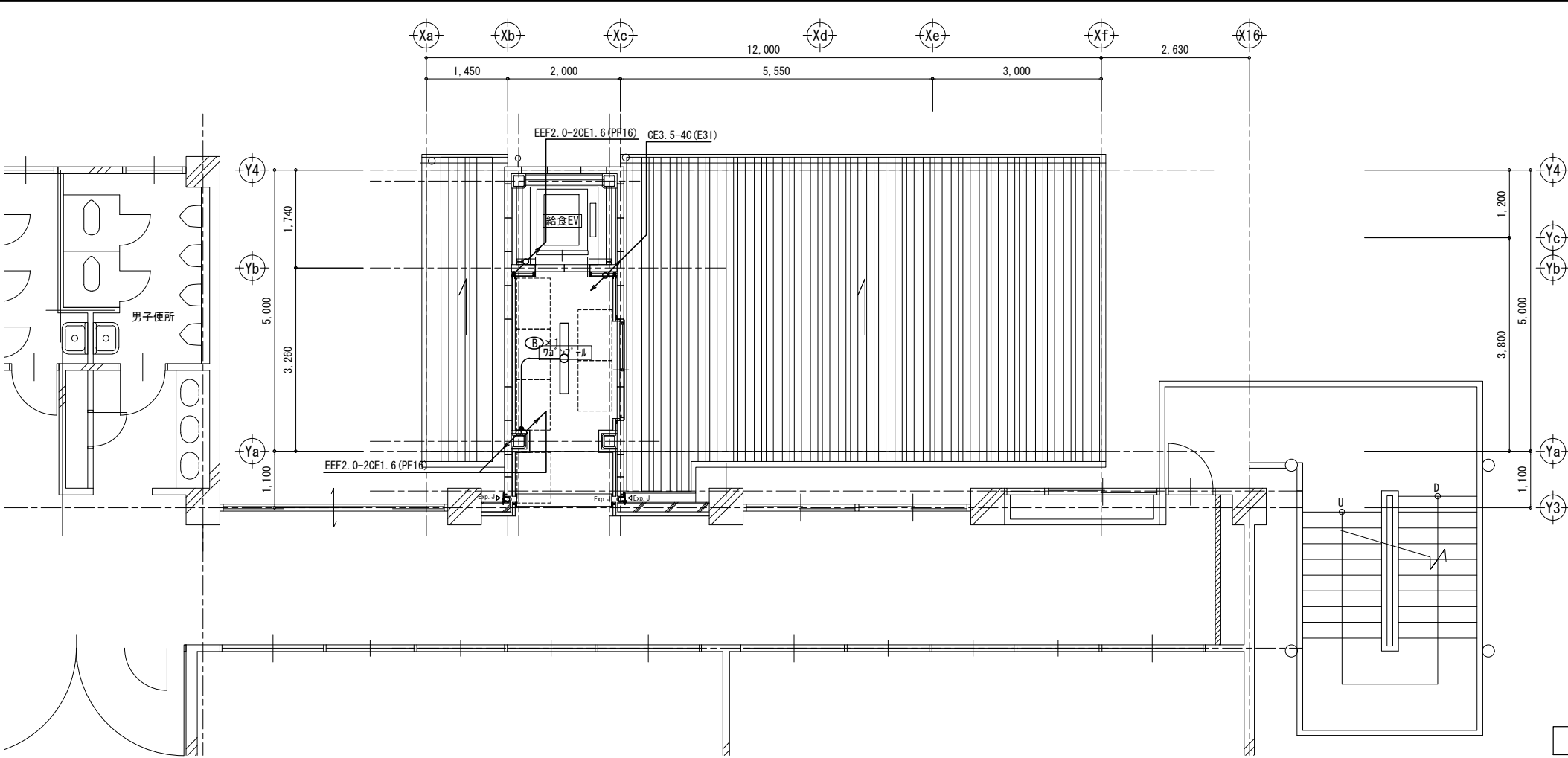


図中に特記なき記号は下記による	
	電灯分電盤
	動力分電盤
	手元開閉器
	LED灯へースライト
●	埋込みスイッチ 1P15A×1
●L	埋込みスイッチ(PL付き) 1P15A×1
●3	埋込みスイッチ 3W15A×1
⊖	埋込コンセント 2P15A×2 接地極・接地端子付
Ⓢ	インターホン モーター付親機 JS-12E相当品
Ⓢ	インターホン カメラ付玄関子機

図中記入なき配線は下記とする	
—	EEF1.6-2CE1.6
—	EEF2.0-2CE1.6
—g	CE8-3C
—	EEF1.6-2C
—	EEF1.6-3C
—	EEF1.6-2C×2

2階 照明器具品番

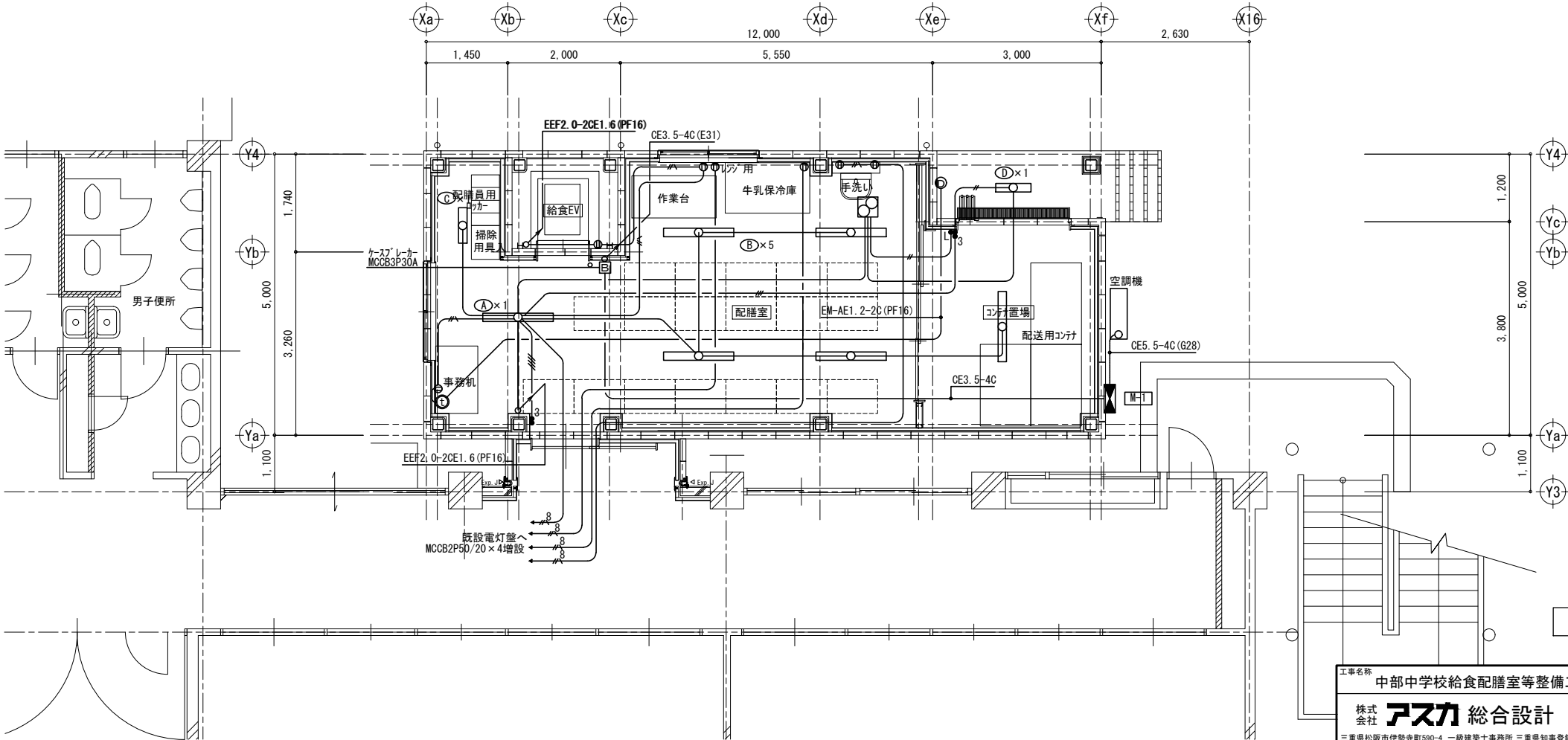
B	ワゴン・ール×1
---	----------



照明・コンセント設備 2階平面図 A1:S= 1/50 A3:S= 1/100

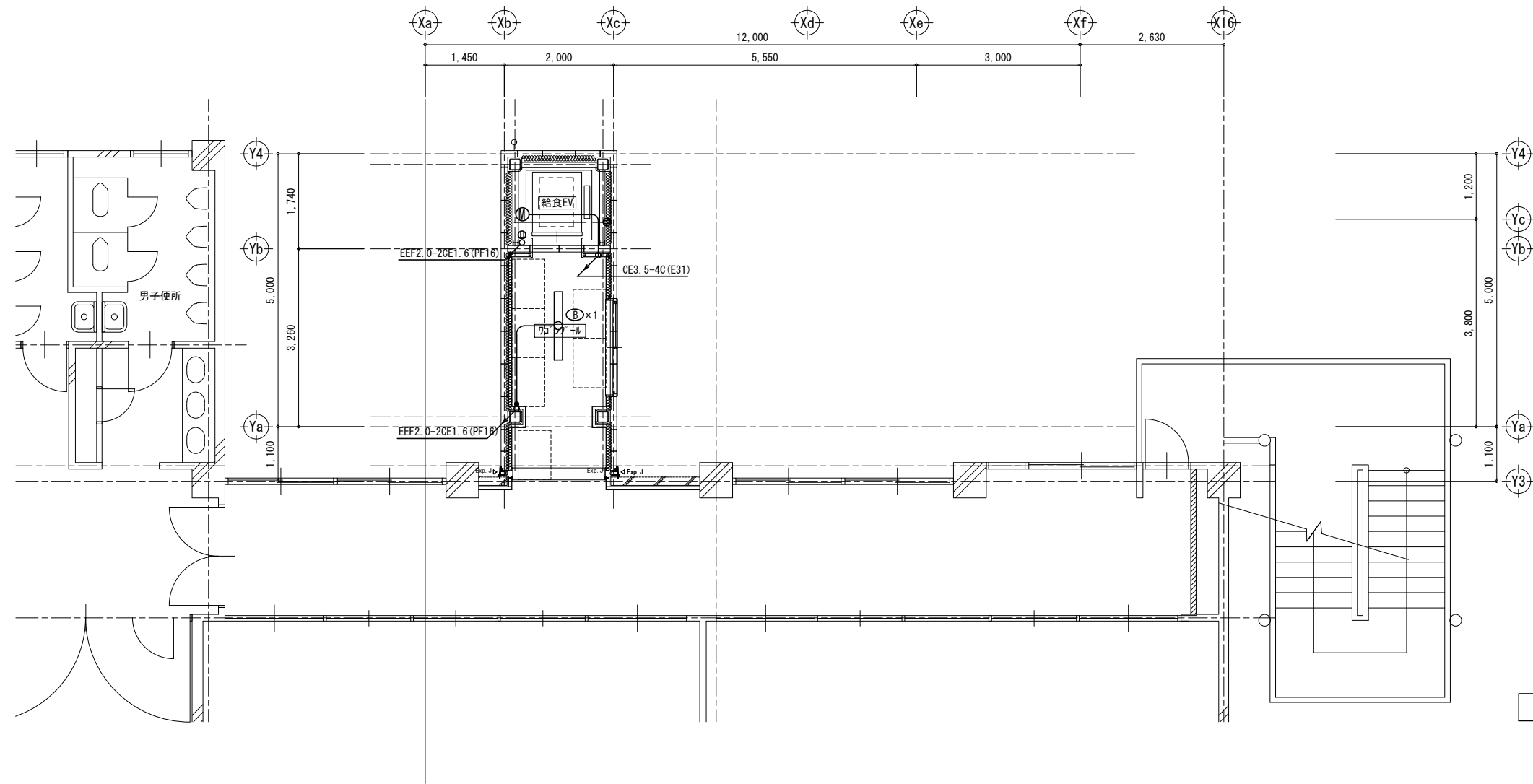
1階 照明器具品番

A	配膳室×1
B	配膳室×5
C	配膳室×1
D	外部×1



照明・コンセント設備 1階平面図 A1:S= 1/50 A3:S= 1/100

図中に特記なき記号は下記による	
	電灯分電盤
	LED灯へースライト
●	埋込みスイッチ 1P15A×1
●L	埋込みスイッチ(PL付き) 1P15A×1
⊖	埋込コンセント 2P15A×2 接地極・接地端子付



3階 照明器具品番

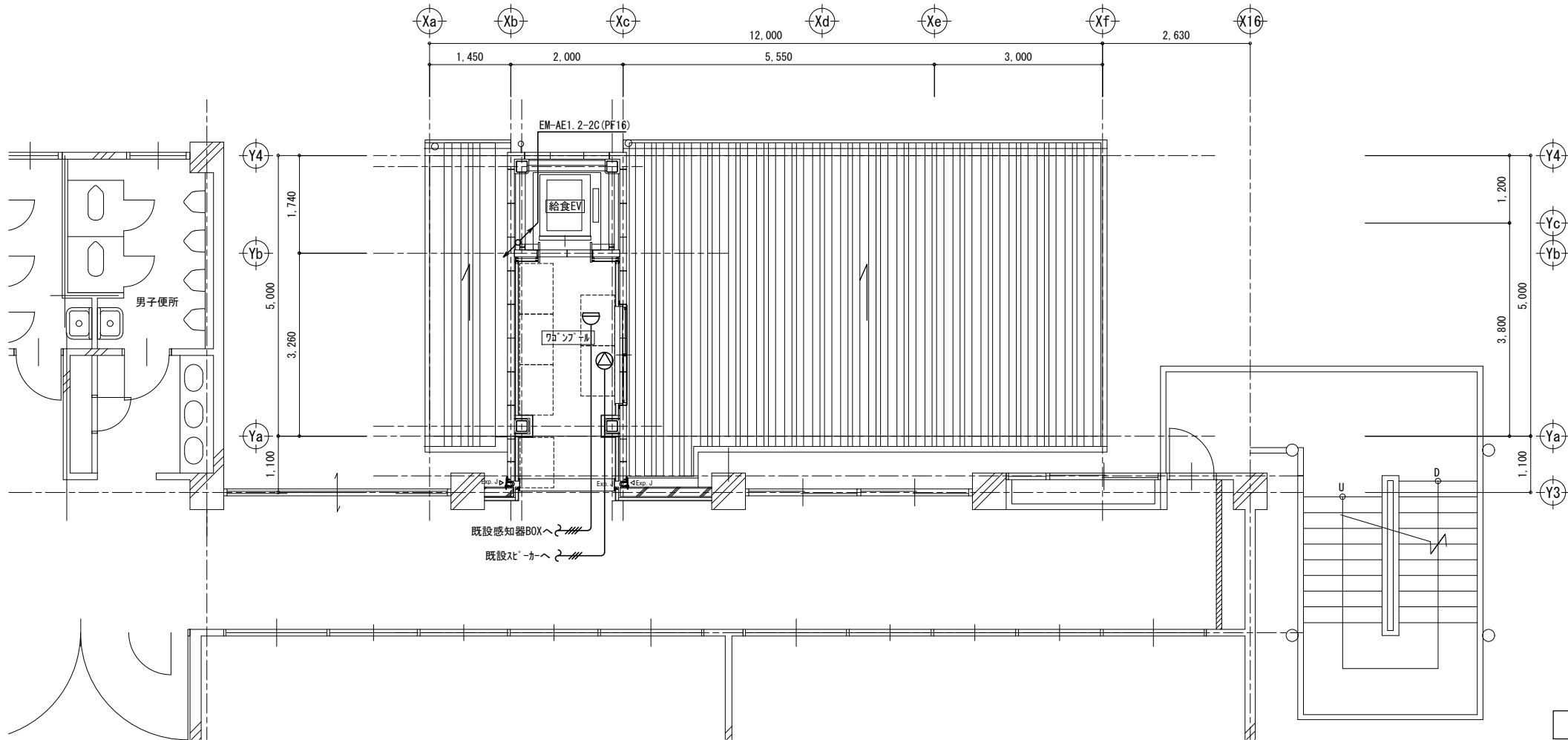
B	ワゴンポール×1
---	----------

照明・コンセント設備 3階平面図	A1:S=	1/50
	A3:S=	1/100

一般タイプ、5200lmタイプ 消費電力31.9W、定格出力型、電圧100~242V 本体：銅板（白色粉体塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白） 光源寿命40000時間（光束維持率85%） 昼白色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵		一般タイプ、3200lmタイプ 消費電力20.6W、定格出力型、電圧100~242V 本体：銅板（白色粉体塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白） 光源寿命40000時間（光束維持率85%） 昼白色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵		一般タイプ、1600lmタイプ 消費電力11.6W、定格出力型、電圧100~242V 本体：銅板（白色粉体塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白） 光源寿命40000時間（光束維持率85%） 昼白色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵		一般タイプ、1600lmタイプ 消費電力11.6W、定格出力型、電圧100~242V 本体：ステンレス（高反射白色粉体塗装） 防湿型・防雨型ライトバー：ポリカーボネート（乳白） 光源寿命40000時間（光束維持率85%）+アクリルコーティング IP23防湿型、昼白色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵	
A LSS9-4-48		B LSS9-4-30		C LSS9-2-15		D LSS9MP/RP-2-14	

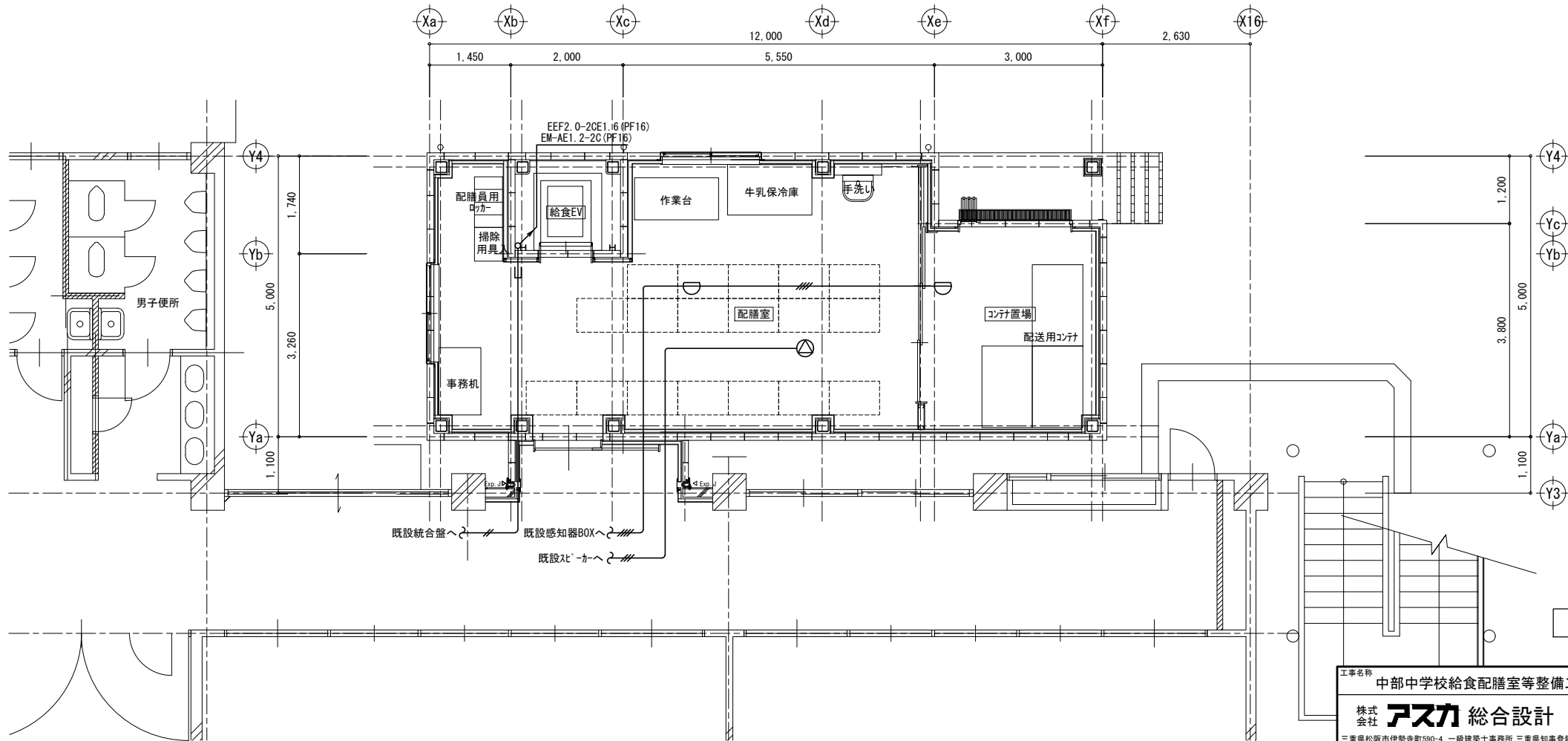
記号	名称
☐	感知器 差動式スホット型2種
☐	感知器 煙2種
⊙	天井埋込スピーカー

図中記入なき配線は下記とする	
———	EM-HP1. 2-3C 拡声設備
———	EM-AE1. 2-2C 自動火災報知設備
———	EM-AE1. 2-4C 自動火災報知設備



自動火災報知設備 2階平面図

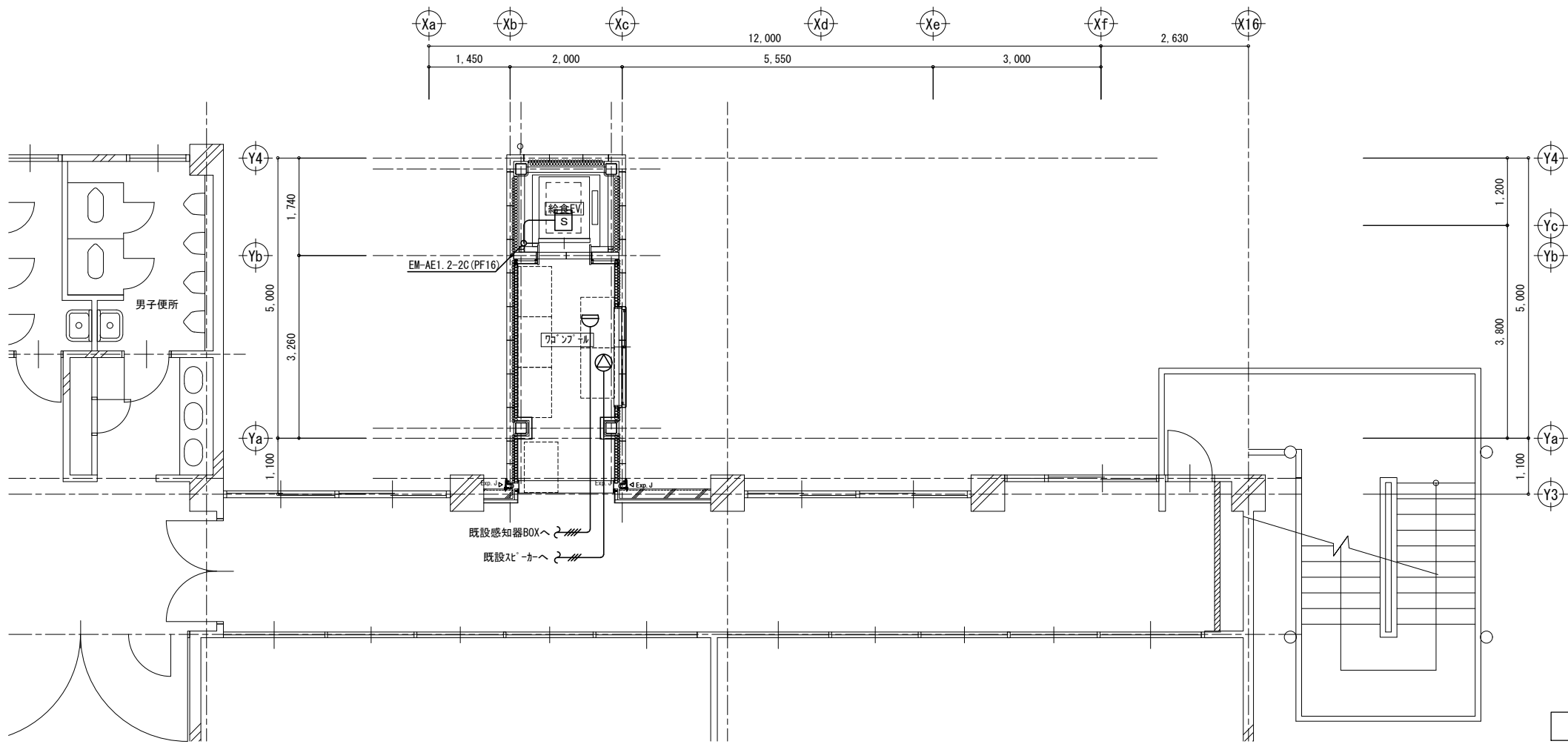
A1:S=	1/50
A3:S=	1/100



自動火災報知設備 1階平面図

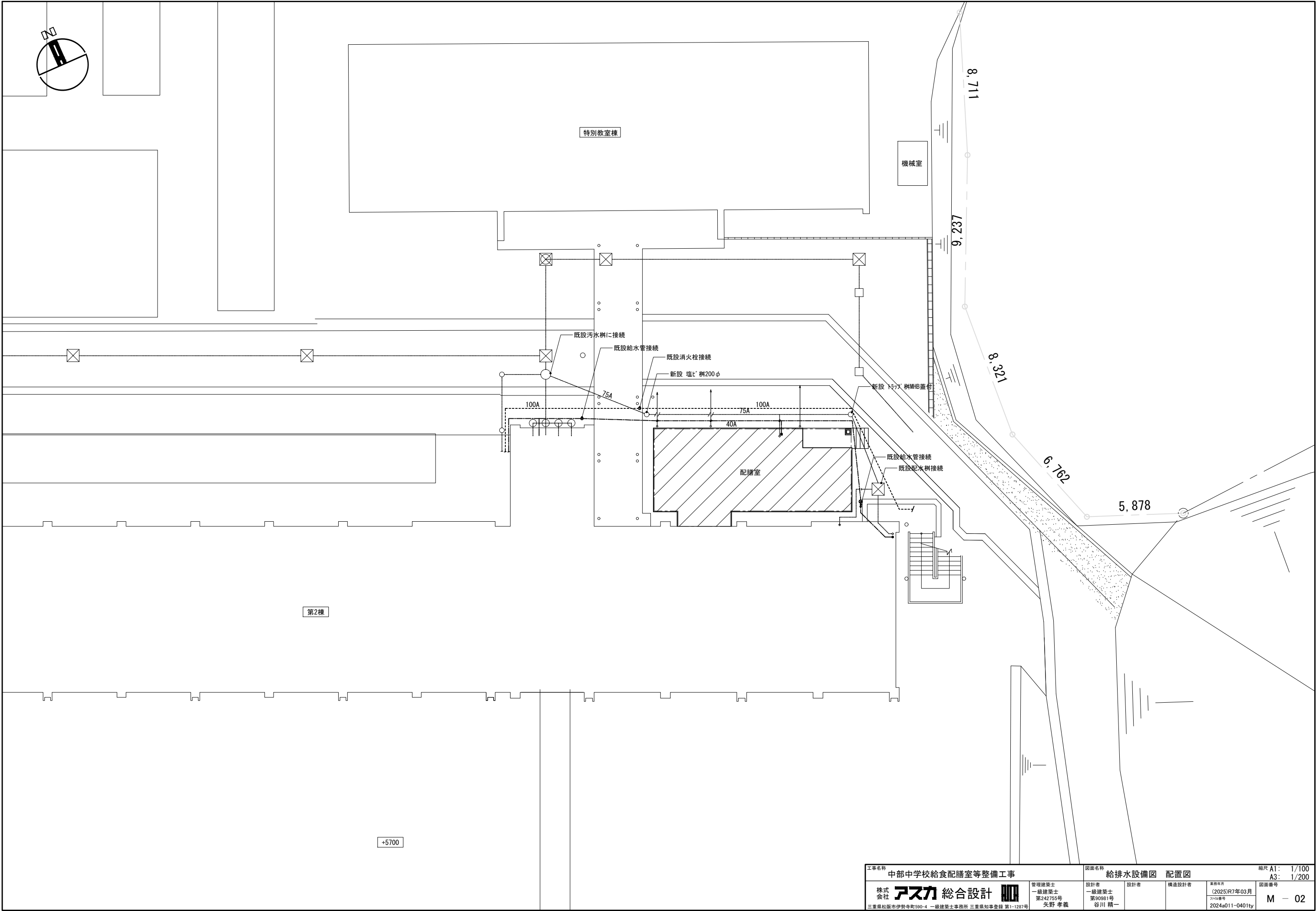
A1:S=	1/50
A3:S=	1/100

記号	名称
☐	感知器 差動式スポット型2種
☐S	感知器 煙2種
⊙	天井埋込スピーカー



自動火災報知設備 3階平面図	A1:S= 1/50
	A3:S= 1/100

機械設備工事特記仕様書 1 工事名称 中部中学校給食配膳室等整備工事 2 工事場所 三重県桑名市田村町75番地、25-1、31-1、92-1、75-1、104-1、長明寺720-9 3 建築概要 配膳室 S造3F 延床面積83.61㎡ 増築 消防令の適用 ※ 項* 4 適用基準 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、以下による 三重県公共工事共通仕様書（令和6年7月制定版） 国土交通大臣官庁庁営繕部監修 「公共建築工事標準仕様書（建築、電気、機械設備工事編）令和4年版」 「公共建築改修工事標準仕様書（建築、電気、機械設備工事編）令和4年版」 「公共建築設備工事標準図（電気、機械設備工事編）令和4年版」 「建築、電気、機械設備工事監理指針 令和4年版」 独立行政法人 建築研究所監修 「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」 なお、以下において選択する事項は、■印のついたものを適用する。 5 一般事項 工事の詳細については、本設計図面及び仕様書による他、上記各適用基準に準拠し、監督員指示の下に 念かつ誠実に施工すること。 設計図書に定められた内容、現場の納まり・取り合い等の不明な点や施工上の困難・不都合、図面上の誤記及び記載漏れ等に起因する問題点及び疑義、設計図書とおりに施工することで得る不具合が発生するものと判断される場合については、その都度、監督員と協議すること。なお設計図書と通りの施工であっても使用上の不具合が発生した場合は協議の上、改善策を講じること。 他工事との取り合いについては予め当該工事関係者間において協議し、円滑な工事進捗に努めること。 なお調整不足による悪影響な仕上がり不備や不具合が発生した場合は監督員の指示により手直し施工を行うこと。 (1) 提出図書 1) 工事書類： ・施工計画書 ・打合記録 ・工事材料搬入報告書 ・工程表 ・試験結果・施工結果報告書（出来形・品質確認書類） ・機器明細図 ・使用機材届出書 ・段階確認書 ・工事写真（データ）等 2) 工事完成図書： （各2部） ・完成図（竣工図） ・施工図 ・機器完成図（ファイル等） ・保守に関する説明書（取扱説明書・保証書） ・機器性能試験成績書 ・総合試運転調整報告書 ・官公署届出書類控、検査済証 ・出来形確認書類 等 ※ 竣工図・施工図はCADにより作成すること。 ※ 工事書類は営繕工事に係る電子納品マニュアル（デジタル工事写真編、工事完成図書編）に基づき電子納品（3部）すること。 ※ 工事写真は営繕工事写真撮影要領（国土交通大臣官庁庁営繕部監修（令和5年版））に従い撮影すること。 なお、デジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について（令和5年3月1日付付国営建技第14号）」による。 ※ 建築包含工事の場合、監督員に確認のこと。 ※ 完成図作図範囲は設計図面同程度とする。 (2) 機器及び材料等 工事に使用する機器及び材料等については、予め使用機材届出書（メーカーリスト）、機器明細図、現品、カタログ、その他諸資料を事前に届け出ること。 なお、図面に記載の品番は、参考品番として便宜上メーカー品番を使用しているため、メーカー選定にあたっては、同等品以上の性能を有するものとする。また、図等による環境物品等の調達推進に関する法律（グリーン購入法）を考慮し、再生品などの環境に優しい（環境物品）の調達に努める。また、重量機器については、機器搬付要領・耐震計算書もあわせて提出すること。 (3) 官公署等への届出手続 工事に伴う関係官公署への必要な諸手続きは、受注者が滞滞なく行い、これに要する費用も負担する。 1) 消火器に係る消防用設備等設置届出書の作成 ※ 本工事 〇建築工事・電気設備工事・機械設備工事 ・別途工事 2) 防火対象物使用開始届出書 書類の作成（機械設備図面の作成及び機械設備に関する部分の記入）を行うこと。 (4) 品質管理 工事施工に関して、着手前・施工中・施工後の自主検査を実施すること。 チェックリスト等を作成し、管理を行うこと。 (5) 出来形管理 以下の項目について、出来形管理の対象として管理を行うこと。 1) 各種機器据付 耐震強度（設計標準震度、アンカーの種類・サイズ確認、埋め込み深さ） 基礎寸法 水平、垂直等 2) 配管・ダクト工事 支持間隔 振れ止め支持間隔 3) 屋外排水工事 排水勾配 樹の深さ 4) 水栓、リモコンスイッチ類の取付高さ (6) 製品確認 発注者、受注者において仕様を決定し、製作するような規格品ではない製品については、試験・検査等を行う機器が整備された施設内において、監督員等が製品の確認を行うものとする。 □ 適用する ■ 適用しない (7) 耐震安全性の分類 構造体（Ⅱ）類 建築非構造部材（A）類 建築設備（乙）類 (8) 機器の地震力（主要機器） 機器名 ガスヒートポンプエアコン屋外機 設置階（上層階） 設計標準震度Ks（2.0） 地域係数（1.0） 水槽類 設置階（ ） 設計標準震度Ks（ ） 地域係数（1.0） その他監督員が指示するもの (9) 冷媒（フロン類）の回収 □ 適用する ■ 適用しない 冷凍機等の撤去に伴う冷媒の回収方法は、改修標準仕様書第3編 2. 4. 3により、次の書類の写しを監督員に提出すること。 ・フロン回収行程管理票 ・特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券） 撤去する前にフロンを屋外機ユニットに集約する作業（ポンプダウン）を行うこと。 パッケージ形空調機の移設等により、冷媒の回収が必要となる場合においても、上記に準じて冷媒の大気中への飛散を防止する措置を講じること。 (10) 中間技術検査 実施回数（ ）回 実施する段階（ ）	(11) 足場等 ■ 別契約の関係受注者（下請け工事の場合は元請け）が設置したものは無償で使用する。 □ 本工事で設置する。 足場を設ける場合には、「手すり先行工法等に関するガイドライン」によるものとし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の（2）手すり据置方式又は（3）手すり先行専用足場方式により行うこと。 公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）第1編 2. 2. 1より足場の種別は以下による。 □ 内部足場（ □ A種 □ B種 □ C種 □ D種 □ E種 □ F種 □ G種） □ 外部足場（ □ A種 □ B種 □ C種 □ D種 □ E種 □ F種） □ 防護シート 設置範囲 □ 工事に必要な期間 □（ ） 高さが5m以上の箇所での作業を行う場合、労働安全衛生規則の各規定により使用する要求性能基準制用器具はフルハーネス型とし、「基準制用器具の規格」（平成31年1月25日厚生労働省告示第11号）によるものとする。 (12) 特定建設資材の再資源化等 ■ 本工事は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年5月31日法律第104号。以下「建設リサイクル法」という。）施行令で定める建設工事の規模に関する基準によりの上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。 工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督員と協議するものとする。 1) 分別解体等の方法 工 程 作業内容 分別解体等の方法 □ 新 築 建築設備工事 ■ 有 □ 手作業 □ 修 繕 □ 無 ■ 手作業、機械作業併用 □ 模様替え 2) 再資源化を図る特定建設資材（ ■ コンクリート塊 ■ アスファルトコンクリート塊 □ 建設発生木材（ ） (13) 発生材の処理等 1) 引渡しを要するもの（ ） 上記以外の引き渡しを要するものについては別途、監督員が指示する。 2) 特別管理産業廃棄物（ ） 処理方法（ ） なお施工に際しては、廃石綿等特別管理産業廃棄物及びびびわしき機器等が発生した場合は、監督員に報告し対応を協議するものとする。 3) 建設発生土（ □ 構内敷きならし □ 処分地指定 処分地（ ） ■ 処分地未定につき相互協議する。暫定運搬距離（4.0）km。（ ） 4) 現場内において再利用を図るもの（ ） □ 建設発生木材（ ） 5) 再資源化を図るもの（ □ コンクリート塊 □ アスファルトコンクリート塊 □ 建設発生木材（ ） 6) 発注者へ引き渡すものについては「現場発生品調査」を提出すること。また再利用を図るものについても調査を作成し、監督員へ提出すること。 7) 引渡しを要しないものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令によるほか、「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切処理し、監督員に報告すること。 (14) 電気保安技術者 ■ 配置する □ 配置しない (15) 施工条件 監督員及び依頼部局と協議調整し決定すること。 1) 施工可能日 ■ 一部に土、日曜日、祝祭日施工あり □ 指定なし 2) 施工可能時間帯 ■ 指定なし □ 指定あり（時 ～ 時） (16) 概成工期 建築物の使用を想定して概成試験調整を行ううえで、契約書に基づく関連工事及び設計図書に明示された他の発注者の発注に係る工事を含めた各工事が支障のない状態で完了していること。 □ 指定なし ■ 指定あり（ 工事期日の30日前 ） (17) 仮設工事 1) トイレ □ 利用できる ■ 利用できない 2) 工事用水 □ 利用できる（有償） □ 利用できる（無償） ■ 利用できない 3) 工事用電力 ■ 利用できる（有償） □ 利用できる（無償） □ 利用できない ※ 本工事で新規受電または既設電気回路に接続し通電した時から工事に起因する電力料金は本工事に含まれる。 (18) 建築材料
--	---



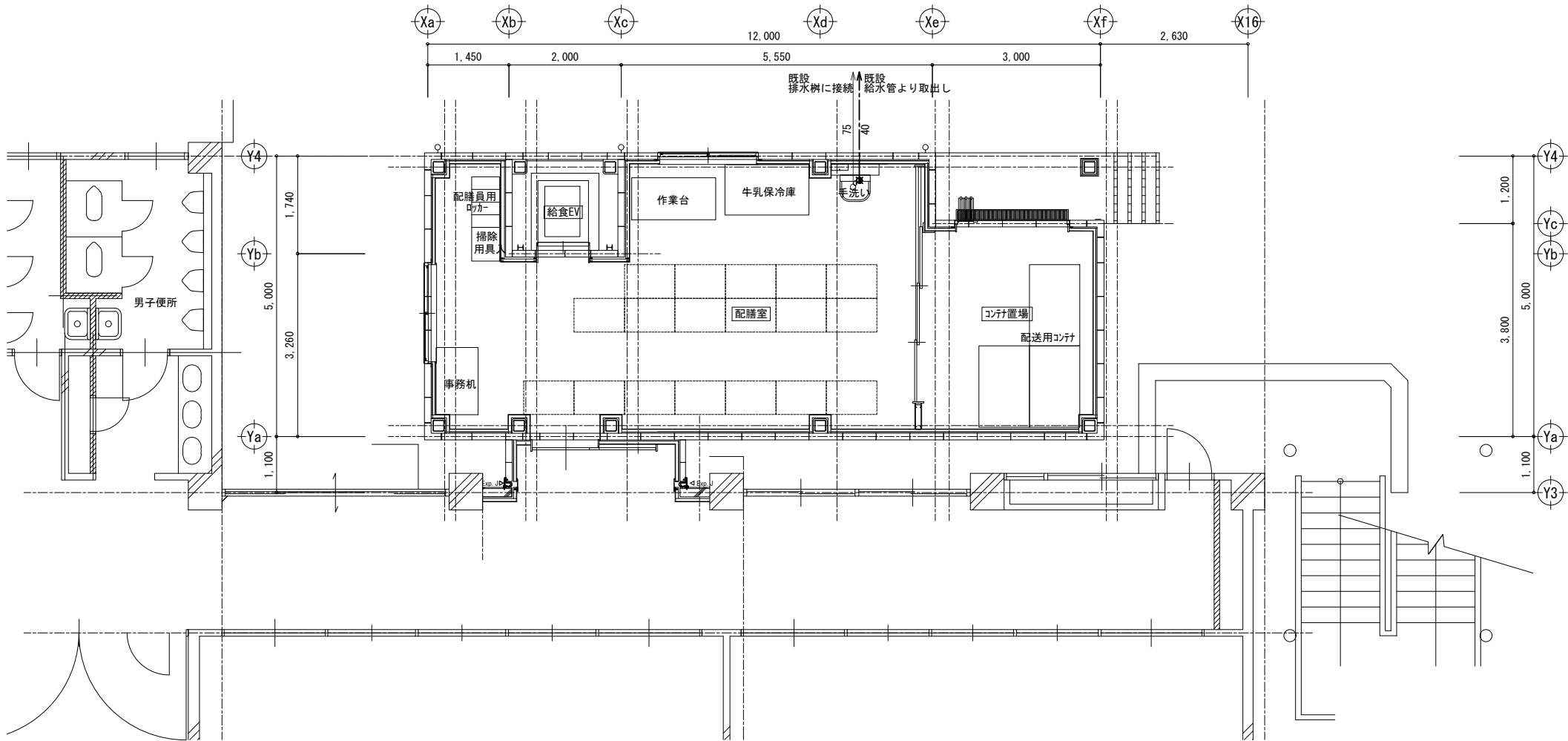
工事名称 中部中学校給食配膳室等整備工事			図面名称 給排水設備図 配置図			縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	
株式会社 アスカ 総合設計		管理建築士 一級建築士 第242755号 矢野 孝義	設計者 一級建築士 第90981号 谷川 精一	設計者	構造設計者	業務年月	図面番号 M - 02
						(2025)R7年03月	
						7716番号 2024a011-0401ty	
三重県松阪市伊勢寺町590-4 一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-1287号							

凡 例

記 号	名 称
———	給 水 管
-----	通 気 管
———	排 水 管
□	給 水 栓

衛生器具表

名 称	品 番	数量	設置場所	備 考
スタッフ用手洗器(以下セット)	MRS104CPN	1	1F 配膳室	
自動水栓電温一体型				
排水金具				
電気温水器3L壁掛				
止水栓				
連結管				
ヘアードライヤー	YKT300MN	1	1F 配膳室	
化粧鏡	YM4560F	1	1F 配膳室	
* 機器器具は参考とし、現場にて対応すること 個数等(図面)確認し、監督確認の上最終決定とすること。				
* 洗面、カウンター等取付用の補強は本工事とすること。				



給排水設備 1階平面図

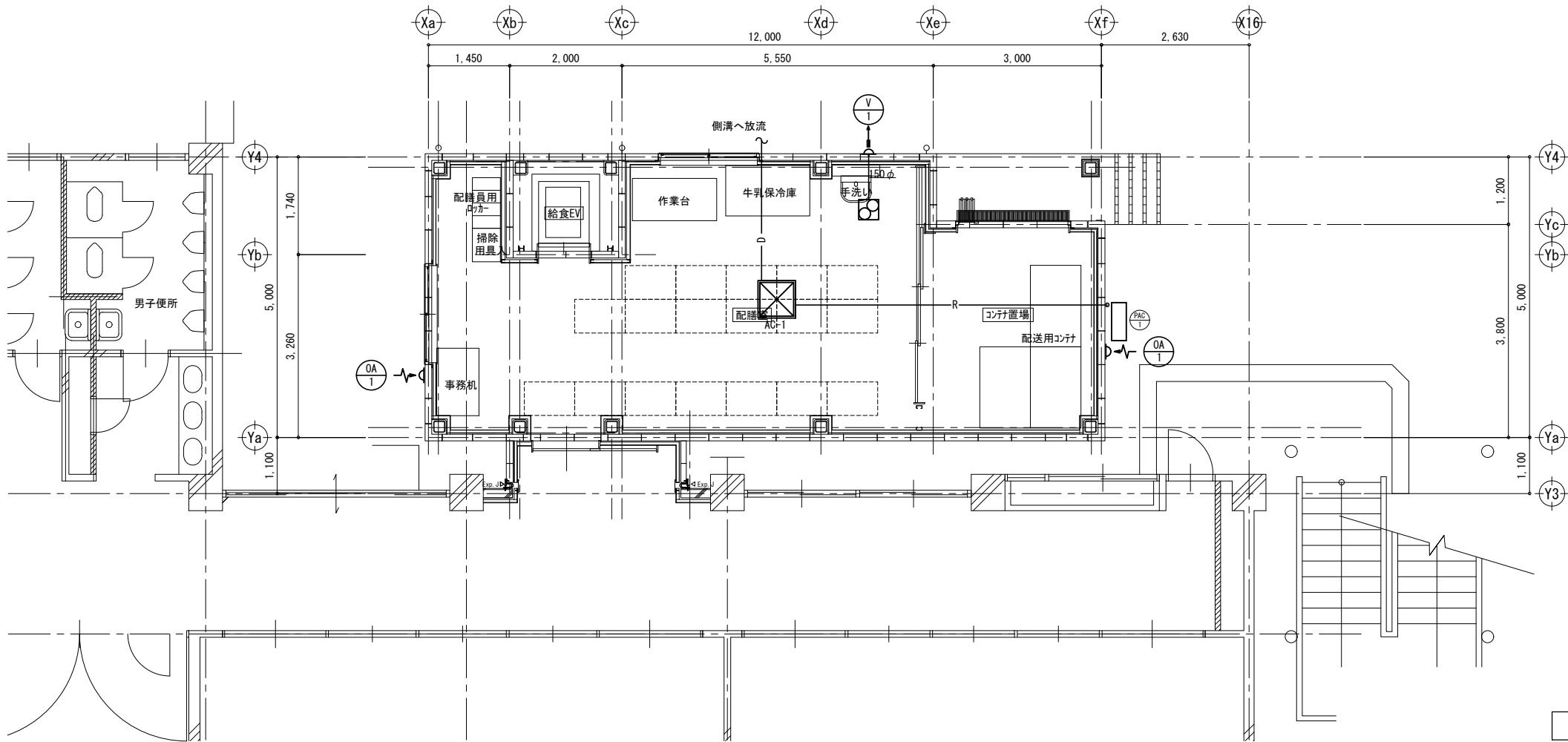
A1:S= 1/50
A3:S= 1/100

空調和設備機器

機器番号	機器名称	形式・仕様	電気容量		
			電源 (V)	圧縮機 (kw)	消費電力 (kw)
AC-1	パッケージエアコン	形 式 天カセ4方向	3-200	1.95	冷 2.47
		冷房能力 定格 10.0 (2.5~11.2) kW			暖 2.35
		暖房能力 定格 11.2 (2.8~14.0) kW			低温 4.1
		付属品 化粧パネル、リモコン、他一式共			
		基 礎 タイラー舗装(防振ゴム敷設)			

換気設備機器

V-1	天井換気扇	OA-1	給気口
	低騒音形150φ		壁付 レジスター 200φ
	350m ³ /min		ブラッシュ式風量調整、ネットフィルター付
	SUS深形フード 共		



空調・換気設備 1階平面図

A1:S=	1/50
A3:S=	1/100